

541

190

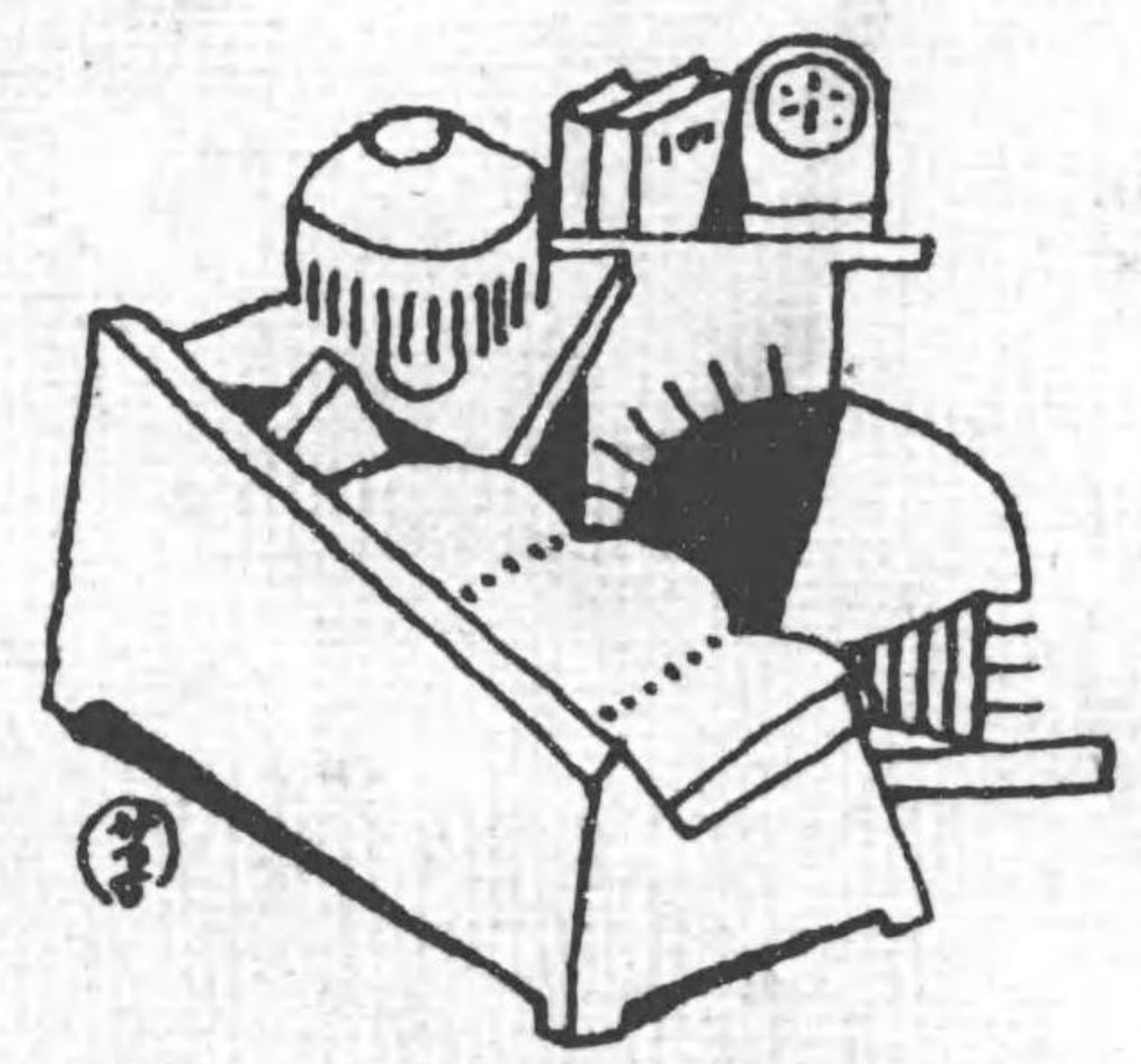
6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 6

始



7
110

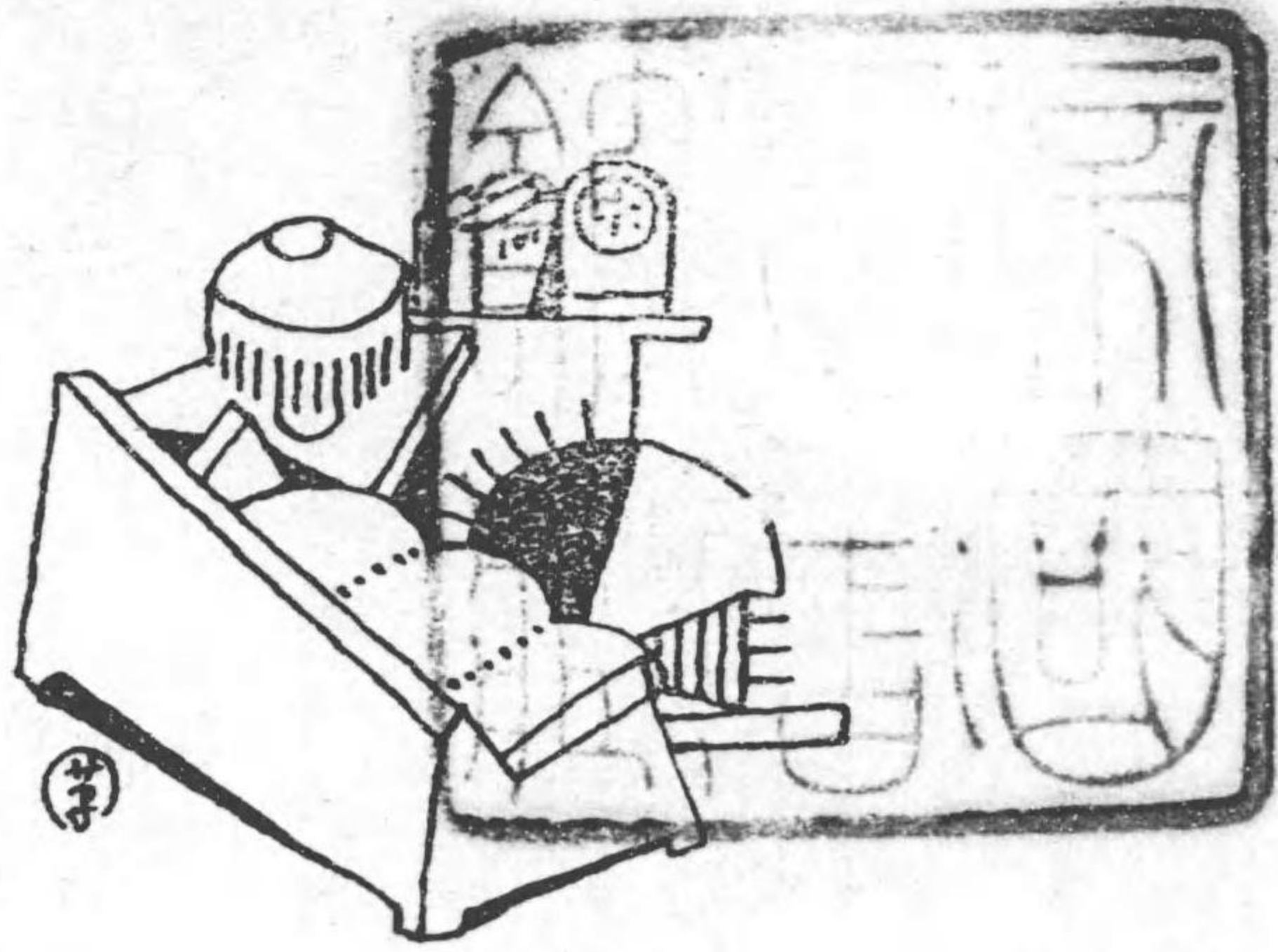
54
19



住宅を新築せんと

する人の爲に

SK



別

住宅を新築せんと

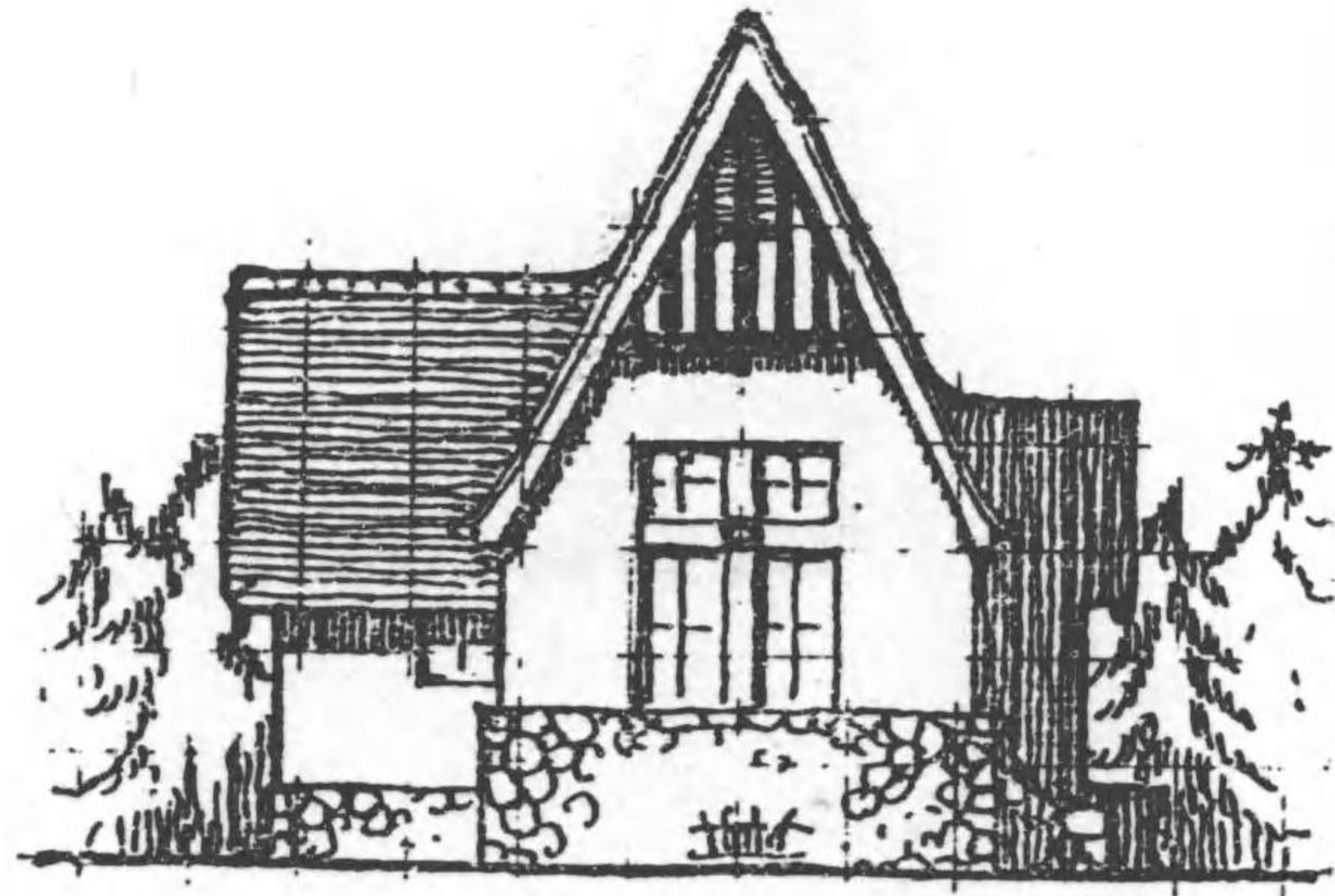
する人の為小

SK

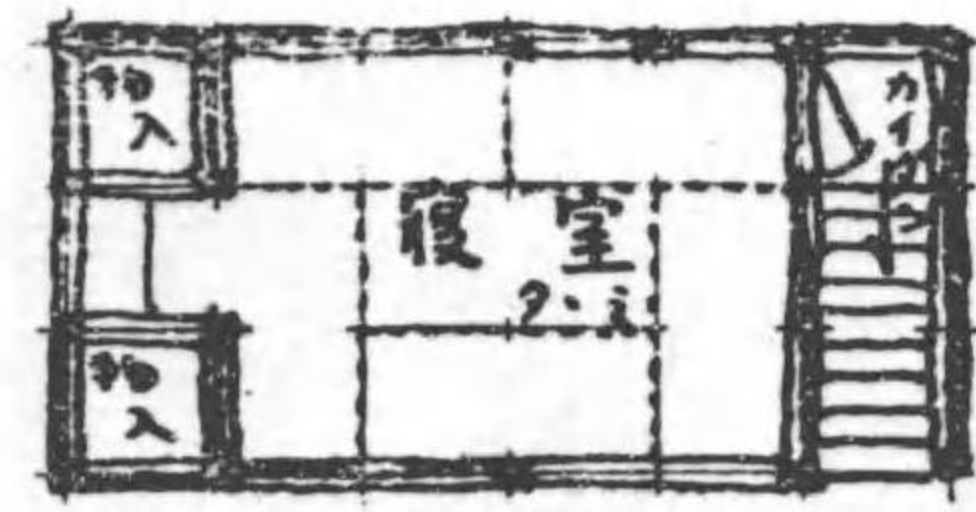
大正
14. 9. 8
内交

簡易住宅の案 其壹

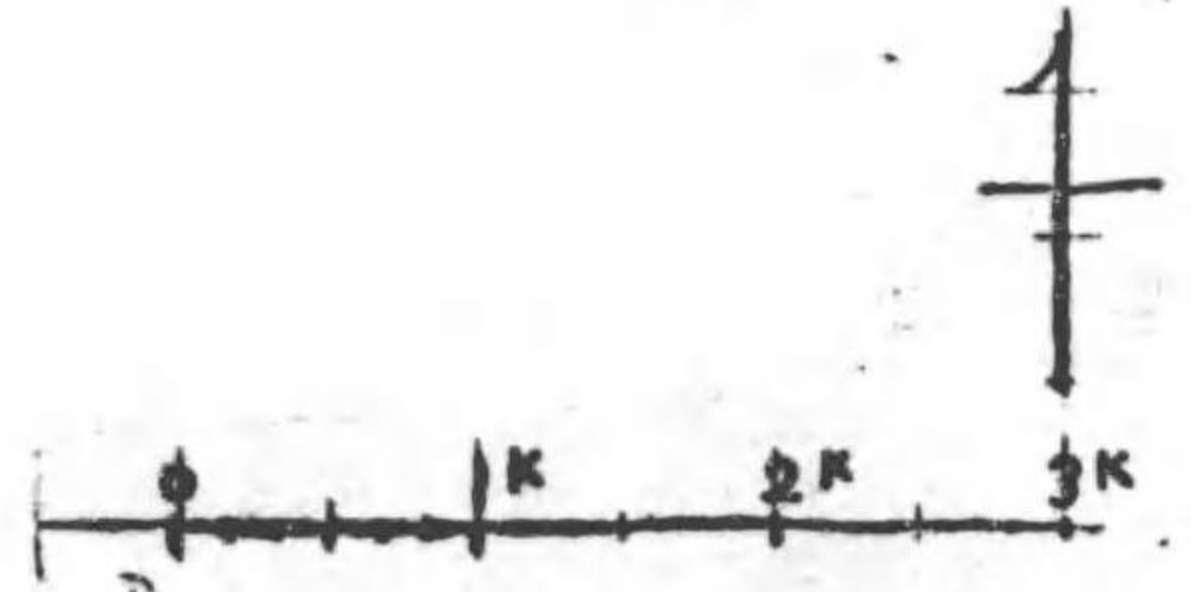
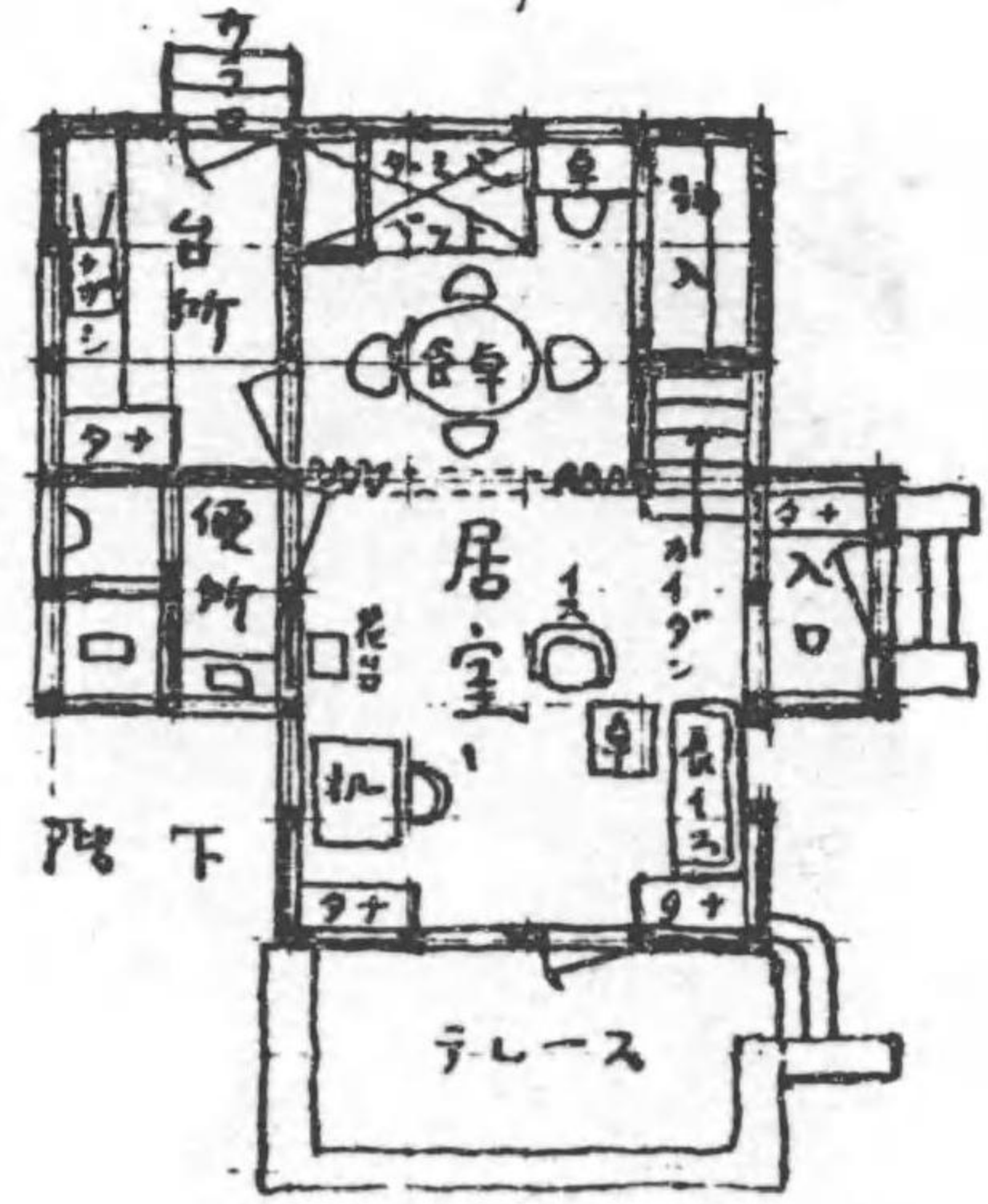
計 二階下 十四坪五
 外ニテレリス 十四坪五
 二坪



正面

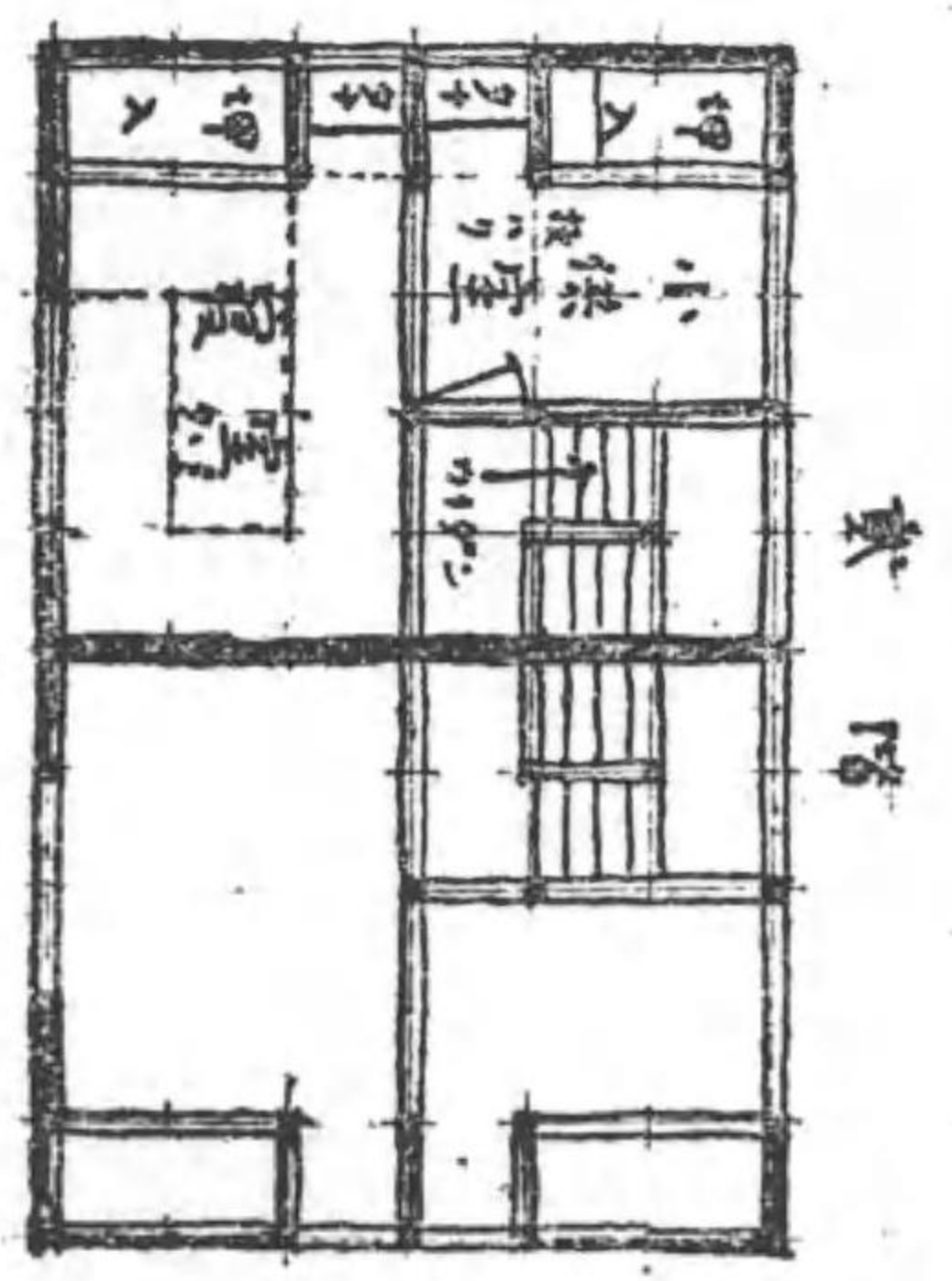
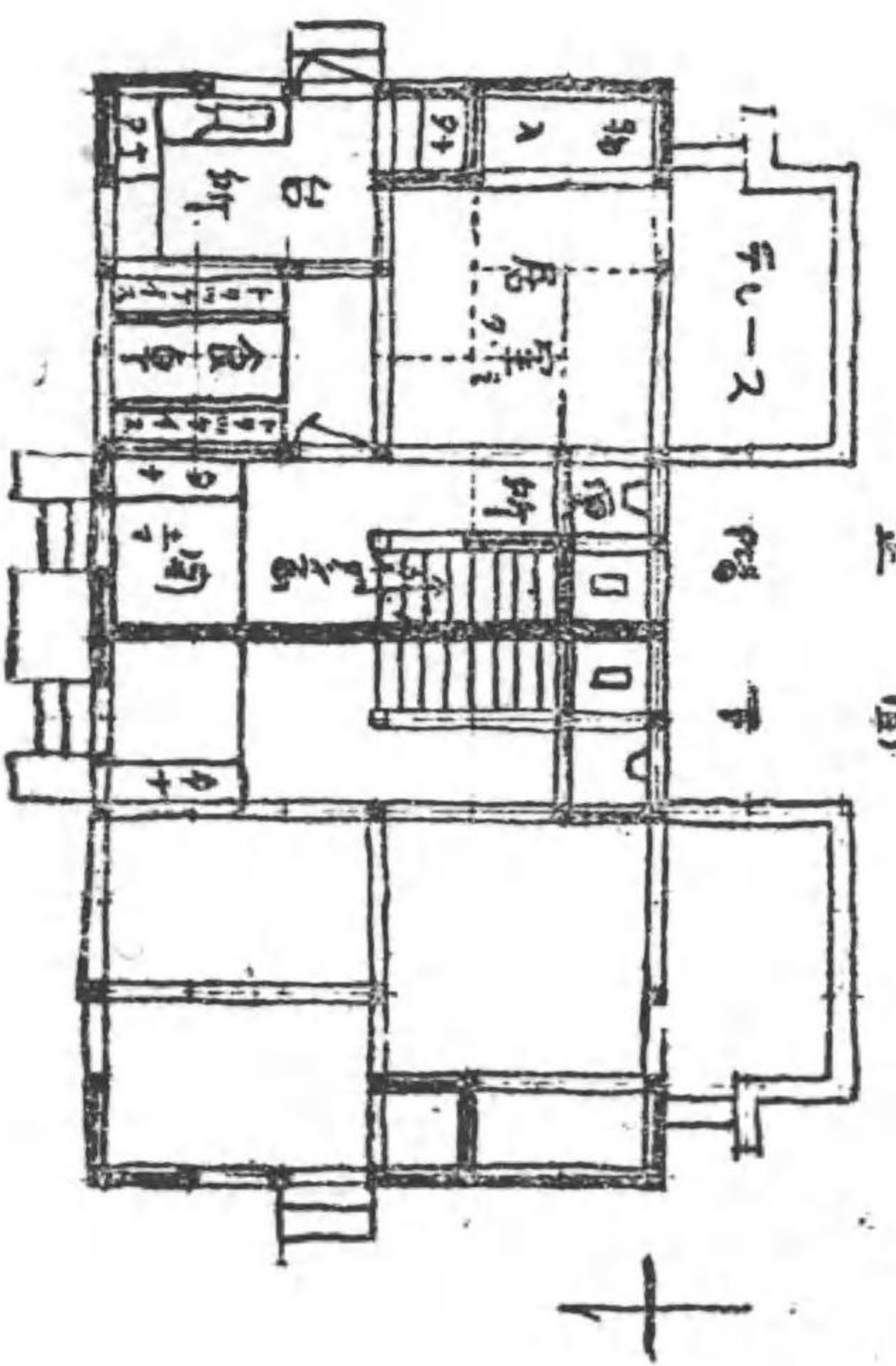
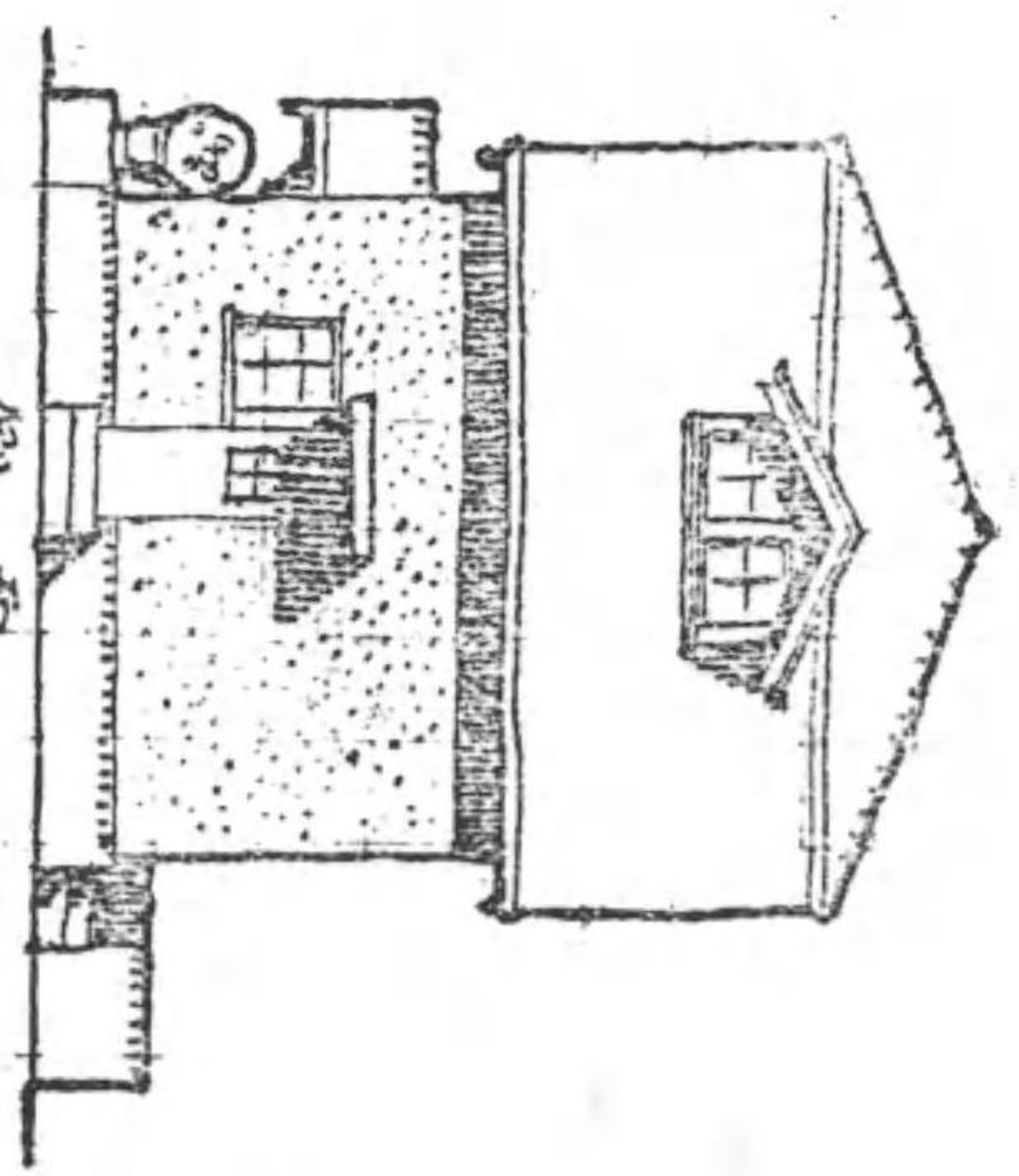
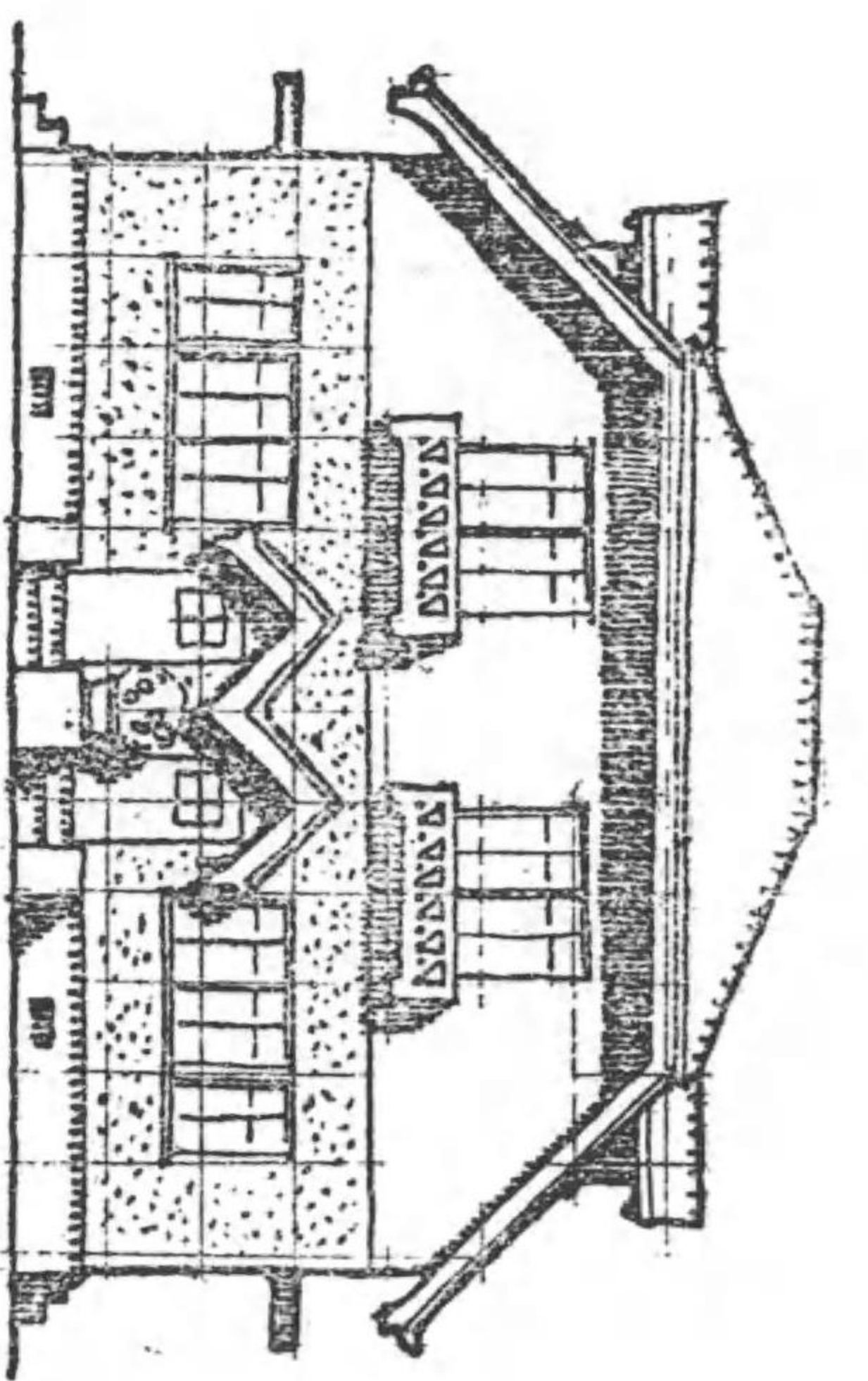


中貳階



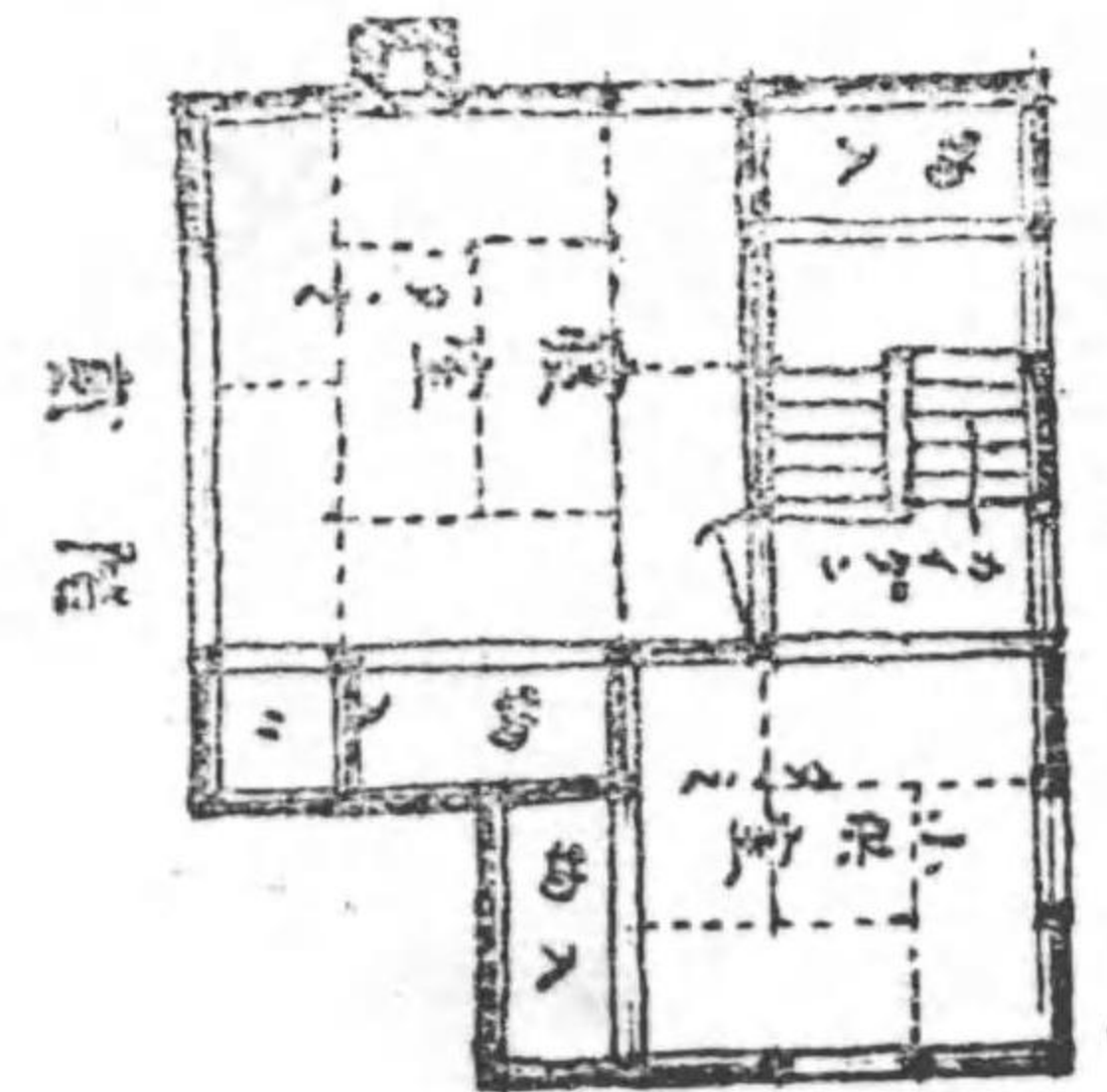
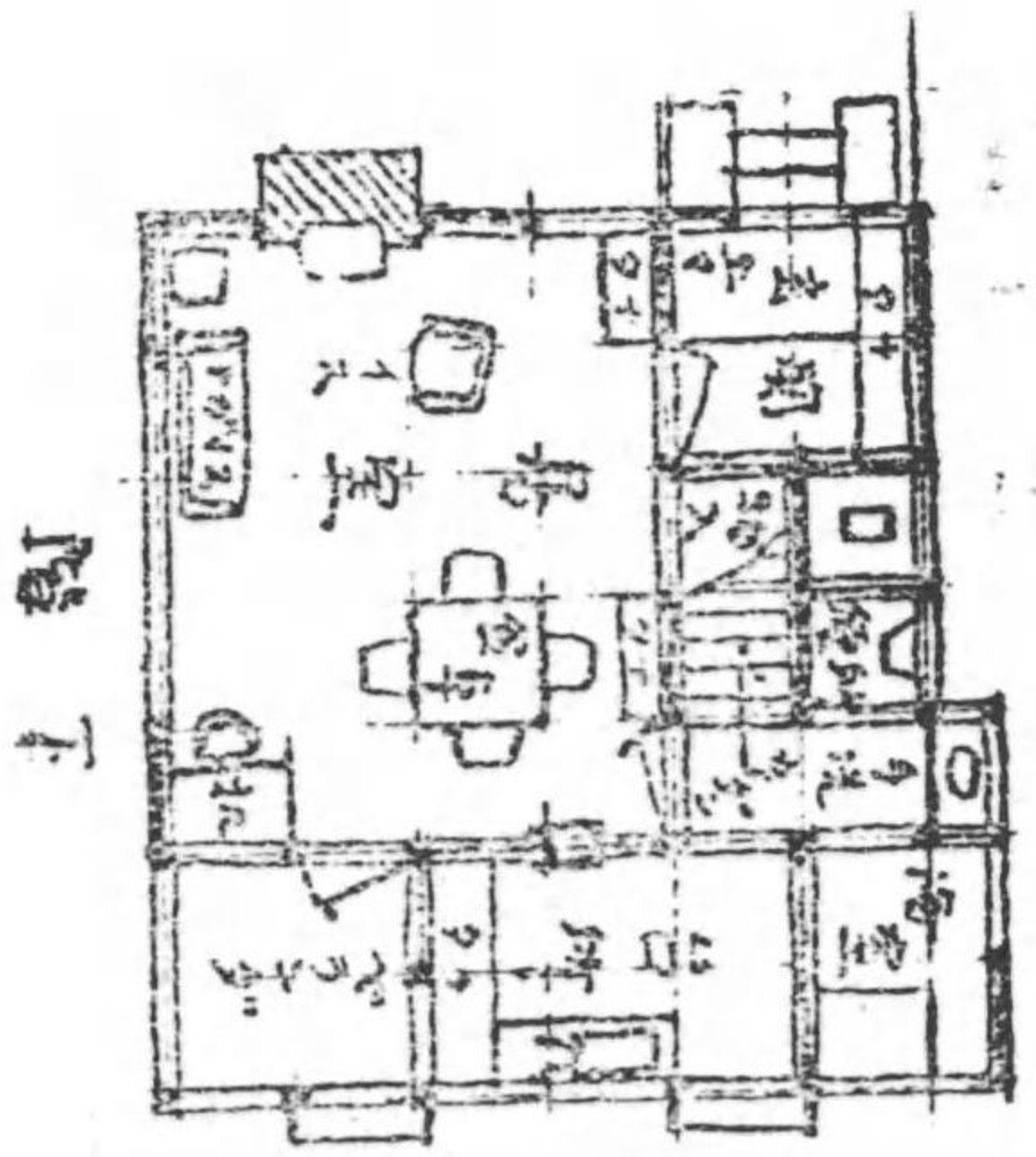
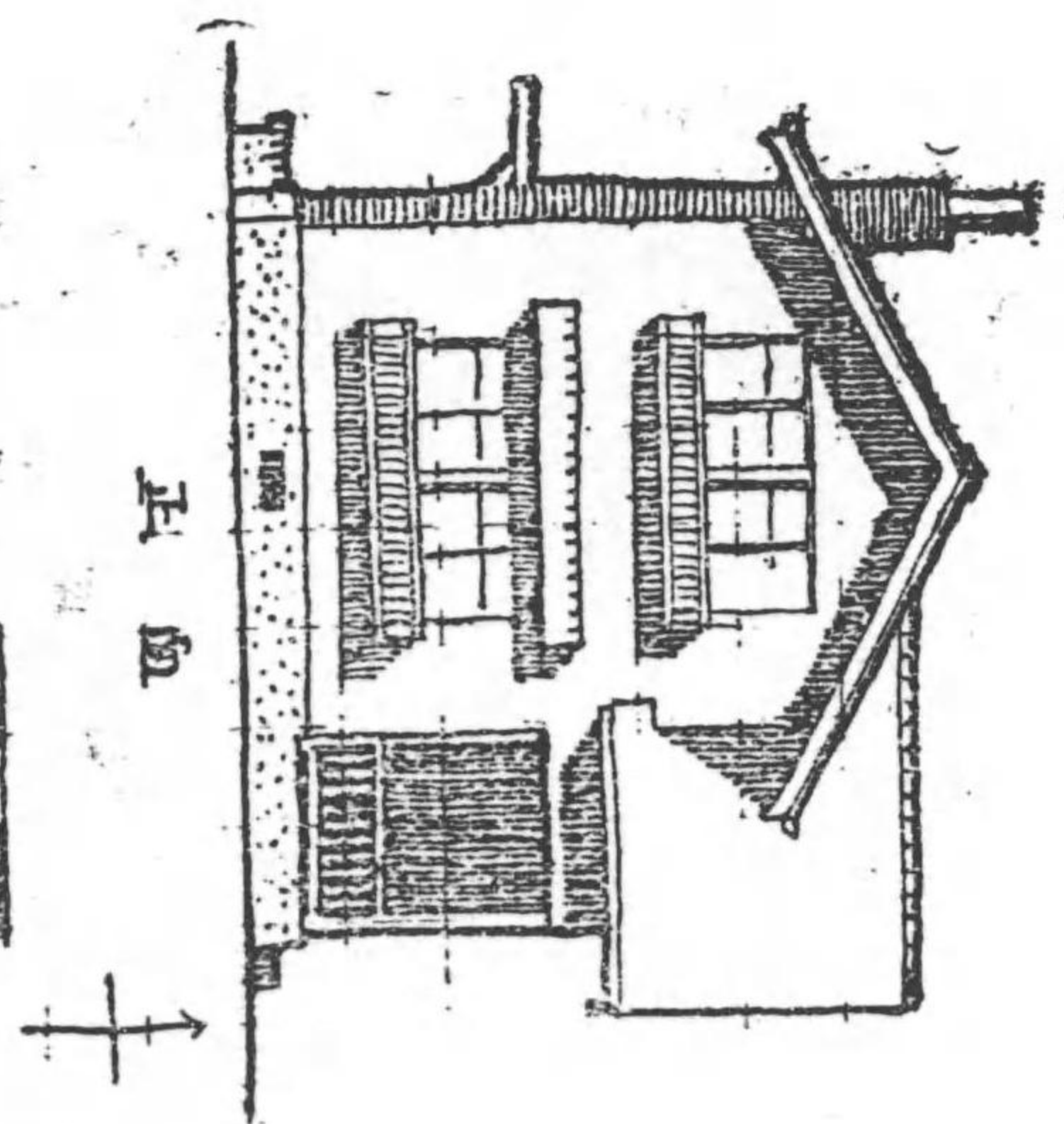
簡易住宅の案 其 貳

二階下 十八坪 計三十三坪
 二階 十五坪 外ニサレビス三坪

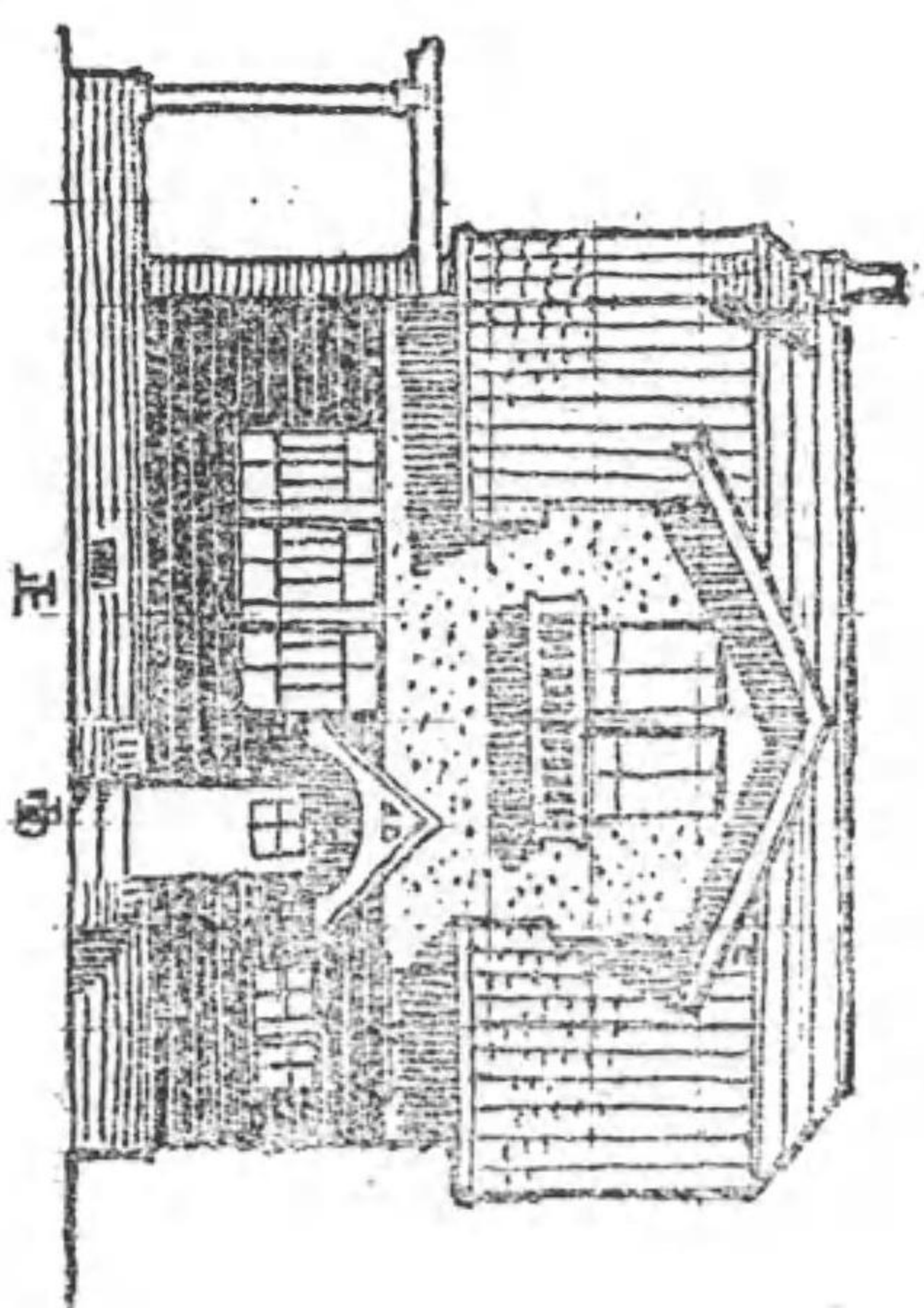
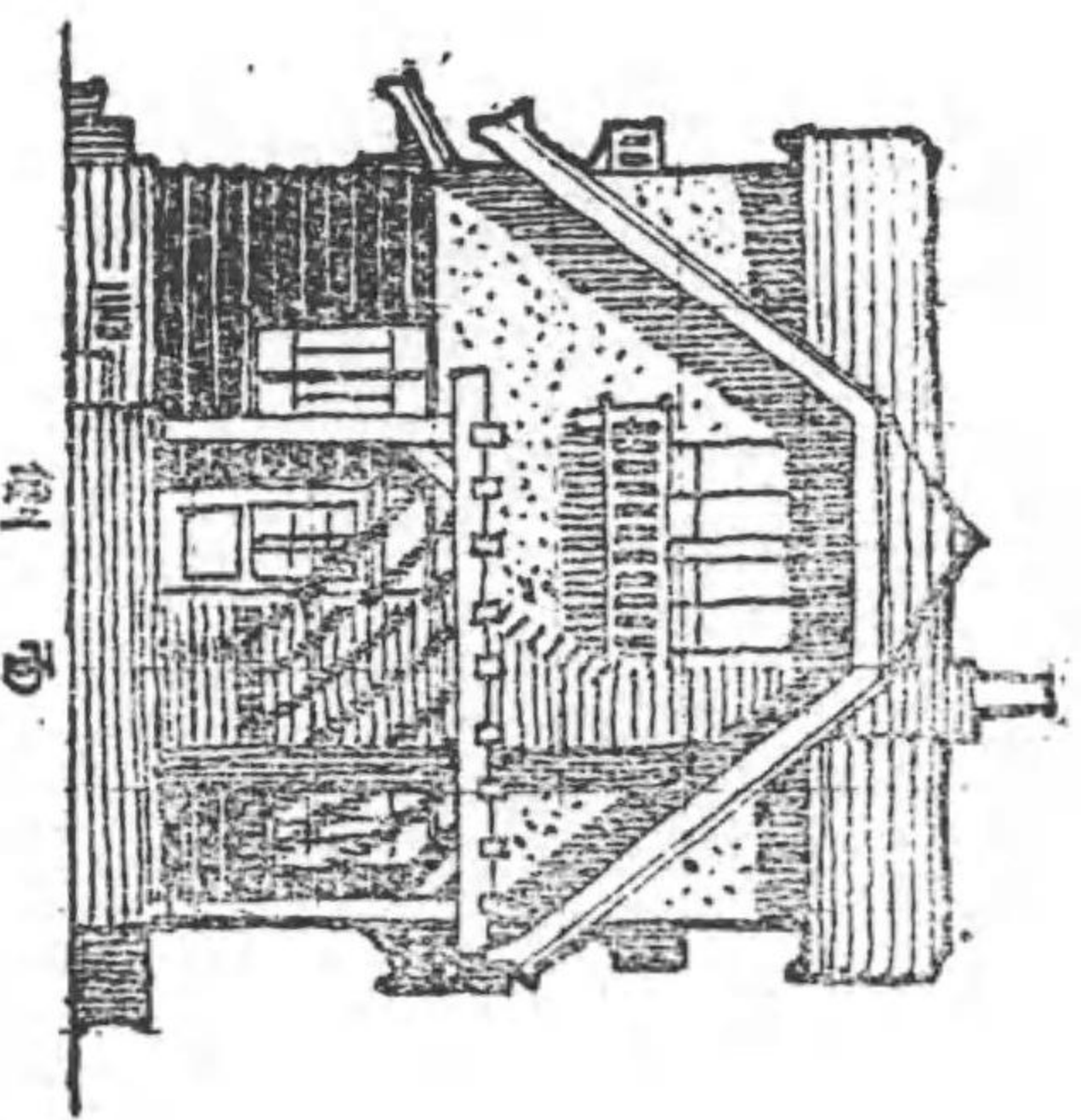


簡易住宅の案 其 參

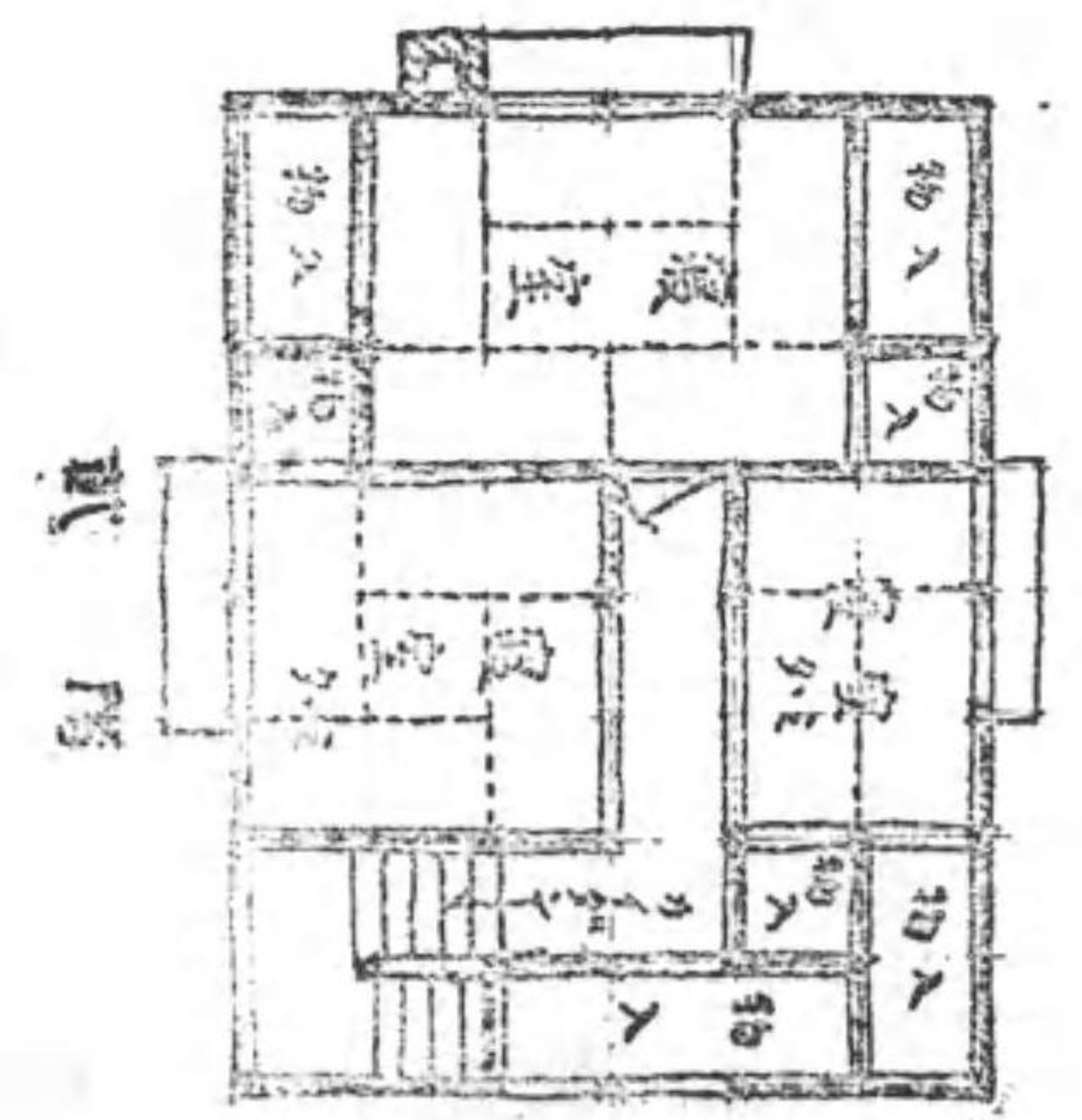
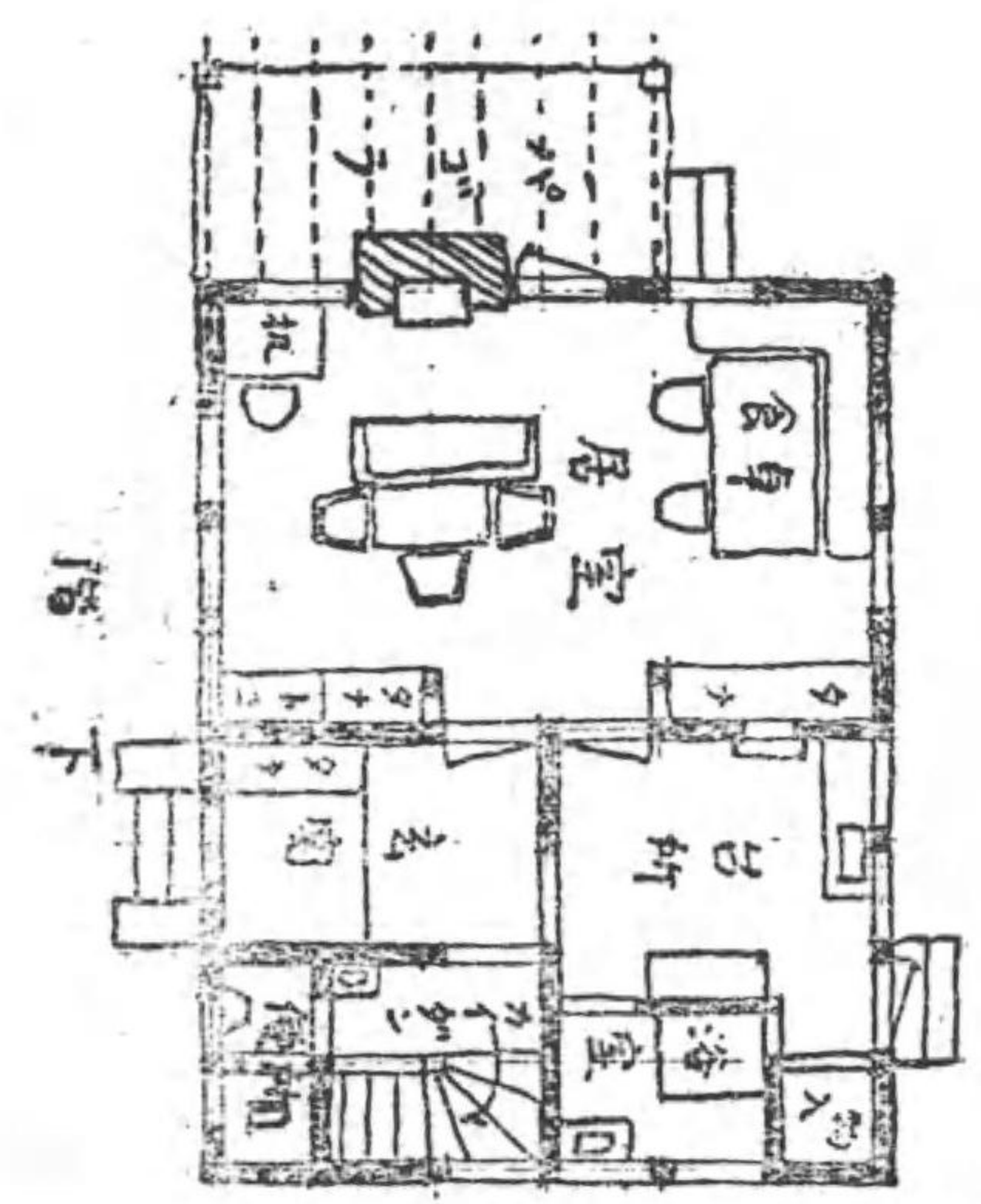
階下 十坪八七五
 二階 九坪五
 計 二十坪三七五

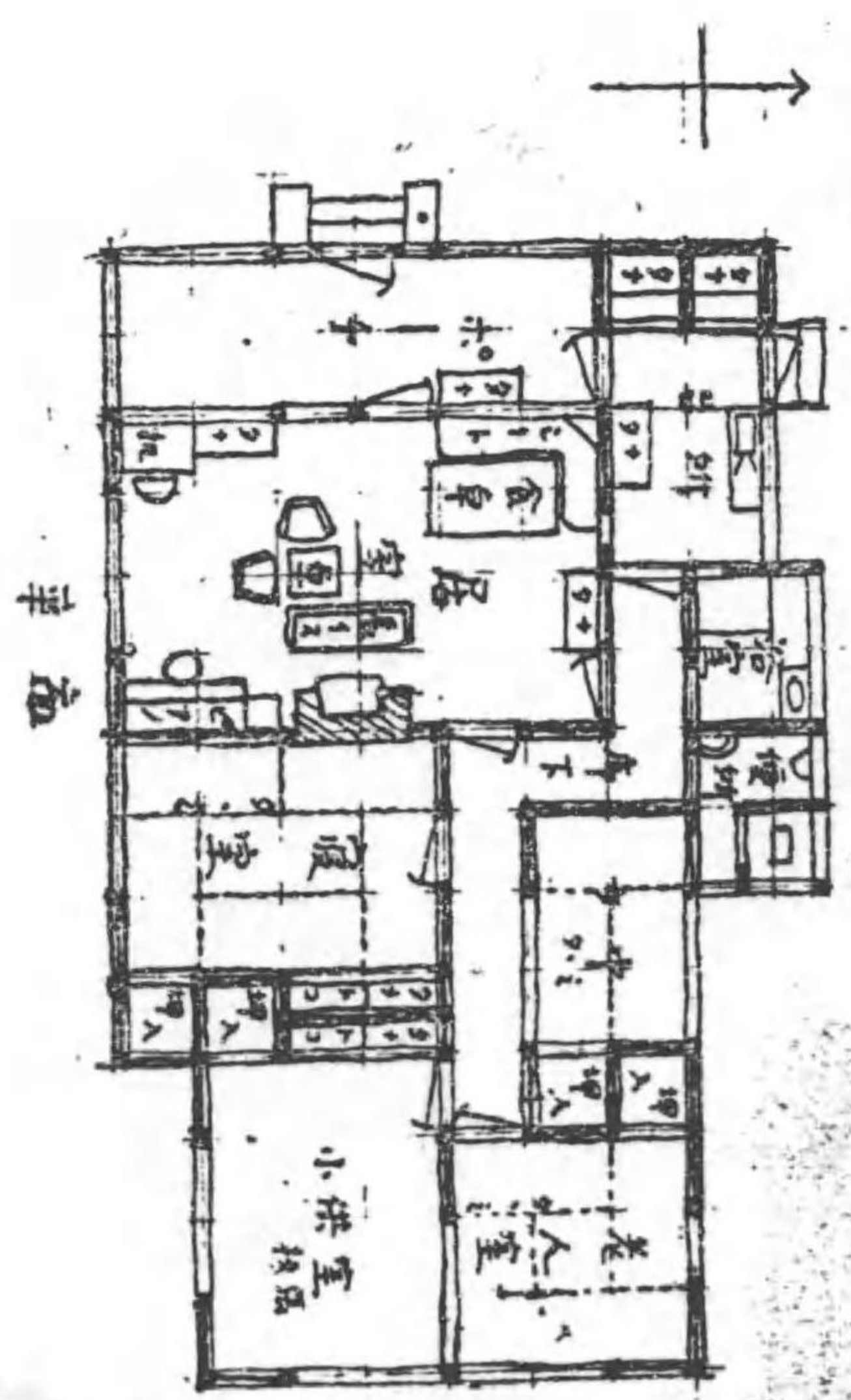
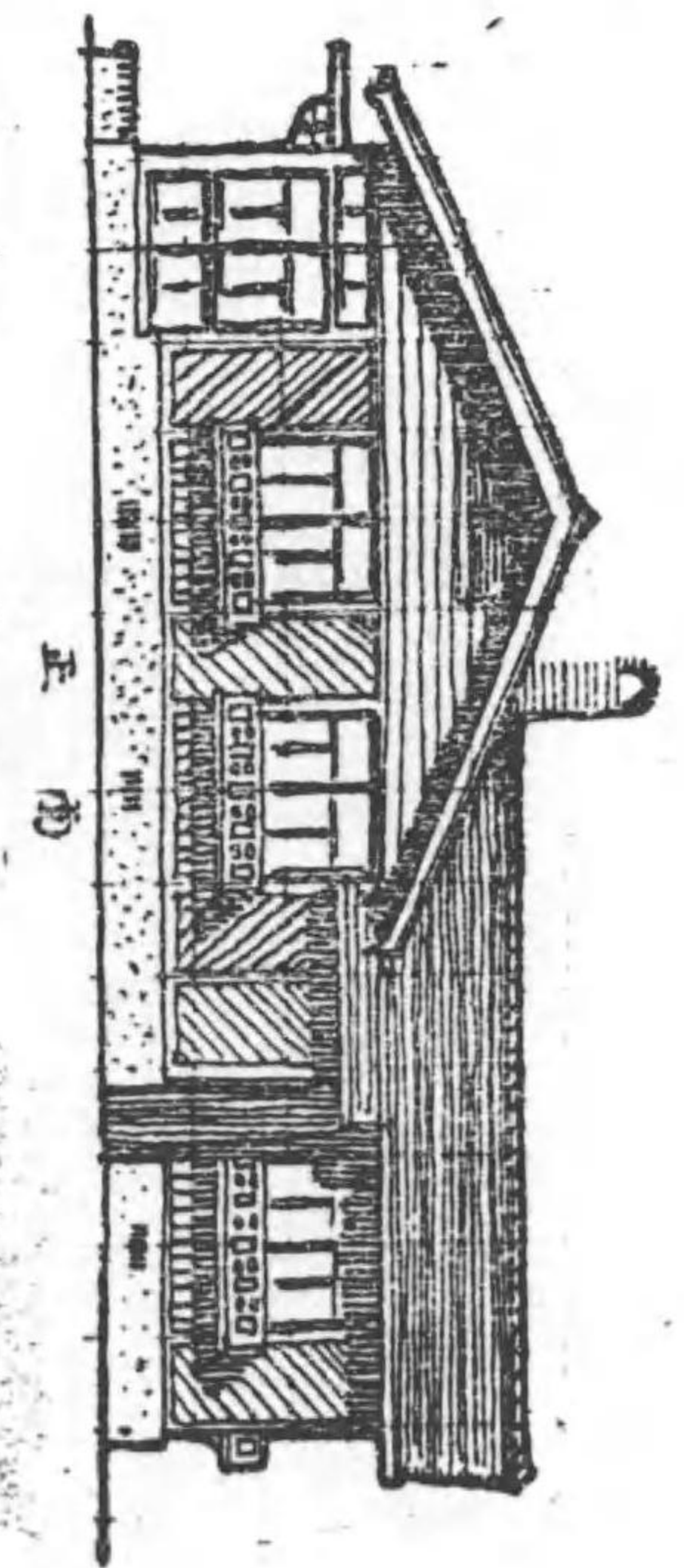
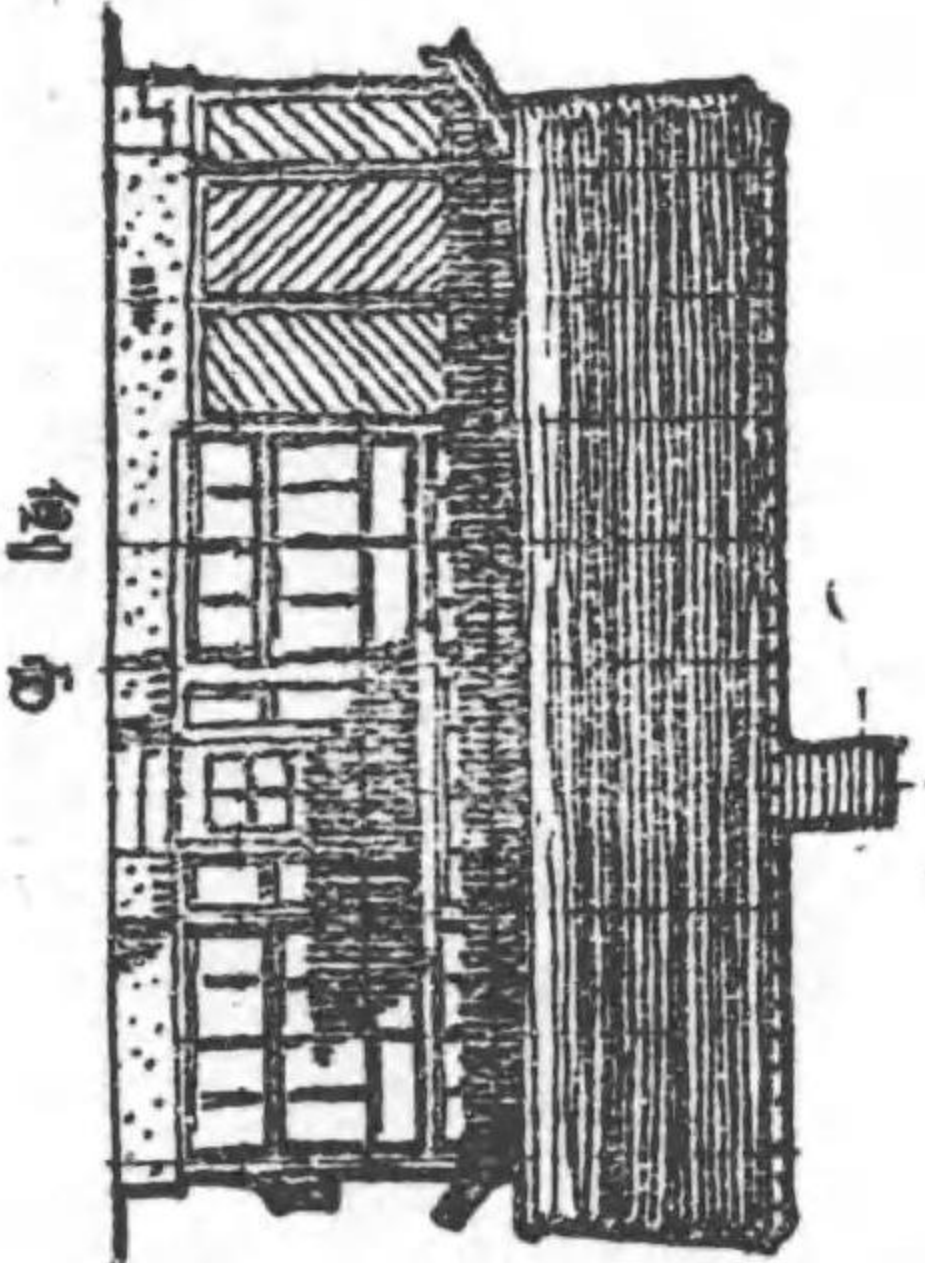


簡易住宅の案 其四

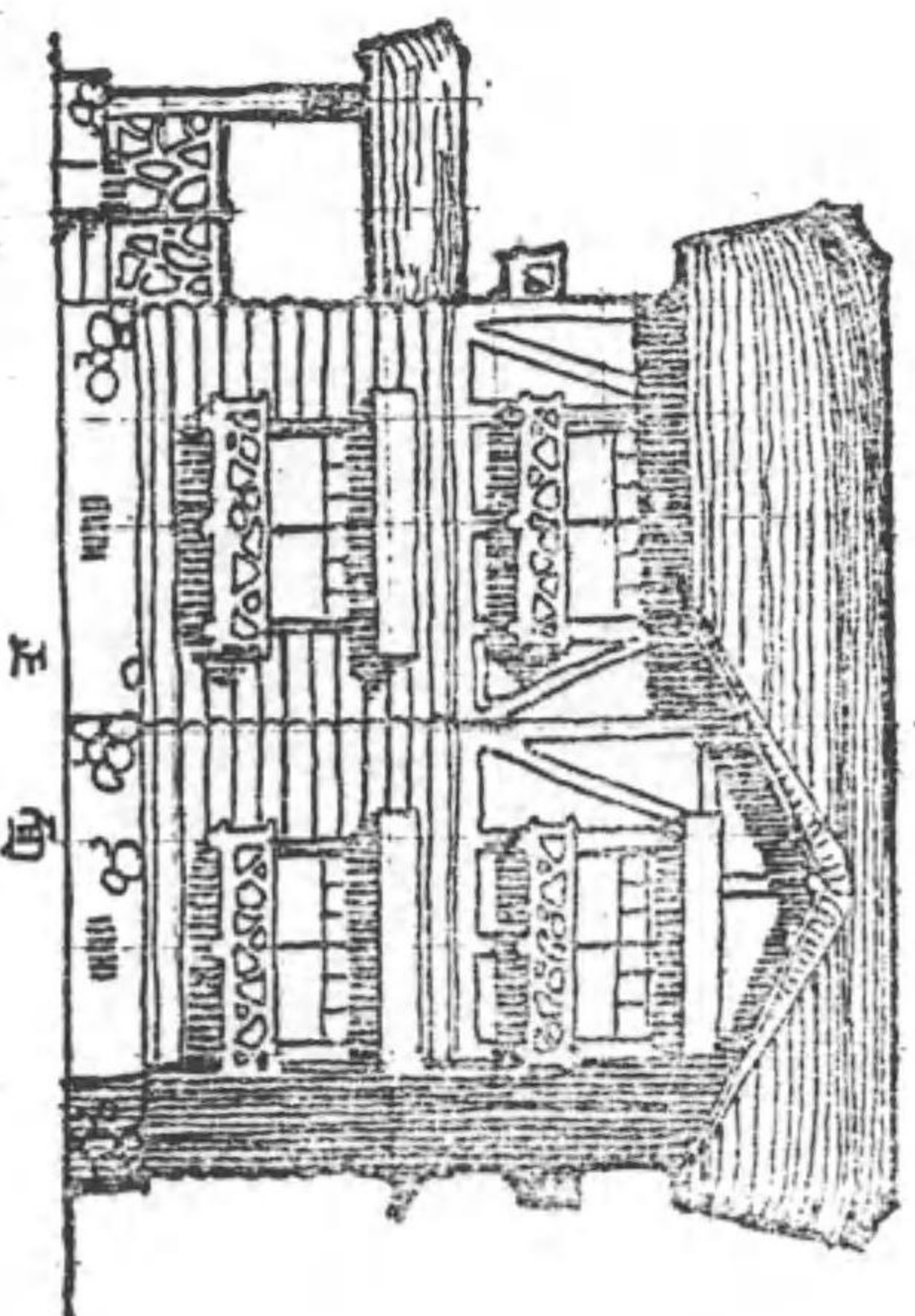
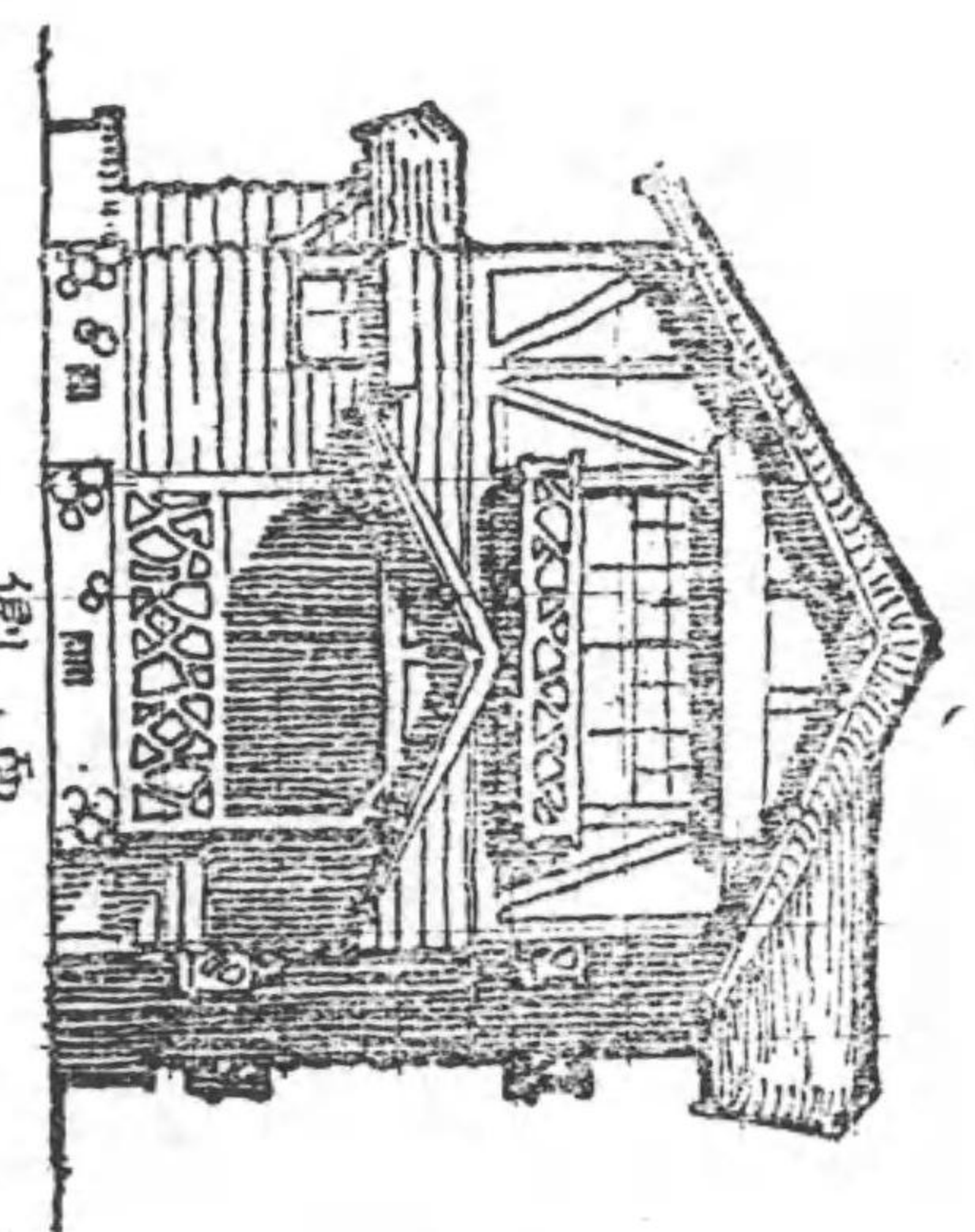


階下 十四坪
二階 十二坪
合計 二十六坪

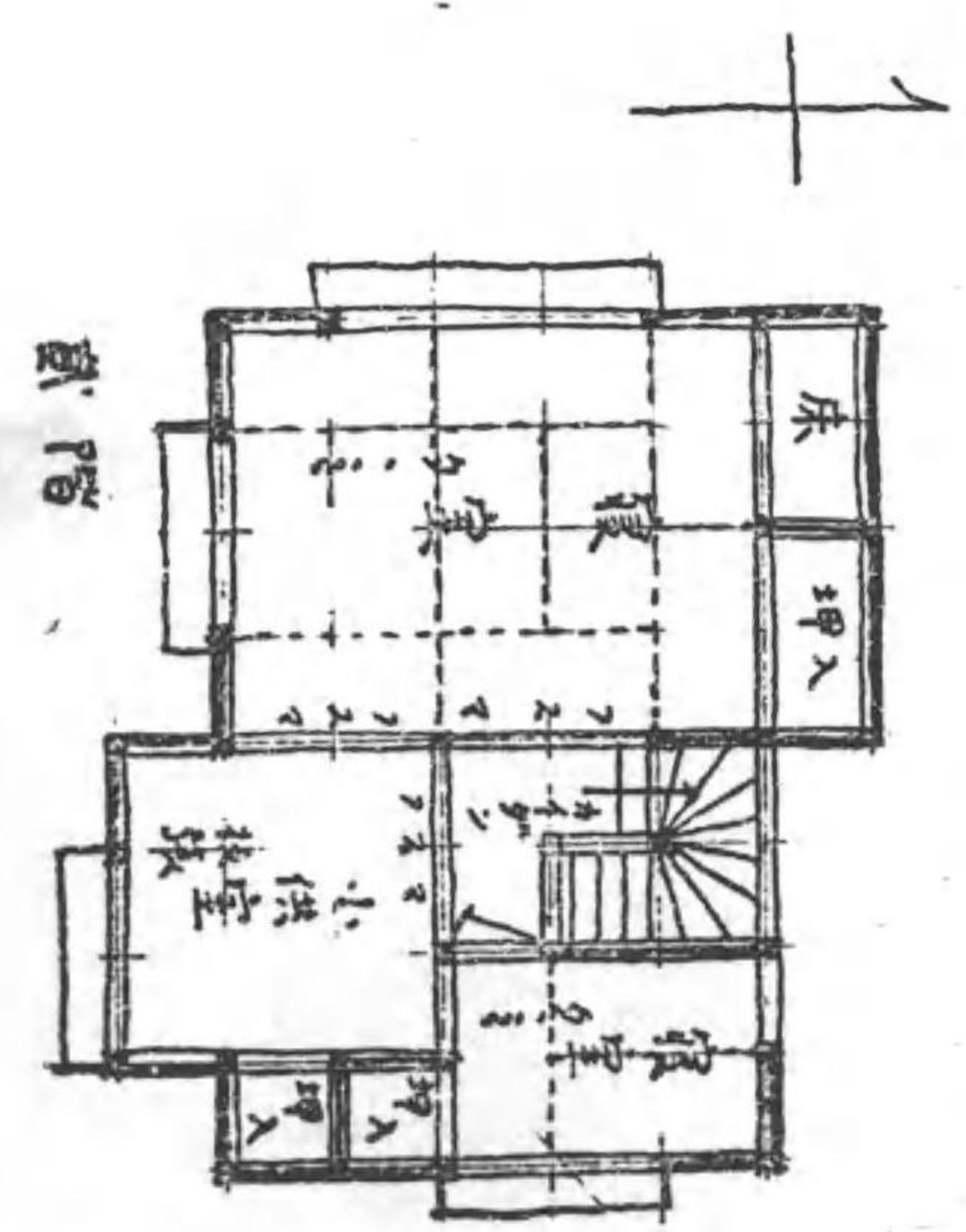
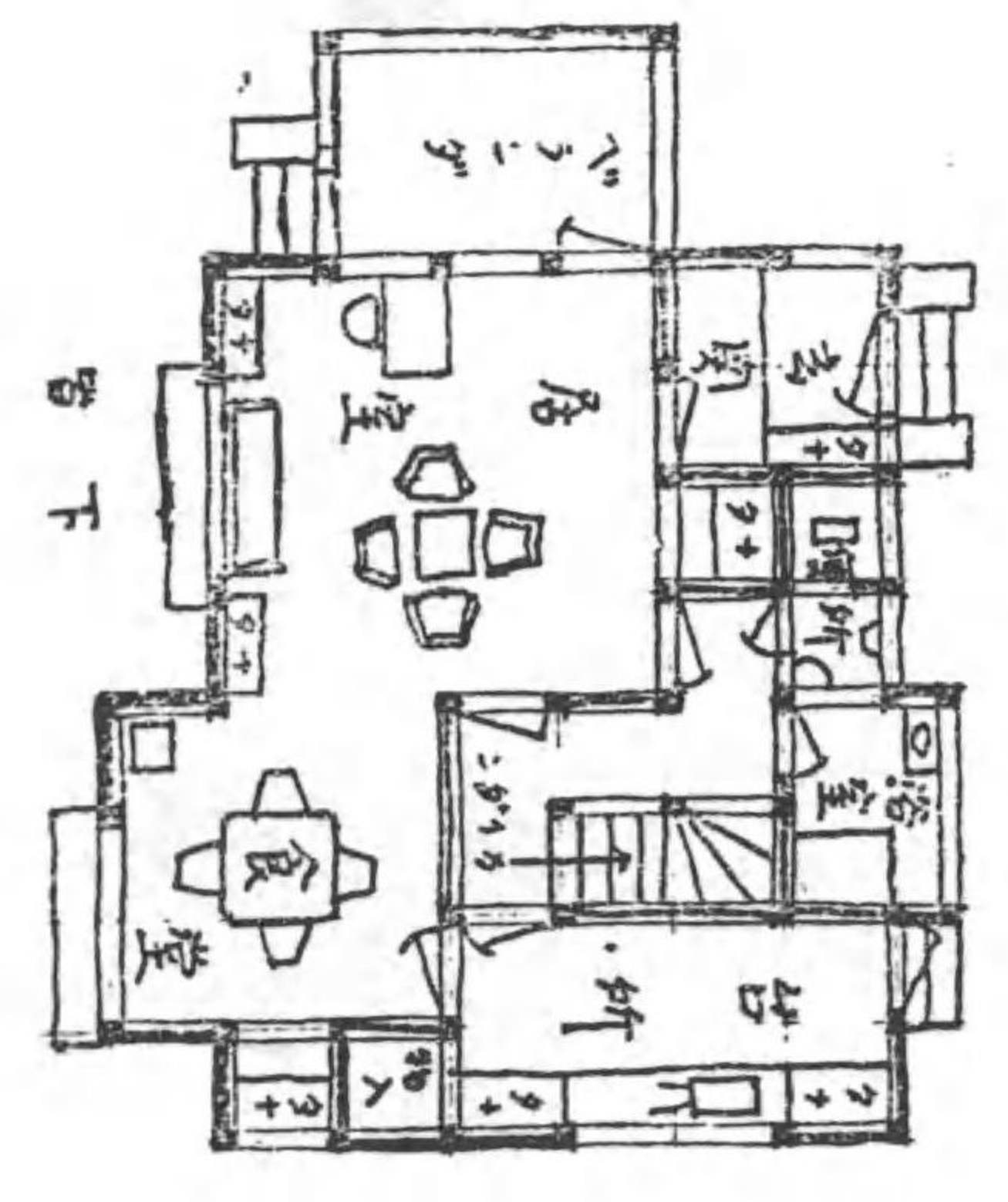




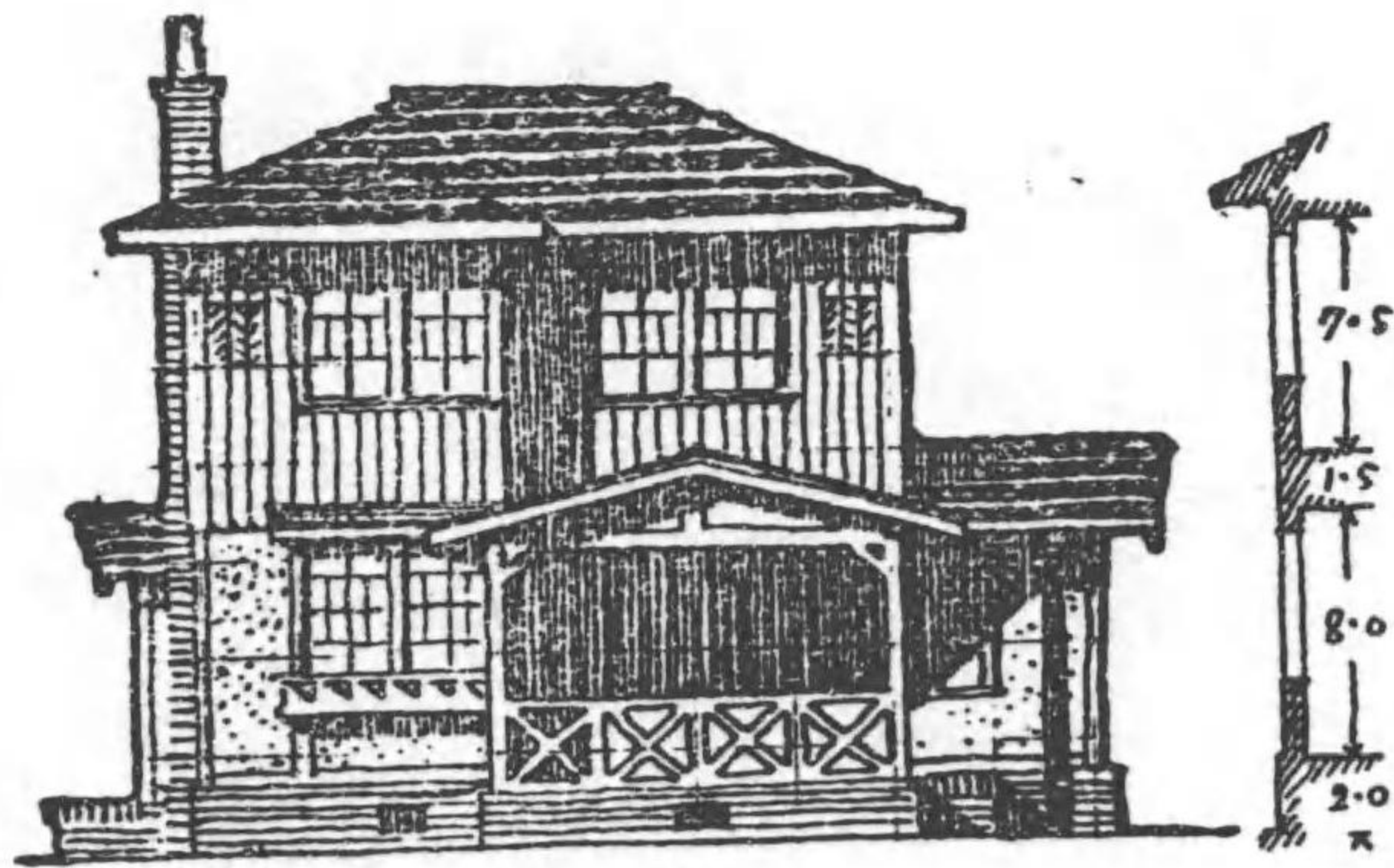
簡易住宅の案 其五
 建坪 二十六坪



簡易住宅の案 其六



階下 十四坪五二階 十二坪七五
計 二十六坪二五



簡易住宅の案 其七

計 二階 二十八坪二五
 階下 十八坪七五
 九坪五

図

階下平面

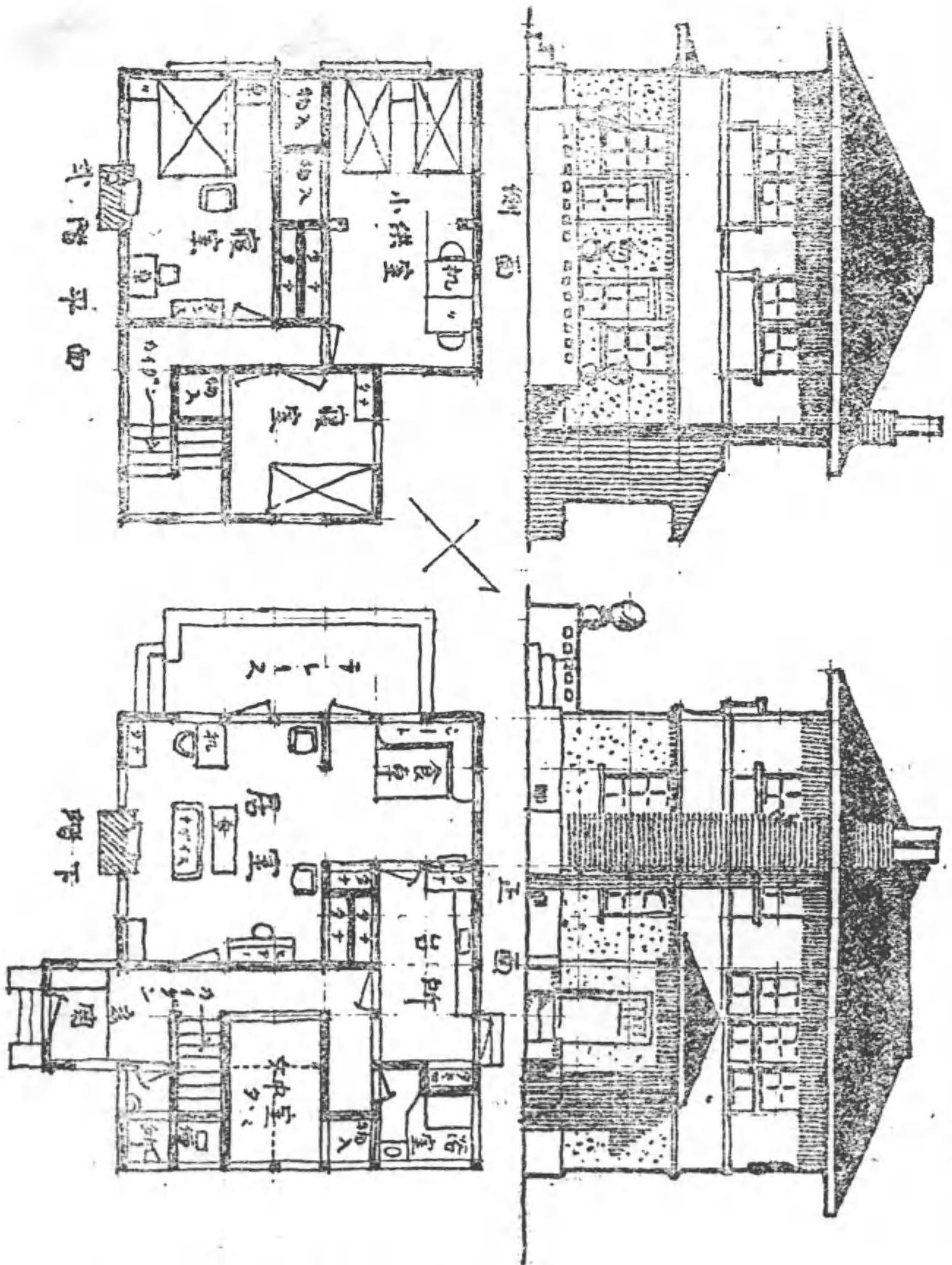


二階平面



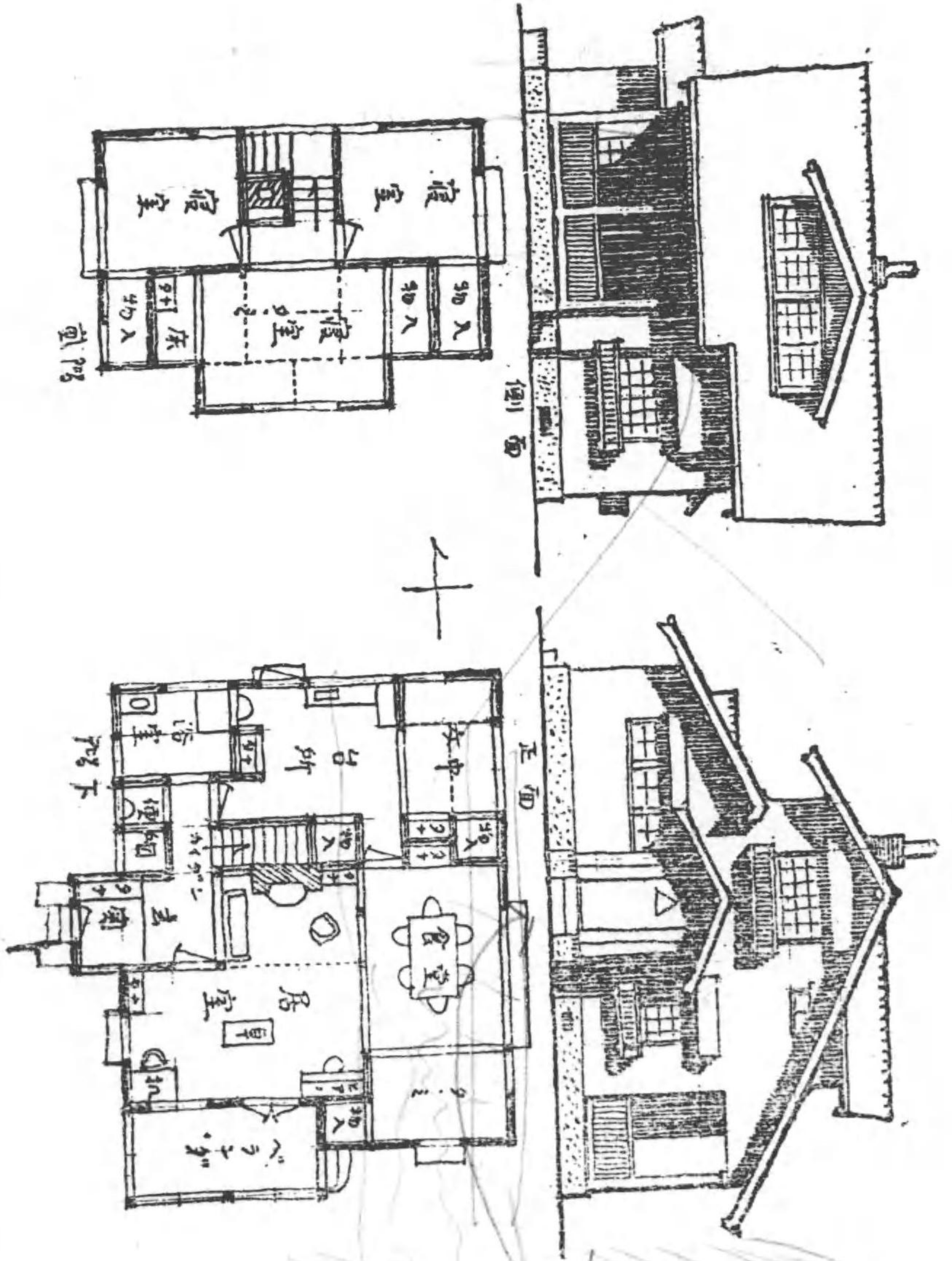
簡易住宅の築 其 八

階下 十七坪 二階 十四坪二五
計 三十一坪二五 外ニテレノ二坪五



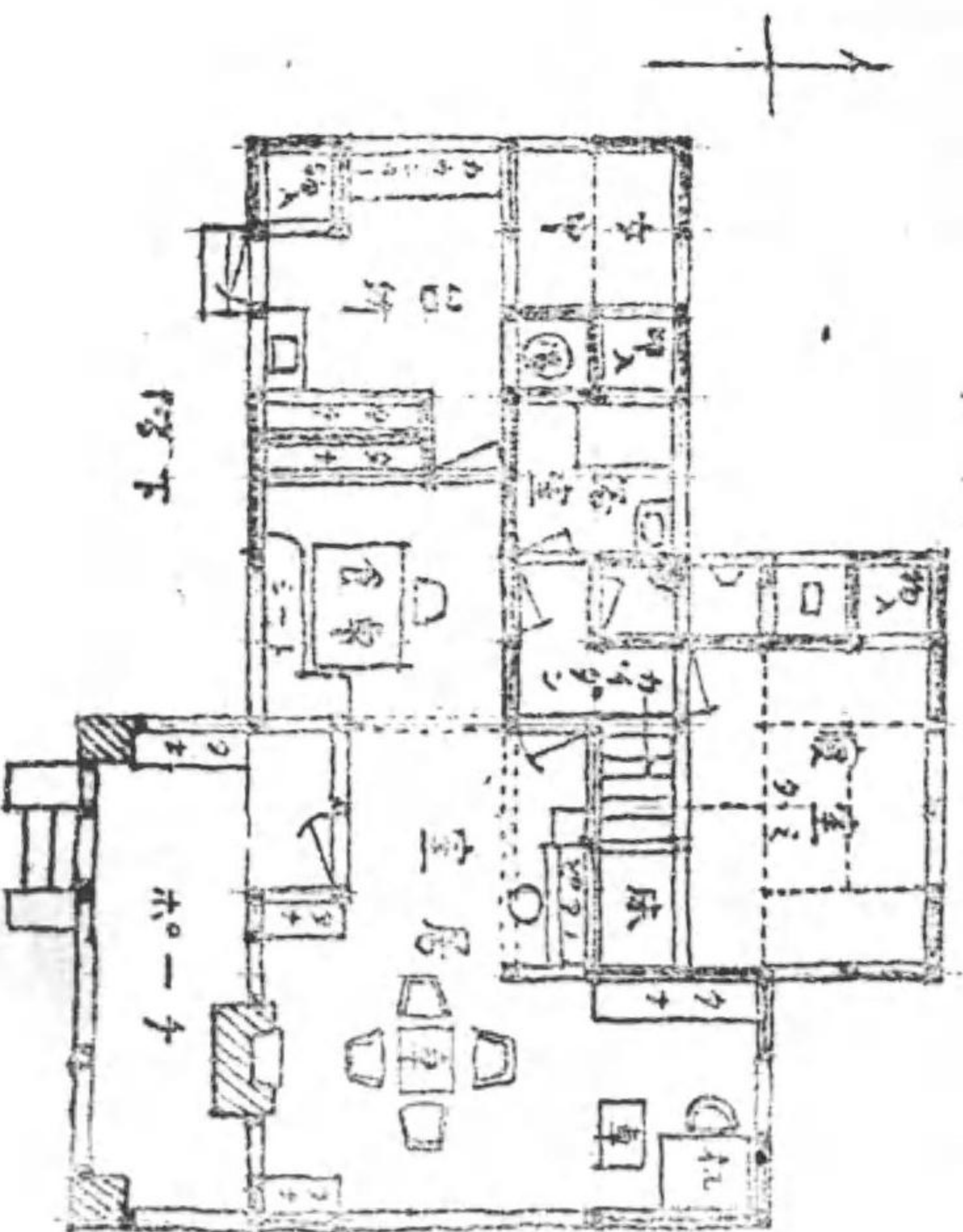
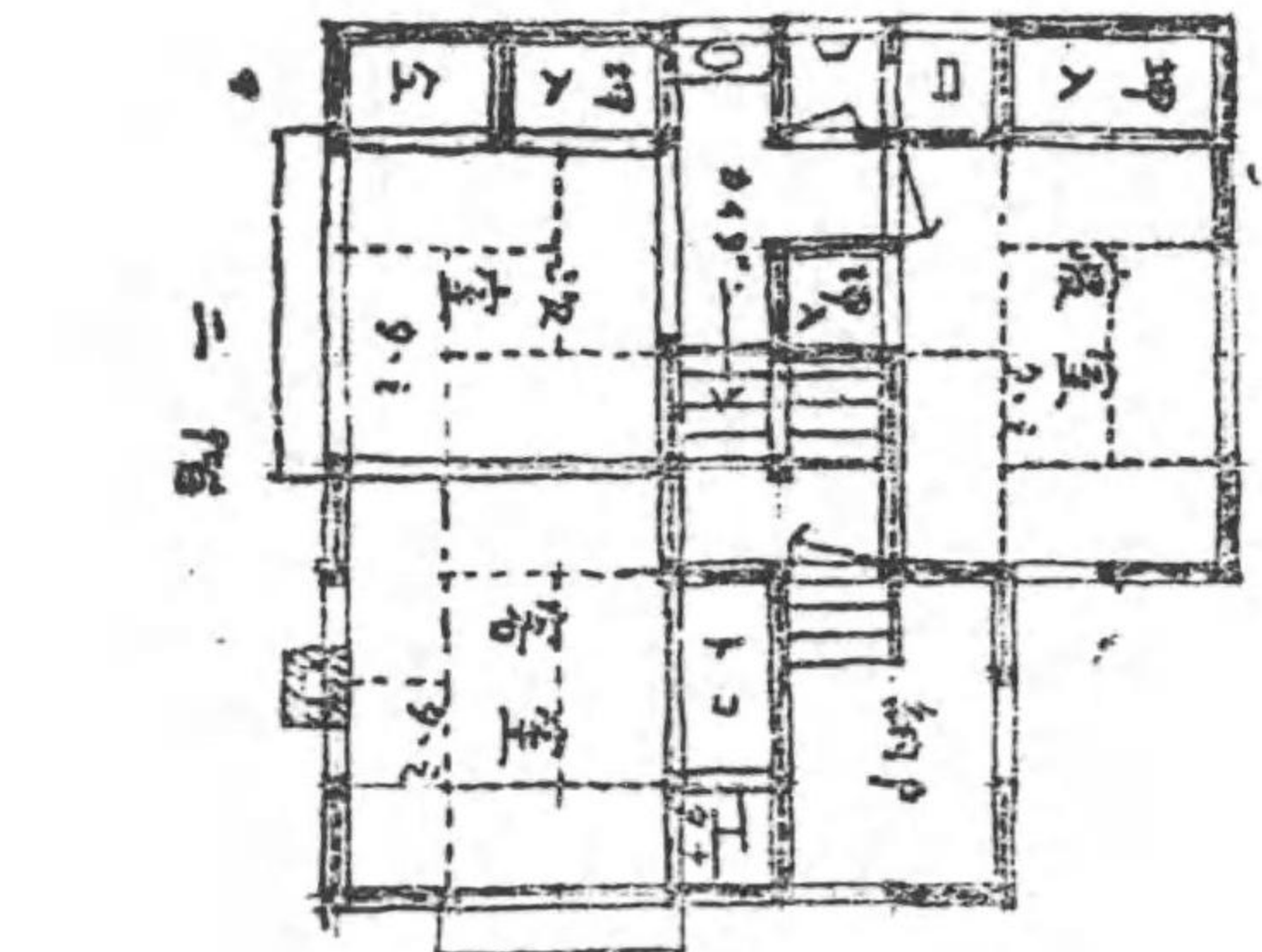
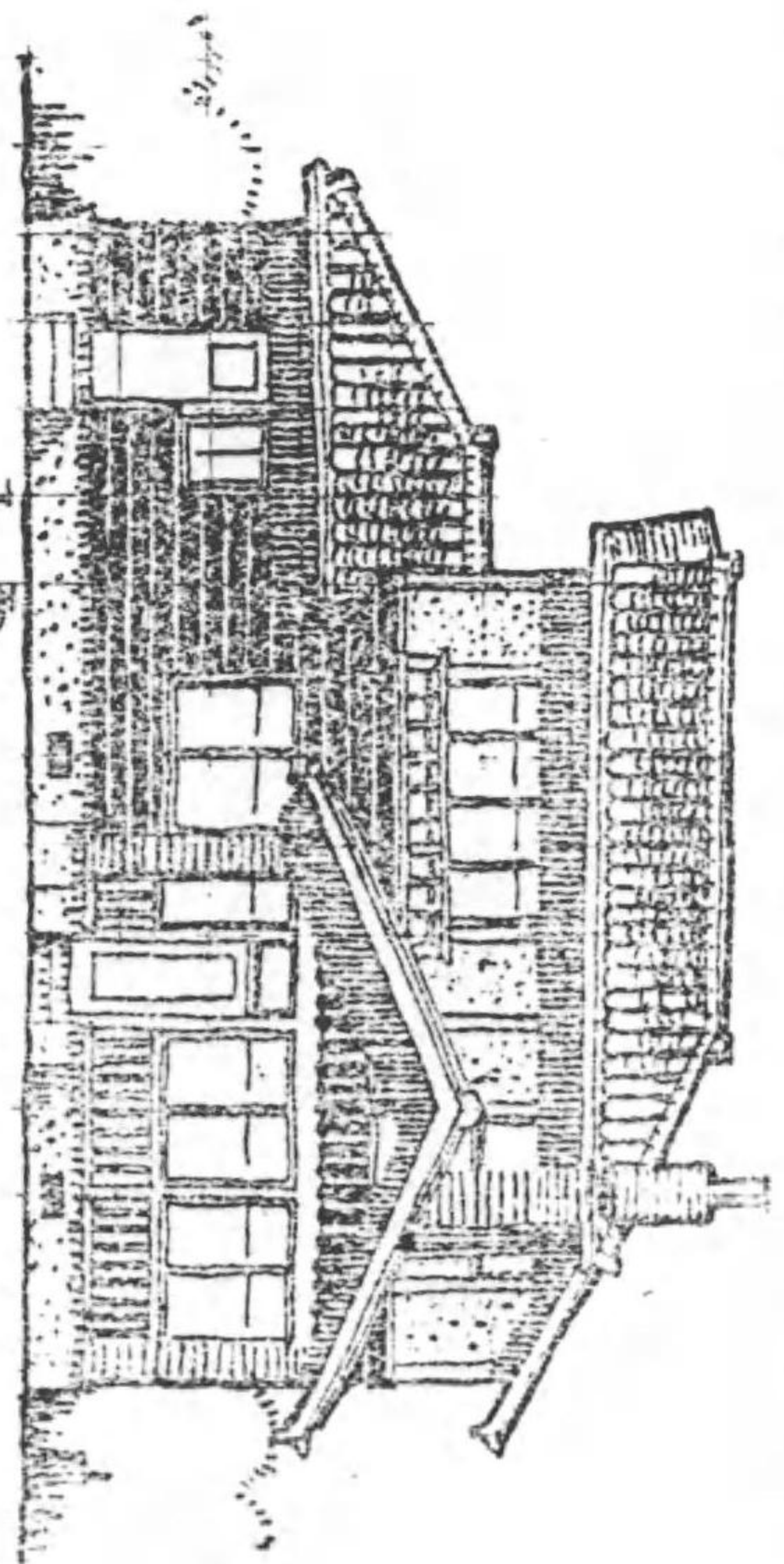
階下 二十二坪五
計 三十二坪五

簡易住宅の案 其九

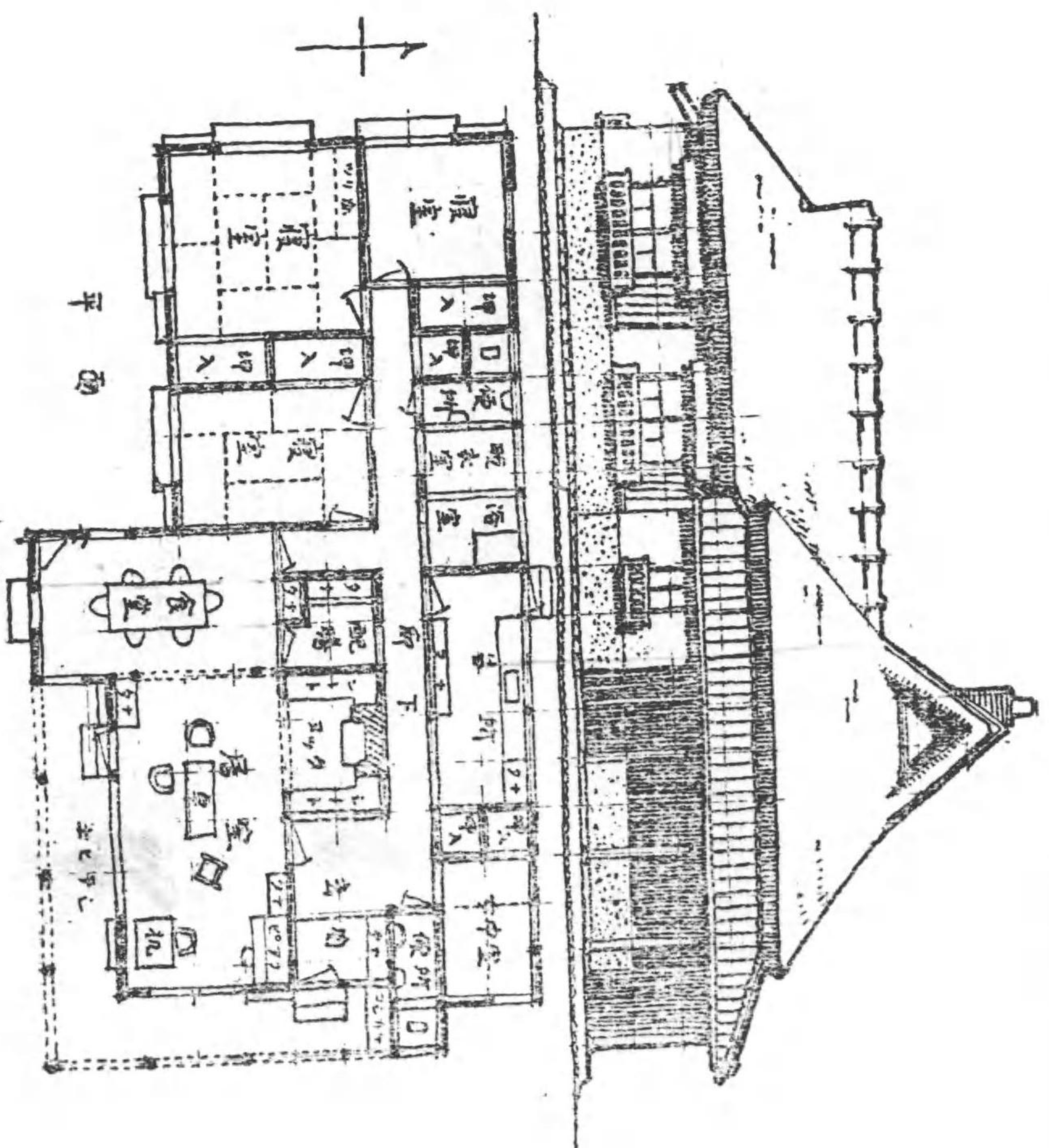


簡易住宅の案 其拾

階 下 23 坪 75
 階 二 14 坪 5
 計 38 坪 25

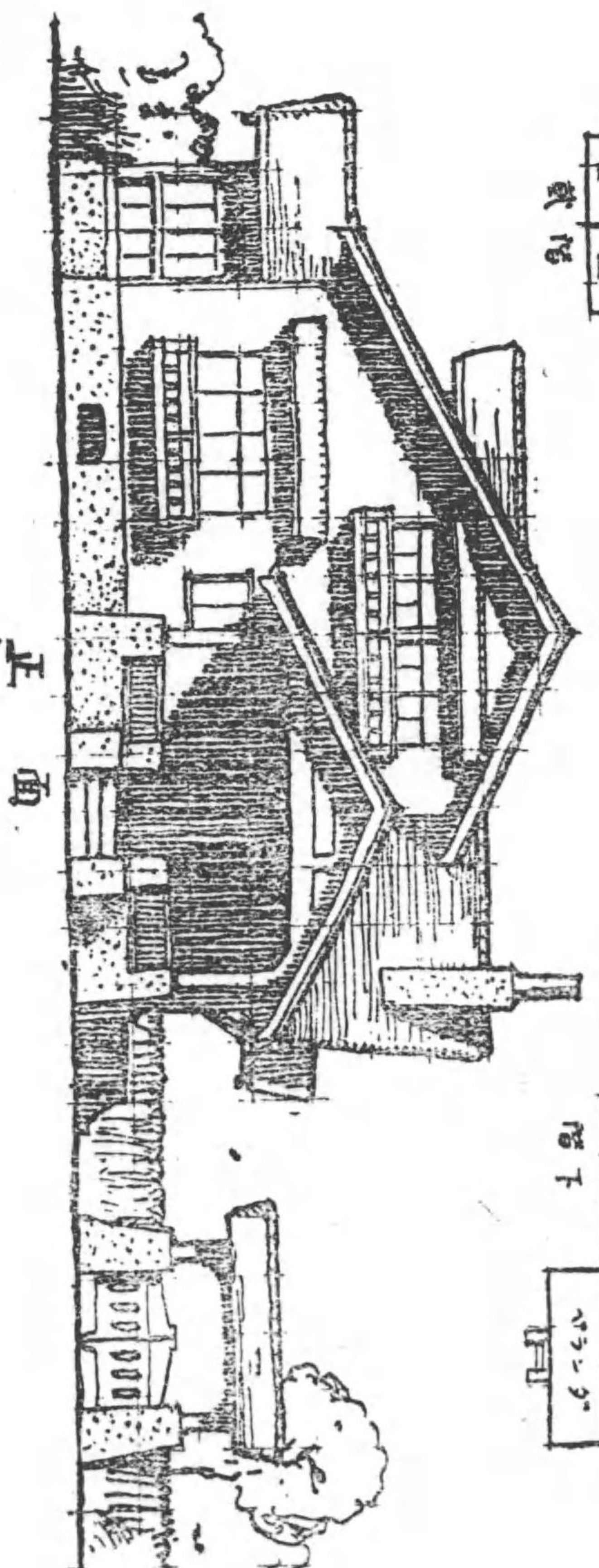
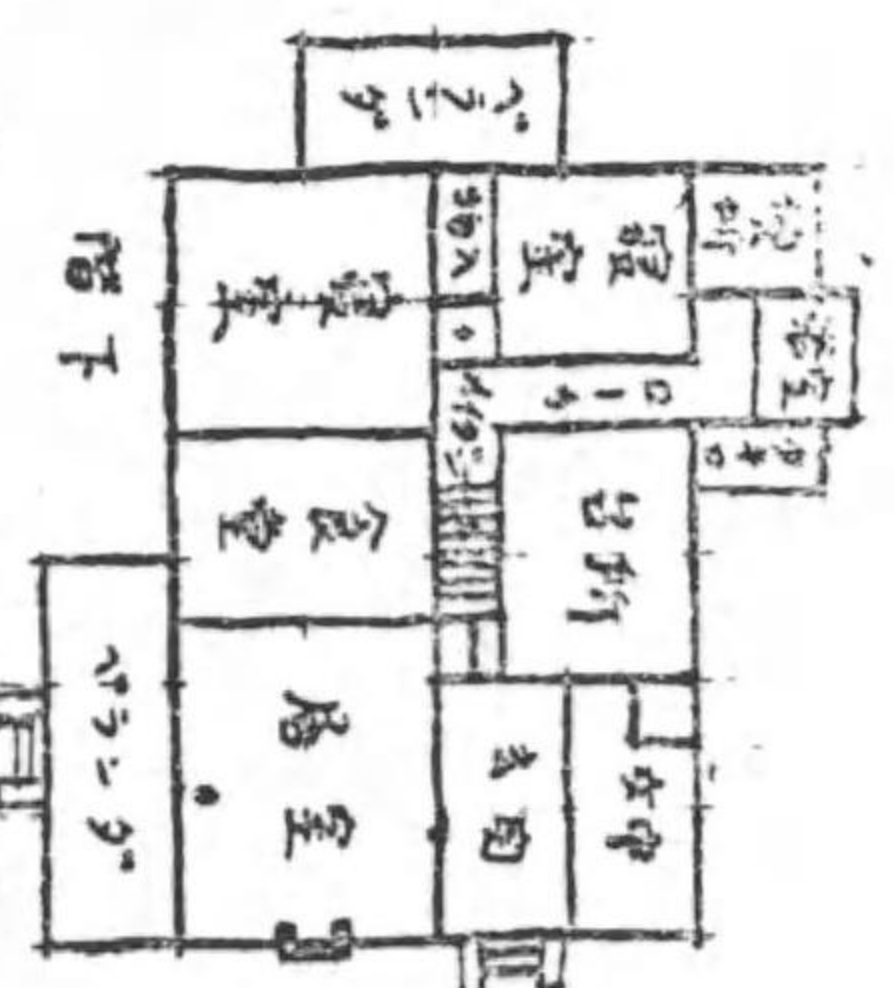
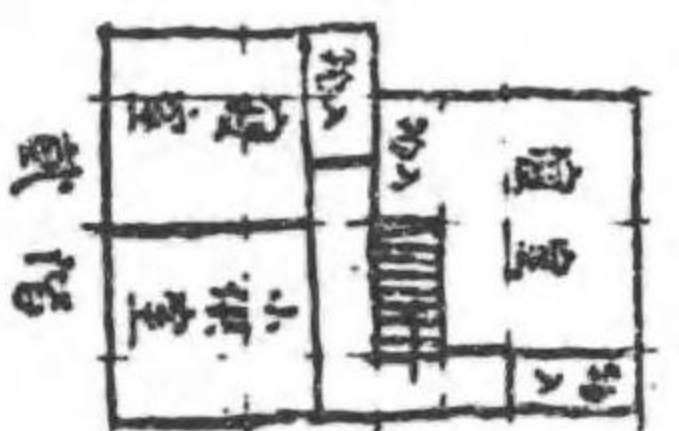


簡易住宅の案 其拾壹 建坪 四十一坪

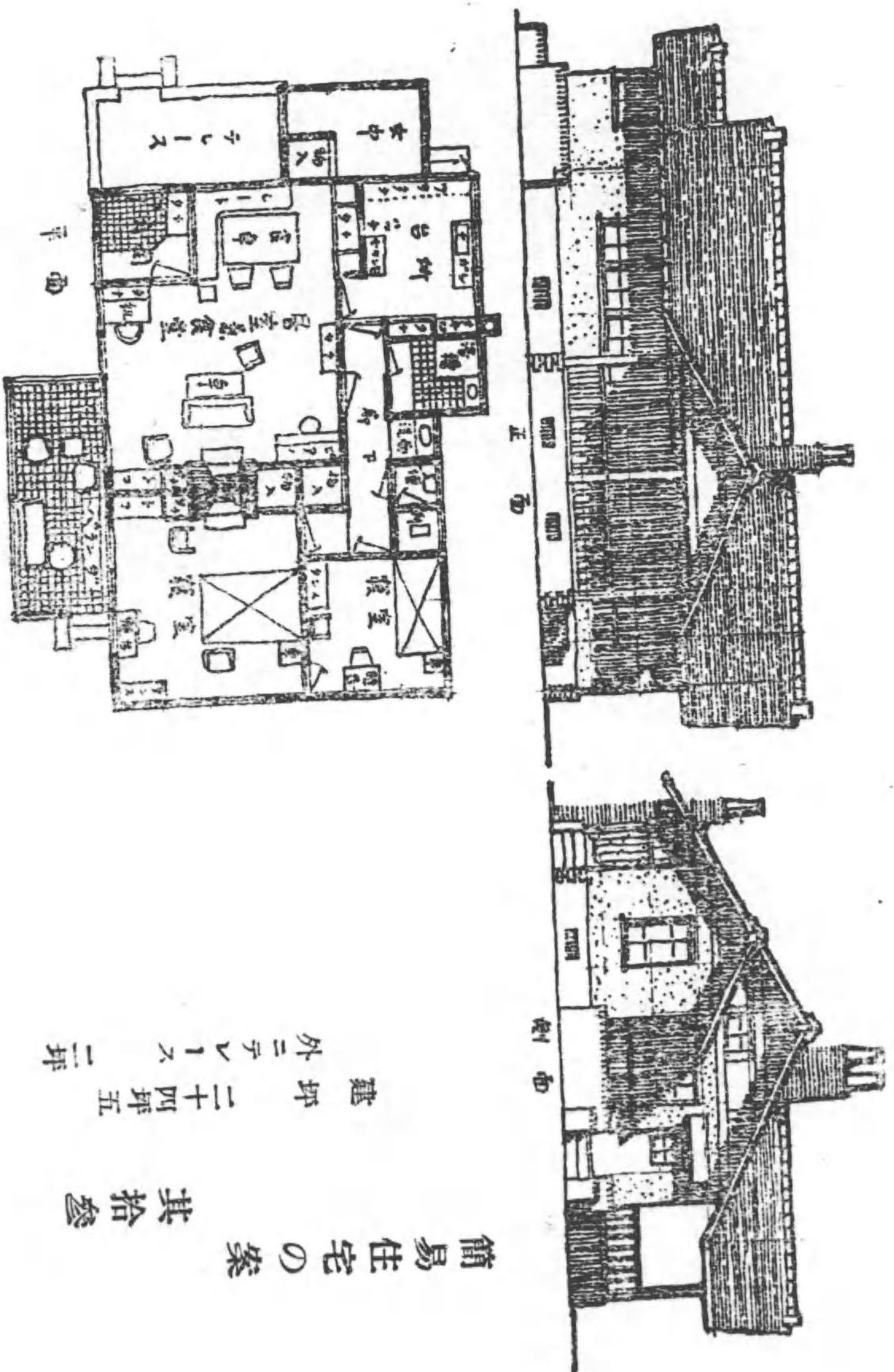


簡易住宅の案 其拾貳

下階 31坪 75
 計 11坪 42坪 75



正面

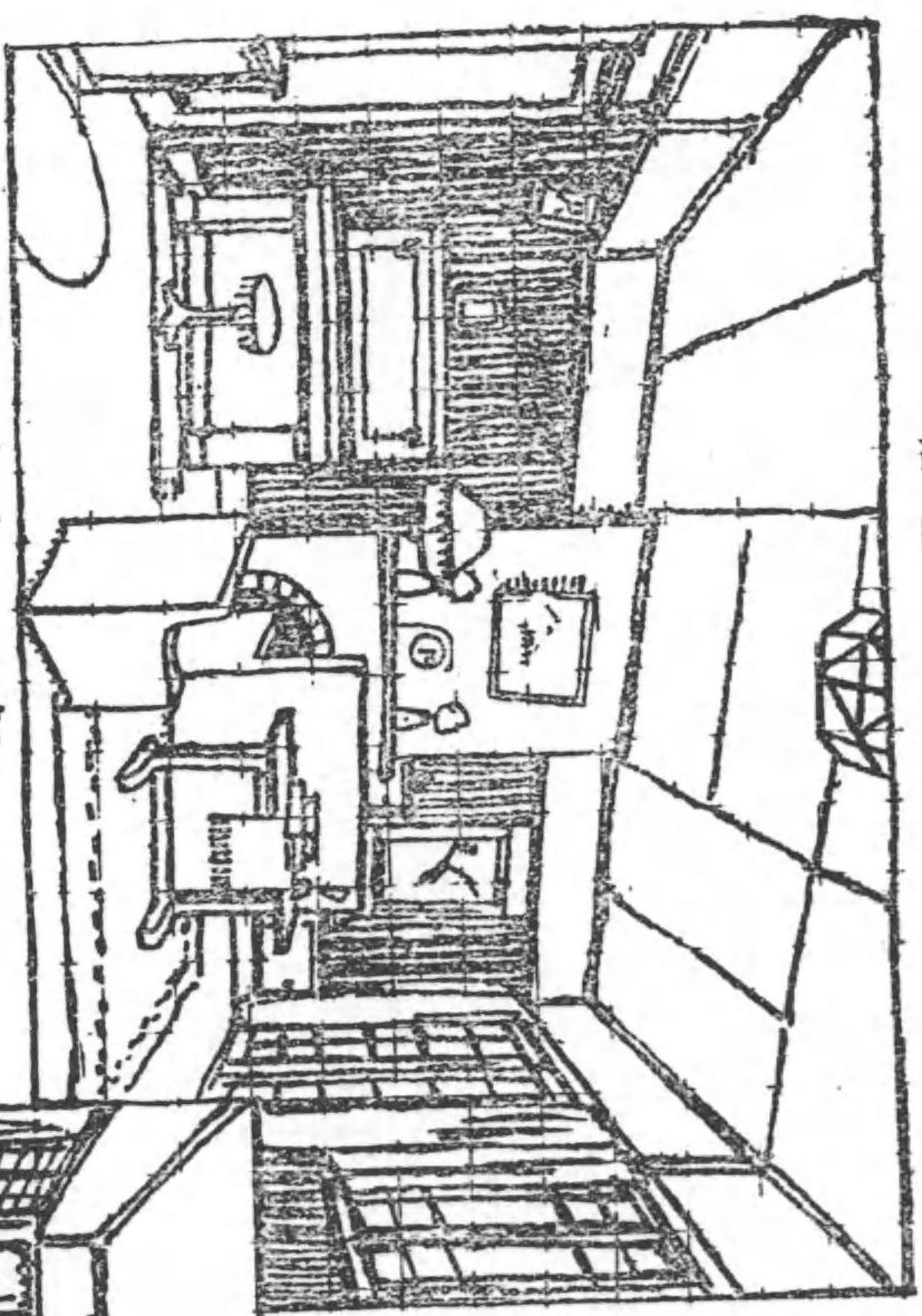


簡易住宅の案

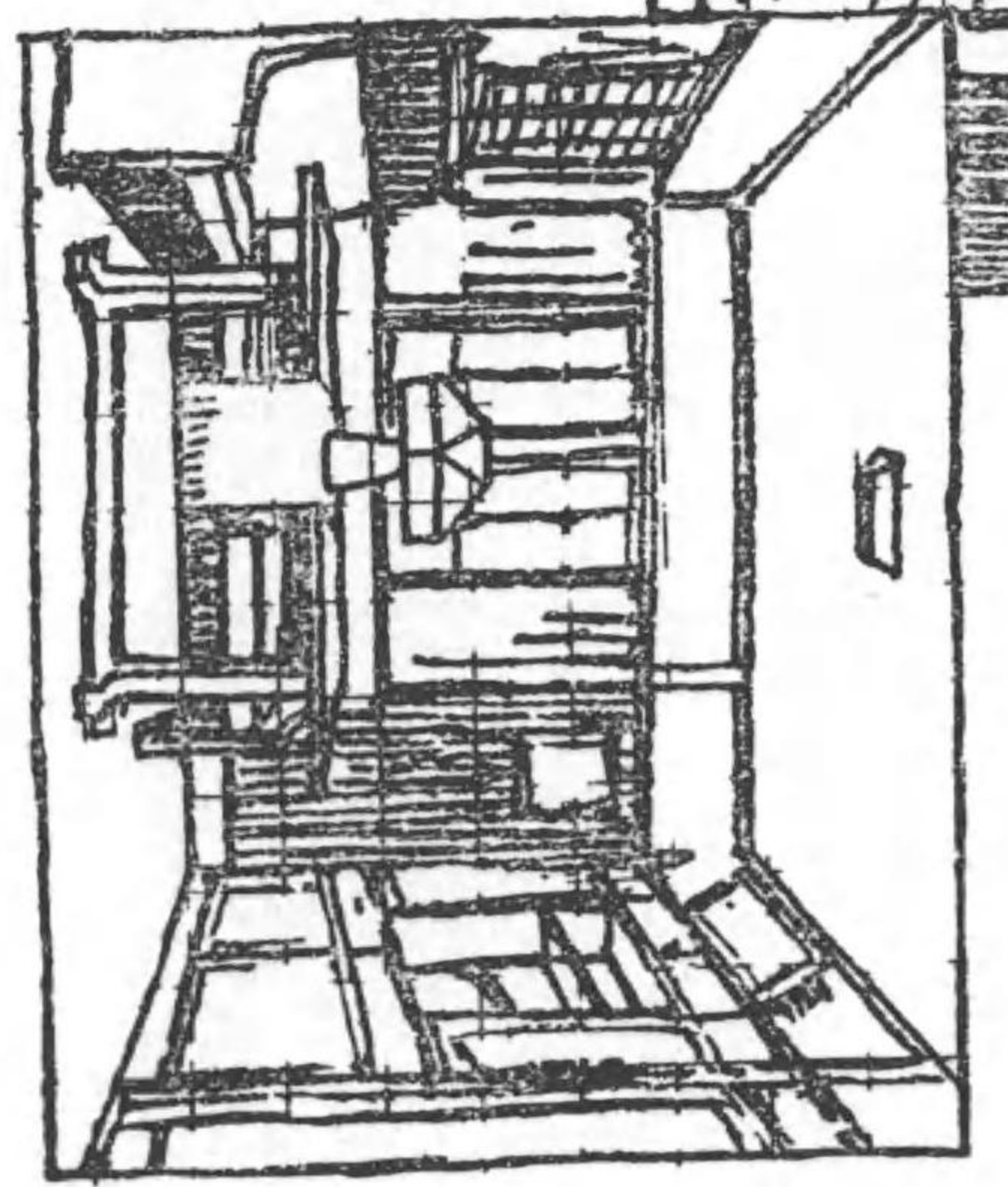
建坪 二十四坪五
外ニテレス 二坪

其拾參

居室の一部

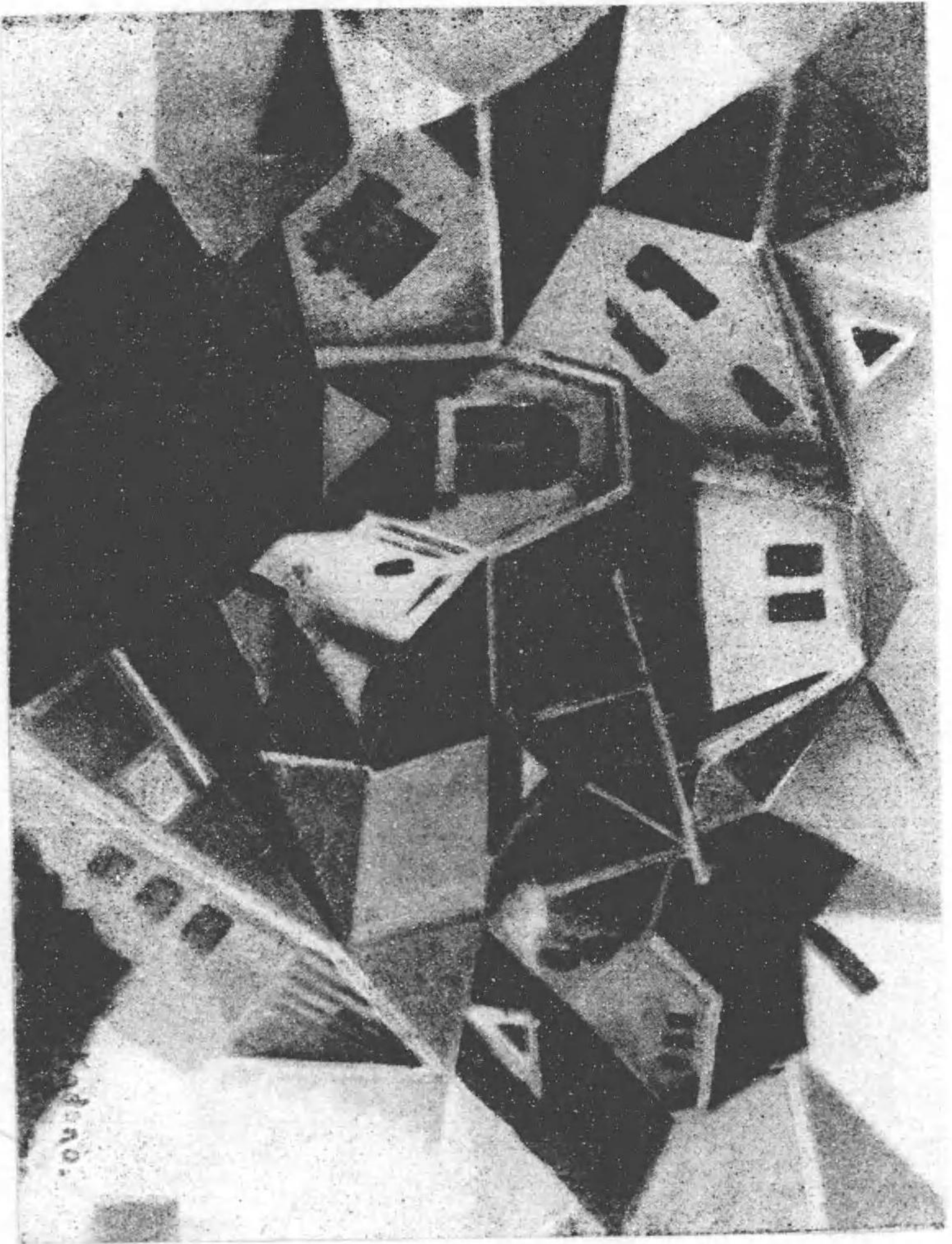


居宅の一部



ダイニング アルコーブ

簡易住宅の案 内部



現代の住宅相

自序

世の中に家を建てやうと志して居る人は可なり多い筈です。よしそれがさし當つた問題ではなくとも、少なくとも一度はさういつた問題に逢着し、または逢着することを希望することに於て、誰れにも異論はない筈です。さういつた人達のために専門家としての自分の立場から、務めて良い相談相手になつてみたいと思つたのが此書物を著した動機です。それは長い間考へて居つたことでした。しかし一定の職を以て社會に相當忙しく働らいて居るものが、その餘暇を利用して、或る思想なり知識を一冊の書物にまこめることは容易の業ではありません。出来上つたものを跡からながめて観るに、そこもこゝも足らぬ節ばかりです。自分の書きたいと思つて居たことの半分も書いて居らないやうな氣持がします。こんなものを出版することは餘計な印刷費や手数を費して、寧ろ一般を益することのすくない無駄な仕事ではあるまいか。ままで考へてもみました。しかし住居に關する知識は廣汎です。それをかやうな小冊子にまこめやうとするに自體に無理があるのではありますまいか。たゞそうツミ門の外から内部の様子をのぞいた位で満足しなければならぬやうな結果にな

るのが當然です。それは餘りに勝手な言分のやうに考へられる人があるかも知れませんが、多少とも住居の問題に頭腦をなやまされた人ならば、直ちに承認してくださる意見も考へます。多くをのぞむのは最初から無理です。若しこのちいさなもの内の何處か一ヶ所でも、讀者に利益を與へるやうな節が見せられたならばそれで満足であり、同時にまた著者も此仕事が全然無駄でなかつたここに満腔の喜びを感じる次第です。

大正十四年五月

著者

住宅を新設せんとする人の爲に

目次

一、住居と其理想	一頁
自己の家——衣食と住——住居の改造——住居の目的——人間の力——環境の感化——婦人と住居——英國婦人——裝飾と流行——臺所の問題——婦人の意見——賢澤な家——生活と家——住宅の理想——簡便——構造の安全——衛生——經濟——愉快	
二、建築家と土地	一七頁
建築家の依頼——住宅の知識——報酬——土地——土地の大小——買入と借地——土地の價格——土地會社	
三、土地の撰定	二九頁
土地と健康——氣候——土質——排水——通風——樹木——健康調査——附近の狀況——下水装置——導料水——交通機關——道路——眺望——地相——瓦斯電燈電話——租税公課——物資の供給——學校	

病院警察——娛樂機關——土地の將來

四、住宅の大きさ

設計の要素——建坪と延坪——部屋数と大きさ——室の兼用——生活の簡易化

四〇頁

五、和式と洋式

疊の家と椅子の家——座習の由來——座習の可否——座習と國民性——疊の廢止——生活の國際化——椅子式——日本家と椅子——和式の改造——洋風模倣

五五頁

六、バンガロー

平屋建と二階造——印度のバンガロー——平家建の特色——便利——繪畫的意匠——材料の經濟——宅地の關係——工費の比較——カン氏の實驗——ハーフストーリー——屋根裏の利用——通風裝置——英米のバンガロー——コッテージ

六五頁

七、住宅の様式

日本式——別荘風——農家の建築——洋式——米國式——無意義な模倣——和洋併立——新日本式——ク氏の説明——建築習慣と共通性——外形——内面的精神——品位と個性——建物の鑑賞——七のラン

九一頁

八、材料と構造

ブ——形の組合——材料の用途——傳統——材料の力——社會的家族的要求習慣——東洋人の生活
材料構造の知識——基礎工事——コンクリート——セメント——煉瓦——ホロタイル——モルタル——防水材料——木材——大壁と眞壁——虛構主義——漆喰塗——床材料——屋根材料——石材——タイル——硝子——室の高——窓の構造——天井材料——塗料——防火構造——鐵筋コンクリート

一〇七頁

九、工費豫算

豫算の決定——坪單價——立體容積——輸送の便否——時期——形式と工費——工費の節約——附帶工事費

一二七頁

十、室の類別

家の分類——間取考案の基礎——室の類別——ソロの家——ベン——ニューイングランドの臺所——居間——書齋——玄關——ポーチ——テレース——パゴラ——食堂——臺所——朝食室——寢室——化粧室——浴室——補習室——スリーピングポーチ——衣裝入——押入——階段——使用人室——地下室

一三五頁

十一、間取の考へ方

一六一頁

十二、臺所の設計

一七五頁

間取圖——間取の變化——プランの意義——スケツチ——變化の理由——立案の順序——入口の位置
スペースエコノミー——各室の連絡——ホール——構造外觀——家具配置
經濟——愉快——採光換氣——臺所の大小——設備——戸棚——仕事臺——流し——和式臺所——ノ氏
の意見——臺所の美化——位置——空氣の交流——照明——壁天井床——ブレイクファーストアルコール
——棚の種類——冷蔵庫——臺所の課程——ルーチングプリンシプル——二様の配置——流しの構造
——ストーブ——臺所の電化——電熱の特長——勞費節約——設備問題

十三、家相の吉凶

一九九頁

家相說——鬼門——運命の家——湯殿便所——竈——井戸と汚水——陰陽五行說

十四、住居と健康

二〇五頁

日光——窓——空氣——換氣裝置——清水——井戸——水の淨化——給水裝置——排水——汚水淨化裝
置——便所の構造——浴室——暖房裝置——壁付暖爐——置ストーブ——温水裝置——燃料費——熱氣
裝置——電燈

十五、裝飾家具

二一七頁

室内裝飾——色彩——日本座敷——洋室——壁紙——色の調和——暖色と寒色——色合の變化——裝飾
圖——家具の配置——仕上——居室の家具——コーンコーナー——卓子——組立書棚——椅子——
ピアノ——衝立——アン——食堂の家具——近代的食堂——食卓——食器棚——給仕卓子——食堂椅子
——寢室の家具——化粧棚——化粧卓子——小箆箱——寢臺——書卓——搖椅子——セイスロンク——
チツフォローブ——季節と家具——額——卓上と棚——窓掛——敷物——書籍と時計——床の間——
違ひ棚——日本間の調度——ア氏の日本室評

以上



一、住居と其理想

一

誰れでも凡そ世の中に、家のことを考へない人はありませんまい。靜かに落ちついて家のことを思ひ、何んなのが自分の家として最適はしいか、試みに理想の間取圖などを作り上げてみるのは、時にまつて非常に愉快なものです。殊にそれが單なる空想ではなくて、現に住つて居る家の改造であるとか、或は將來住ふと思ふ住宅新築の實際問題であつてみれば、また一層の興味も深いばかりでなく、生活上極めて意義深き、重要な問題の一つになります。自分の位置職業、資産收入、乃至は趣味、嗜好、習慣、家族の現状といったやうな、色々の點から考慮して、何んな土地を撰び、自己及び自分の家族に最適なるものを造るには何んな間取や様式の家を建てるのが、よいかをはずきり先ず觀極めなければなりません。これは幸福な、思つただけでも楽しい問題では有りますが、しかし一面には、考へて行けば行く程色んな意見や事情に左右せられて、頗る複雑な容易に決定しにくい難かしい問題となるのです。

衣や食の改良といふことに就ても、一通り困難な、簡單には極めにくいことでは有りますが、これを住居の改造又は新築問題に比べると、それでも割合に單純で、今まで着たり食つたりして居たものに、何か氣に入らない欠點でも發見せられるならば、面倒は面倒であるにしても、何時からでもその材料や方法を改めて、これを新らしい、全然別のものに取換へることがさまで難かしいことでは有りません。しかし住居の問題は、そんな風に手軽には行かないのです。誰れだつて自分の家を望まないものではありません。すべて吾が家といふものが欲しいのです。欲しいは欲しいが、さて理想通りに家を改造したり新築するといふことは、何時でも亦誰れにでも、容易に實行出来るといふ性質のことではありません。もしも凡ての人が、たやすく自分の思つたやうな家を持ち、そこに氣に入つた愉快な生活を自由に営む事が出来るならば、お互にそれは何んなにか合せなことをだらうと思はれるので有りますが、しかしそれは一つの夢想に止まつて、現在社會の事情では容易に考へられないことです。

かやうな事實のみにあつて、自分の住居を改造したり新築し得るといふ人達は、それは恵まれたる非常な仕合せものであることを先ず深く思はなければなりません。誰れにでもたやすく出来る

ことではないのです。またそれが出来るにしても、一生のうちにそんな機會は、そう度々来るものではありません。二度も三度も、自分の家を改築し得る人はめつたにないのです。それであるから一度實行して了つた上は、不注意にこを運んで、さて出来上つたものが不便だ、何うも氣に入らないからといつて、すぐ又これを建て直したり、改築を繰り返すことは出来ないものだといふことを、あはせてよく考へて置かなければなりません。色んな優れた考へや注意が、いくらあきから出て來ても、最早如何にもすることが出来ないのです。多大の時と金と勞力を費して、折角新しく出来上つた家に、充分な愉快と満足を感じないといふこと程、その人にまつて非常な不幸はありますまい。家の改造や新築が、容易に實現せられない、實は少數の幸福者にのみ恵まれたためつたに無い好運であることをよく考へ、將來取返しつかないやうな失敗をしないよう、凡ての點から慎重に考慮して、設計の當初に充分な注意を拂はれることを、私は先ず希望せざるを得ないので。寒暑風雨を凌ぐことは、勿論大切な家の効用には違ひありませんが、住居の目的は、たゞそればかりに止まらないことを、ここに新らしく述べるまでもありますまい。それは愛と平和に輝き、健康と幸福に本當の満足を味ふ、人生唯一の慰安休養の世界であつて、すべての活動の根據となり、

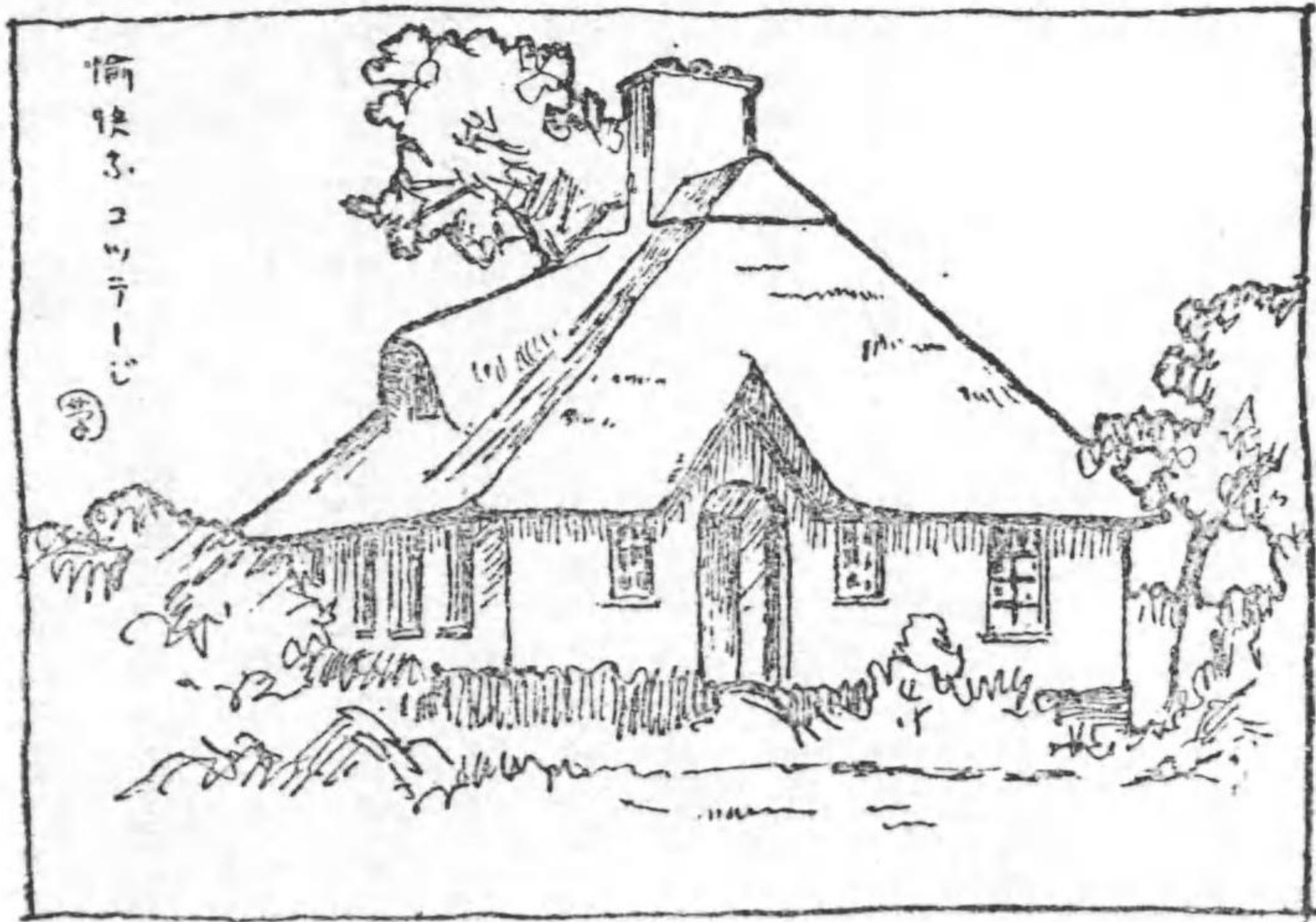
一切の生活問題がそこから出發するのです。自分及び自分の家族の外廓となり、そこに子供が生まれ養育せられ、親戚知己交遊の楽しい小天地もなれば、一切の疲勞から靜かに心身を休める、唯一の避難所ともなるのです。かやうに住居は私共の生活上、一日も欠くことの出来ない、最大切な用をするもので、それから受ける肉體と精神の影響は誠に深大なものがあります。外にあつては盛んに活動し、内に歸つて幸福な家庭の持主となつて、眞に生甲斐のある生活らしい生活を送らふにするには、何よりも前に、自分の住居を整理することを心掛けなければなりません。家らしい家に住むにふつこが第一必要なのです。

人間には、外界を支配する偉大な力があります。山を開き谷を埋め河を掘り道を通ずるにいつたやうな、自然界の開拓は勿論、重力もか熱もか電力磁力等を利用して、今や交通産業の上に驚くべき仕事をして居ります。かやうにみて行くに、人間は何でも出来る、その力は非常に強いものばかり考へられるのでありますが、しかしその反面を觀るに、また頗る弱いところを持つて居ることが知られるのです。即ち人間は、積極的には何時でも、その環境や自然の力を支配し利用することが出来るが、消極的には反對に、常にその環境や自然に利用せられ支配せられて居るのが事實なの

です。殊に日常住つて居る土地たの住宅から、知らず知らずの内に感化影響をうけて居ることは、つい氣がつかないで居るが實は深大なものがあるのです。現代の都市居住者のやうに、毎日煤烟に曇つた鉛色の空のみをながめ、建てこもつた露地の奥や、薄暗い陰鬱な満足に日光もささない長屋の隅つこに住つて居ては、健實な市民の心もいつたやうなもの、何うしてもその内に生長しやうがないのです。肉體的にも精神的にも病人ばかりです。小兒の性僻特質が、その育つて居る住宅や學校と非常に密接な關係をもつことは驚くべきものがあります。「居は氣を移す」といふ古い支那の言葉は、毎度引用せらるゝことですが誠に味ふべき名言で、土地を撰び住居を新築するには、單なる便宜や、趣味もいつたやうな點ばかりでなく、その感化が色んな點に於て、深く居住者に影響するところをもよく考へなければなりません。

二

衣食に就ては、從來その仕事が、主として婦人の分野となつて居りますが、住居の問題となるに、男子の考へが何時でも中心となつて、婦人はこの問題については、多くの場合甚だ冷淡な嫌ひ



があります。いふ迄もなくこれは非常な間違ひです。男子は主として外に働く結果、事實家のここには周到な用意を欠いで甚だくらのが普通で、寧ろ終日その家にあつて、家事や育児に忙しく立ち働らく婦人の側に、家に對する男子以上の理想や抱負が澤山ある筈なのです。

つい近頃のある英國の建築雑誌に、『婦人住宅』と題して、英國の婦人が住宅に對する態度の冷淡なここ、家庭の一員としても、その興味が殆んど裝飾とか流行の方面にのみ集中せられて居るここ、社會的に何か仕事をして居る婦人で、たまさか家に對する意見を有するものがあつても、それは英國の男の建築家は、まるで妻もなく母もなく愛人も持たずし

て、終日外にばかり暮して家のここは何にも知らない馬鹿者で心得、さてその婦人達の住宅に對する理想はよいへば、それは物入や戸欄の變つた型のものを、家の内に無暗につくれよい位の程度のものに過ぎないことを痛罵して居ましたが、吾邦の婦人についても、やはり同様のここがいへるのでは無いかと私は思ひます。吾々からすれば、住宅に對しては、一般に相當の興味と注意を持つて居るだらうと想像される英國婦人ですら、實際甚だ冷淡であるといふのは少々意外に考へられます。其れからするに凡ての點に遅れて居る日本の婦人が、この方面に同様にその智識と注意をかへりみないのは、或は無理からぬ事かも知れませんが。しかし何時までもそれでは困るのです。中には家庭にあつて、その裝飾や流行といった方面に、多少の興味を持つ人は有りませう。ものを飾りたりたり、流行を追ふといふことは婦人の通有性らしいのです。家の中を美しくするといふことは、それは決して悪いことでは有りませんが、裝飾や流行以外に、是非考へられなければならぬものも重要な部分の澤山にあることを併せて知らなければなりません。たまさか何か改良意見を發表する人はあつても、是れ亦英國婦人と同じやうに、それは焼いて了ふか捨て、了つた方が餘程利巧らしく考へられる類のものを、無暗につめ込んで置くより外に用のなさそらな物入や戸欄を、やたら

要求する類のものに過ぎないやうに思はれます。

また同じ記事に、家庭に於ける眞面目な一部英國婦人の住宅に對する批評として、日常使用する臺所の流しとか、調理用ストープの位置や高さに向注意が拂はれないために、使用上日々非常な不便を感じたり、婦人や子供では、一寸開閉に困るやうな高いところに窓があつたり、最光線の必要な臺所に、窓がたゞ一つよりなかつたり、納戸や押入、階段下の戸棚の類が多く眞暗であるために、物の出し入れに不便がすくなくないことや、小供があれば當然入用になるにきまつて居る乳母車や自轉車の置場が、最初からすこしも考へられて居らない不都合といつたやうなことを掲げて、建築家の注意を促して居ります。臺所の流しの高さが、一寸高からふが低くからうが、これを男子の立場からすれば、それは大した問題ではないかも知れません。しかし一日に幾度もなく、それを使はずには居られない婦人の實際的立場からすれば、それは可なり重要な問題となりませう。凡ての婦人の背の高さが同一でない限りには、家のうちの色んな設備の高さといふものに、その人々に適するやうなそれぞれの相違があつてよい筈です。一番大切な仕事場である臺所に光細が不充分では、終日そこに立働らく婦人をして、不愉快な不便は非常なものでせう。臺所は家の内の何の部分

よりも、最愉快な便利なものであつて欲しいところが、家庭婦人としての切實な希望でなければならぬ筈です。家内のここは成るべく婦人の手で、日のうちこれを處理せなければならぬのです。手のごとかないやうなところに窓があつたり、物入や戸棚が眞暗で、もの、出し入れにも困るやうでは何んなに不便だかわかりません。また當然入用なもの、始末がつかない等も、たしかに困ることであります。小供があれば乳母車のやうな物は必需品でせう。それが置きごころにこまつて立關先なごに放置されて居るのは、決して好ましい事ではありません。是非最初からそんな種類のものに就ても、周到な注意が必要なのです。

單に臺所や勝手元の問題ばかりでなく、居間の問題にしても寢室の問題にしても、すべて家の内は男子といふよりも、直接その管理者であり生活の指導者である婦人の方に、關係するところがより深い筈なのです。その不便や不都合を感じて、日々不快な持や無駄な非經濟的な手数を繰り返すのは男子ではなくて、家庭に於ける當面の婦人であることを思ふと、日本の住宅改良問題の如きも、なぜもつと熱心な意見が婦人の方から出ないのか、私にはそれが不思議でならないのです。住宅の設計には、男子よりも如何しても婦人による方が至當だと思はれる部分が多いためです。

何時までも不便不都合でかためたやうな家に、くすぶつて暮す必要はありません。私は日本の婦人が、此點に關し是非一考せられんことを切に希望します。

三

家を新築するのは決して贅澤な仕事ではありません。大きな地面を買ひ占め、宏壯人目を驚かすやうな家を構へるのは、それは勿論贅澤といふものでせう。たゞ贅澤だといふばかりでなく、土地を濫用し、材料や勞力を酷使する點に於て、寧ろそれは社會の禍害となるべき種類のものだといつてよいでせう。誰れでも左様いつた宏壯な家を見るに、決して愉快な心持はしないで、反つて一種のねたみと反抗心を起さずには居られません。私共の目的とするところは、そんな立派な家、贅澤な構へといふことでは勿論ないのです。

云ふまでもなく住宅は實用を元とすべきものであつて、數奇やお道樂で造らるべきものではありません。住まんがために造る、最眞面目な仕事なのです。昔の人も住居は務めて質實のものを貴ぶといつて居ります。また『家はみるべきものではなくて住むべきものだ』とは、三百年前にフランシ

ス・ベーコンの云つた有名な言葉です。その富貴や權力を、他人に見せびらかすために家は造らるゝのではなく、自分の家として、何處までも自己の生活に最適するを第一義とすべきものです。人間として、眞に満足すべき生活を營まんがために新らしく家が要求せらるゝのです。家を距れて人生らしいものが何れだけあるでせうか。生活に家は全然一つのものだを考へる方が正しいと思はれます。米國の一記者が、住居は人をして如何に生活を營むべきかを教ゆる、恰うに學校にも譬ふべきものであつて、住居は適當に改造することに、吾々の悪い生活をもつとよくする事につとめなければならぬと云つて居ますが、これは深く味ふべき至言だを考へます。

住宅の理想としては、色々の點をあげることが出来ます。たゞせば、(1) 閑靜であるべきこと、(2) 氣持のよいこと、(3) 便利であること、(4) 窮屈でないこと、(5) 無駄のないこと、(6) 明るくて風通しの良いこと、(7) 健康に適すること、(8) 内外ともに美しいこと、(9) 愉快なこと、(10) 陽氣で晴れやかなこと、(11) 優美なこと、(12) 品位が具つて賤しからざること等、かういつた風に考へて行けば色んな項目が幾つでもあげられ、また人によつては、その良しとするところに多少の相違がある筈です。しかしこれを要するに最一般的にみて、私は次の五つの點に凡てがつくされるを考へて居ります。

それは第一簡便といふ事です。家の内も外も凡てが簡單にして清楚で、實用と便利を主とする事です。單純といふことは凡てのもの、最上で、何の飾りもないところに、反つて最美しいものが發見せられるのです。複雑になればなる程、ものは行き詰つて來ます。現代の複雑を極めた生活には、何人もみな心からなやまされて居るのです。吾人は何よりも先づ住宅を出来るだけ簡便に、主として實用から出發することを考へなければなりません。

第二は構造の安全といふ事です。構造が堅固で耐久的で、不事の災害即ち火災とか地震とか暴風雨に耐え、安心して生命財産を詫し得るものが必要なのです。大正十二年九月の東京地方の大震火災は、地震に對する更らに新らしい恐怖を私共に呼びさませました。いくら見掛けが立派で體裁がよくとも、少し大きな地震にでも遇へば、一たまりもなくつぶれて了ふようなものでは、到底安心して、一日もその中に暮せるものでは有りません。家の實質が最安全堅固な構造で、其處に安心して生命財産を詫し得るものを吾人は要求するのです。

第三は衛生上の條件を具備する事です。心身の健康が、人間としては何れだけ幸福であるか、それはいふまでも無い事です。いくら物質的に恵まれて何の屈託もない人でも、その健康に不満

があつては、それは何の足しにもなりません。お金を山程積んでも換へる事の出来ないものは生命です。土地が健康に適し、家が日常風通しは勿論、凡ての點に於て衛生上の條件を具備し、一家がそろつて健康を楽しみ幸福を味ひ得るものでありたいのです。

第四は無駄な部分が無くして、經濟的な事です。經濟を離れては、一日も私さもは生活する事が出来ない世の中です。家が最經濟的で、最少の勞力と費用から、出来るだけ満足すべき効果のあがるものにしたのです。新築に對する建築費の負擔が、成るべく軽くすむことは勿論、これを維持管理してゆく上に、出来るだけ無駄な費用や勞力がはぶけて、その日その日の仕事が、最圓滑に運ぶことを理想としなければなりません。

第五は眞に家を美しく楽しく樂しいものとする事です。無暗に飾りたてる事が、必ずしも家を美しくしる事ではありません。すきまも無く高貴なもので飾りたてたお客間で、幾百圓といふやうな立派な椅子に腰をかけて居るよりも、くすぶつた圍爐裡のまはりに溢茶をすゝつて話す方が遙かに心も安く氣も置けないで、本當の友情といふものが暖められることを思つてみる必要があります。一流の裝飾品店や美術商から、高い金を出して買ひ調へた家具調度をならべ、一幅何千圓と

いふやうな繪でも掛けなければ、裝飾にならないといつたやふなことを、もし考へる人があるならばそれは大きな間違ひです。有りあはせの物でも、これを自分の氣持に合つたやうに布置安排するところに裝飾のアイトは有ります。人ご家ご家具調度は、びつたり一致すべきものです。いかにもその人の家ごして、その生活に不斷の落ち付きが認められ、見るものをして云ひ知らぬ親しみを覚えしむるここが必要です。

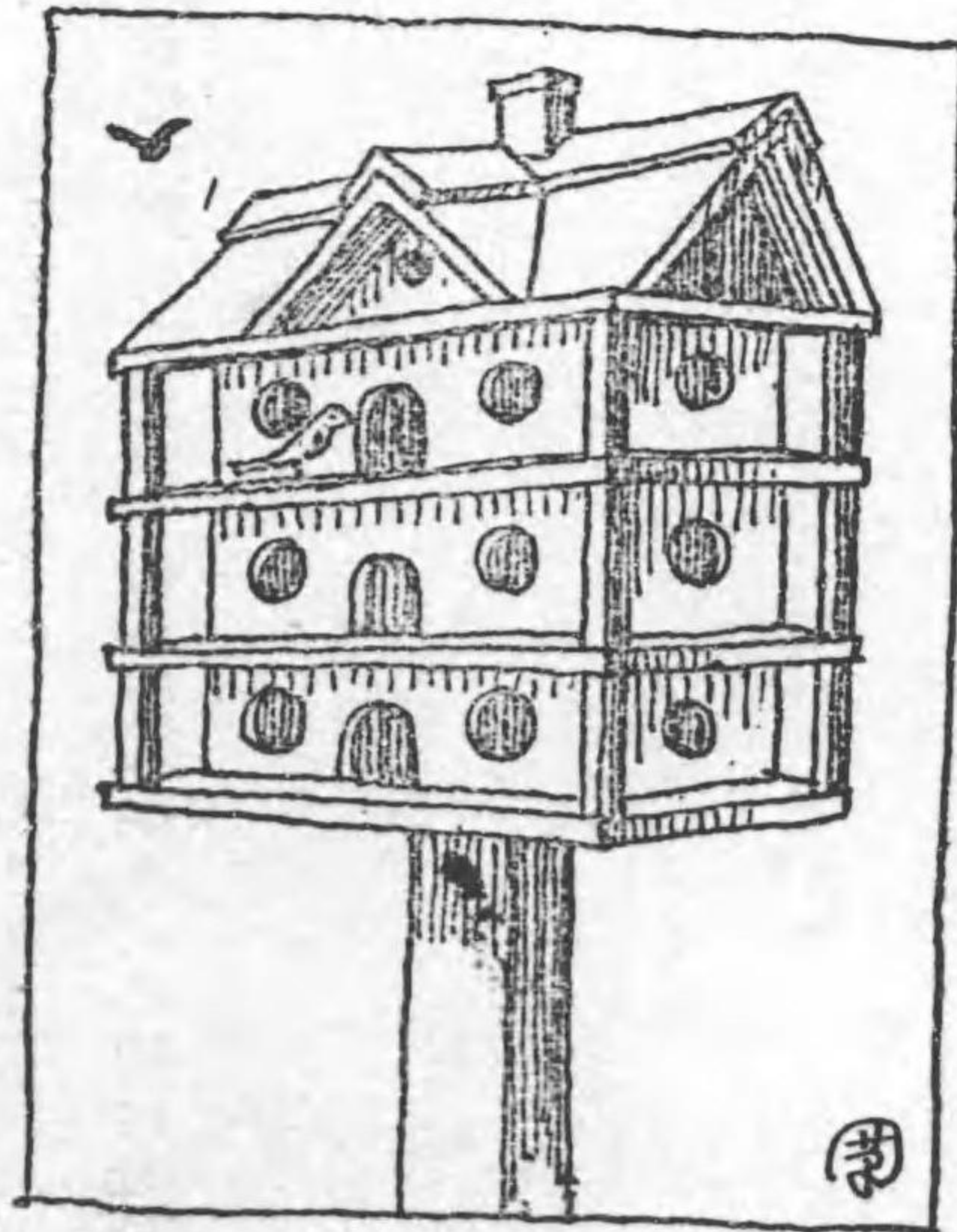
以上の五つが私の考へる住宅の理想で、家は出来るだけ簡便で堅固で、衛生と經濟の條件を具備し、愉快な住心地のよいもので有りたい。この五つの點を具備するならば、是れを理想の住宅と稱するここに何人も異議はなからうと考へられます。簡單にして便利さばかり考へて居つても、何うも複雑なものになり易い。堅固を主として居るつもりでも、兎角構造上の無理が出来て、それから色んな豫後のわづらひがあり勝ちです。衛生的に、また經濟的にいふにはいつても、事實非衛生的で、非經濟的の家が多く出来上るのです。何んな家が真に住心地よく、愉快な家であるかといふことを本當に知つて居る人は、意外にすくないものです。従らに文化といふやうな美名に憧れて、無意義な表面的の洋風模倣や外觀裝飾に、うき身をやつすのが多いのです。この五つの點は、いふ可

く實は甚だ簡單では有りますが、その實行に至つては頗るむづかしいのです。土地の撰定にも建物の設計にも、常にこの五つを完備するには餘程行届いた注意が必要です。一寸見には中々良く出来たやうに觀へる家でも、悉しくみるに何處か欠點のあるのが普通です。設計の當初から注意の上にも注意を加へて、出来るだけ理想に近いものを造るやうに心掛けたいものです。

新らしき夢わら帽子新らしき
心にうごく夏は來にけり

草 一 郎

小鳥の家 そのま



二、建築家と土地

一

家を新築するにいふところがきまるに、當然私共は二つの問題に遭遇しなければなりません。それはかうです。(1)その家の設計や製圖、及び工事の監督を依頼すべき建築家を誰にするかといふこと、今一つは、(2)建築する土地を何處にきめるかといふことです。即ち建築家と土地の撰定といふ二つの問題が、先ず定められなければならぬことになるのです。

出来るならば土地をきめない前に、豫じめ建築家を依頼して置くことにしたいのです。而して建築家に、土地撰定に關係のある色々な重要事項の相談をも、あはせてするのが順序としてもよければ、また非常な便宜でもあるのです。ところが實際、そういった例は極めてすくない。多くの場合土地がきまつて了つてから建築家が依頼せられる、それが爲めにいざ設計となつて、後から色々な土地の欠點を發見することが多いのです。そんな事のないためには是非、土地を撰ぶ以前に建築家の方からさきに定めるやうに仕たい。而して建築家に相談することは、單に建築上の問題ばかりで

なく、土地を定める上に大切な買格や買入条件であるとか、地形、眺望、隣地との関係、土質、水質、道路、排水並にその土地の將來等、すべて必要と思つたことは建築家の意見を徴するやうにしたいのです。經驗と思慮に富んだ建築家ならば、種々の場合にあつても來て居れば、様ざまの事情にも通じて居るのでありますから、依頼者に必ず相當の満足を與へるばかりでなく、そのために何れだけ利益を受けるかわから無いのです。殊にいまあげたやうな事項は、その何れの一つを誤つても、それが色々な無駄や失費の原因となつて、後々まで影響するやうなことになる得るのです。建築家の意見を徴することは、依頼者にとつては決して無用のことではないのです。

現在吾が邦では、建築家の數が甚だすくない。民間に事務所を置いて、ひろくアーキテクトの業務をこつて居る人は數へる程しかありません。したがつて隨所に何時でも、相當信頼すべき建築家を得ることが出来ないことになります。これは頗る遺憾なことではありますが、差し當り仕方ないことです。それがためには止を得ず建築せんとする人自らが、自己の住宅の建築家となつて……といふのは、必要な圖面を作ることから直接建築業者と相談して、工事を進め、これを監督することまでやらなければならぬ場合が起るのであります。これは随分面倒なことでは有りますが、さて致方

の無いことで、そのためには是非住宅建設に對する、一通りの知識の準備を必要とするのです。此ことは難かしいことには違ひないが、しかし何人にも心得て居て欲しい、また相當の興味をもつて誰れでもやり得ることなのです。

ある種類の家では、はじめから建築家を要しない程度のものが有ります。よしまた信頼すべき建築家がある場合にしても、住宅の如き性質の建物は、各人個々の、互ひの相違のある生活と密接の關係があるのでありますから、すべて遺憾のないやうにするには、ひそり建築家のみに放任するわけには行きません。依頼者自身も、必ずこれに對する準備知識をもつて、設計や工事の進行に充分な理解をもつことに務める必要があるのです。注文者が相當な理解をもつて建築家と交渉せられることは、技術家にとつても何れだけ都合の宜いことかわかりません。そういった依頼者がすくないので、建築家の方は何時でも困つて居るのです。

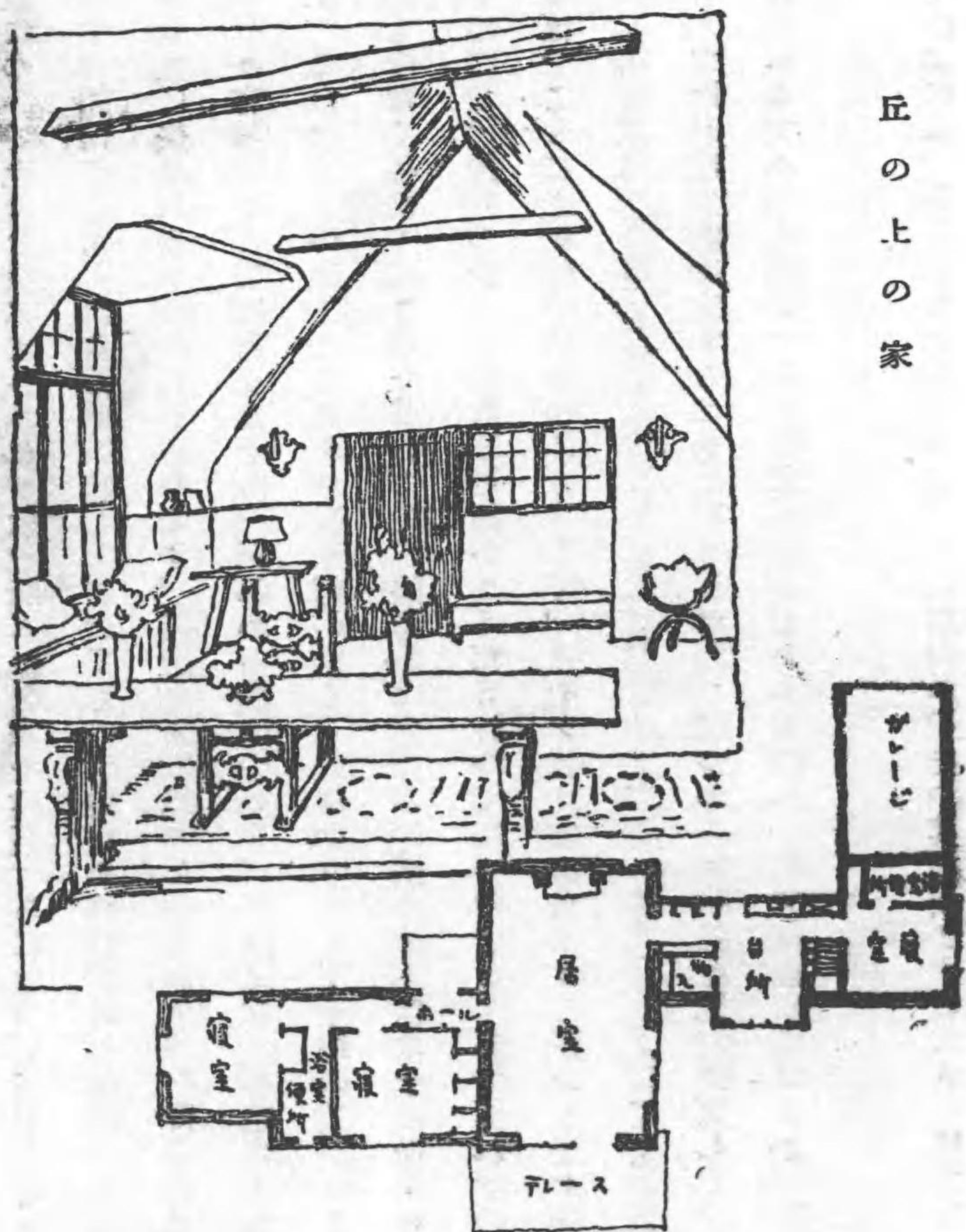
技術家の撰任については、その人の意見は勿論、その人が從來やつて來た仕事ぶりをよく調べて、果して充分信頼するに足るか何うかといふことを定める必要があります。一度依頼して了つてから何うも自分の思つたやうでないからと云つて相方互に迷惑となるやうな結果を來すことが間々あ

ります。最初に充分の注意がしてあれば、こんなことは無い筈なのです。また自分が當初撰んだ建築家が、思つたやうでなかつたといふので、それを非常に悪くいふばかりでなく、すべて建築家といふものが間に合はないものであるかの如く、まことに亂暴なはなしをする人も稀れには有ります。家を建築するに、建築家が無用ないはれは何う考へてもないのです。最初に撰任を誤らないことが大切なのです。

技師を依頼するのは費用を要するところです。それが何だか餘分な費であるかのやうに考へる人もあります。吾が邦では建築家が請求する報酬は、總工費の百分の五を普通とします。建築費二百圓の家とすれば、一坪に對し十圓だけ餘分の入用がかかる譯です。しかし多少ともものを考へる人であるならば、それは全く無駄なものか、又は有要なものかはすぐ分る筈です。分つて存外分らない人が、世の中には可なり多いことを記憶しなければなりません。家を新築せんとする人は、此點についても、充分な了解のあることが望ましいのです。

二

丘の上の家



建築家について土地を撰ぶといふことは、新たに家を建築するに當つて、最初のまた最難かしい問題です。如何に建物それ自身が完備して居つても、土地がそれに適應しないときは、その價値の大半は永久に失はれるといつてよいのです。無論自分の思つたやうな土地を得ることは、實際問題として中々容易なところでは有りません。何れかの點について、不満足ながら讓歩する必要が生じてきます。これは止を得ないことです。吾が邦の如く、人ばかり多くて土地の狭いところでは、自然土地も少なく價格も高くなり易いので、限られた豫算の範囲内で適當な土地を求めるといふことは多くの場合、最むつかしい寧ろ不可能のことだといつて宜いのです。必ず何れかの點について……例令ば、こゝに十ヶ條の要求があるとして、内七ヶ條までは合格するがあゝ三ヶ條が不合格であるといふ場合、當然その三ヶ條を犠牲にしなければならぬやうな事の起るのは止を得ないのです。そうでもしなければ到底決定するときは有りません。幾つかの候補地を比較研究して、自分の最重要とする點から次々に吟味し、その要求に最もそふものから順次にきめてゆくより外はないのです。

土地を撰ぶには、凡そ何れだけの大きさが人用なのか、先ず其必要とする大きさの見當を定めてかゝ

らねばなりません。自分の頭に書いて居る家に對して、何れ位の大きさの土地が入用かが問題です。即ち土地は建物の大きさに對し、何れ位の廣さが最適當か、土地と建物の割合如何といふことです。無論敷地は大きければ大きい程、多々益々便するには相違ありませんが、限りある費用ではそうは行かないのです。元々地價そのものが高すぎるのですから、いくら大きく取らふと思つてもそうは行かない。自然費用の點から、最少限度といつた範圍に限らざるを得なくなるのです。即ち土地の大きさは、建物の周圍に相當の餘地を存し、充分の日光と風通しが有るといふ程度で満足しなければならぬのです。地形や附近の狀況如何によつて、そこに多少の相違は有る筈ですけれど、一般に、建物坪數の五倍位を最少限度とすることが、最適當の大きさでは有るまいかと私は考へて居ります。假令ば、建築せんとする家の建坪を約三十坪と假定するならば、土地はその五倍、凡そ百五十坪もあれば充分だといふことになります。四十坪ならば二百坪です。出来るならば何れの場合にも、せめてこれ位の大きさの土地を得たいので有りますが、一般の事實は、そこまでの餘裕を許しません。價格によつては、三倍位のところで、満足しなければならぬ場合が多いのです。敷地を成る可くひろく取つて、其一部を菜園や花園に利用することは望ましい事では有りますが、一坪何十圓、

或は處によつて百圓以上にも當るやうな高價な宅地を、さういつた目的にむざむざ使用するのはいかにも不經濟な、寧ろ一種の贅澤だとも考へられます。左様した目的には多少の不便は忍ぶにしても、遙かに地價の安い、すつこかけ離れた土地を撰ぶのが至當でせう。

土地を永久に買入れるか又は借地するかといふことも、初めに研究さるべき重要な問題です。土地の事情によつては、比較的少いさな宅地の場合、これを買入れる費用に比べて借地料を拂つて借りた方が、遙かに有利な場合もあります。借りるならば割合に地代も安くて、思つたやうなところを得ることが出来るが、さて買ふことになるに非常に高いといふやうなことが有るのです。地主によつては先祖代々の所有地で、家門の手前、貸しはするが賣ることは絶対お断りだといふ向等もあります。借地には月々何程かの地代を拂ふわづらはしさは有つても、土地の買入れと建物の新築の兩方に同時に金が人用なのが、その一方のみで済むといふ便宜もあります。しかし買入れの方にしても所有者が有力な土地會社か何かで、代價の分割支拂や月賦拂の方法の設けてあるところならば、必ずしも最初から地代全部を用意する必要がないのです。たと借地といふことには、地主により、建物の大きさや構造に就いて、色んな壓迫や制限を設けることが有り得るのですから、それ等の有無も

よく調査しなければなりません。所有者が變つたために、地代が急に高くなつて面喰ふやうな例もよく有るこゝです。

買入れの場合には、その價格が問題になります。自然が自由に人間に與へて居る筈の土地を、これは誰れの所有だかれのだと區ざりをつけて、事實必要な土地でも金がなければ得られないといふのは、不都合だといつたやうな理想論は成り立たないにしても、成る可く安價でよい土地が自由に得られるやうにしたいのです。それは何人も望むところに相違ありませんが、今のところでは豫定の價格で希望通りの土地は、なか／＼容易くは得られません。

都會に近い土地が、不合理に高いのが吾が邦の現状で、一寸考へられないやうな値段が呼ばれて居ます。單に交通の便利があるといふだけで、上水下水の設備を欠いで居ることは勿論、宅地らしい何等土工をも加へず、かりに多少の土工がしてあつたとしても、それはほんの小供だましのやうな仕事をしたばかりで、理想の住宅地なご大きくふれ出し、一坪何十圓といふやうな呼値をいふのが多いのですが、これは以ての外のことです。本來宅地の價格なるものは、その原價、即ちこれを耕作地と見ての價値に、宅地として必要な設備や土工費、及びその資金に對する一定の利子を加算し

たものが、その土地の正しい價格である筈で、この見方からすれば、殆んど半分の價值すらないものが多いのです。例令ば土地の原價が是れを耕作地とみれば一坪二圓に當るゝする場合、それに加へて切盛土、道路、石垣、上水下水等の設備に對する費用が、平均一坪に十圓の割でかゝつたゝすれば、その土地の實價は一坪十二圓といふことになります。出來上つたものが、直ちに賣れて了ふものならそれでよいが、左様でない限りは賣價として、是れに必要な管理費や利子をも加算しなければなりません。それでも一坪十五圓を出ることは稀な筈なのです。それが事實は、二十圓以内といつたやうなところは皆無で、多くは四十圓五十圓、場所によつては七八十圓、百圓を稱するものは、何處かに不當な暴利がひそんで居るからで、一般には迷惑の上もないことです。

金の有り餘るやうな人は別として、すべてが切りつめた豫算の範圍内で、土地も買へば家も建てやうとするので有りますから、出來るだけ土地が安くなくては困るのです。そのためには努めて、投機的に取扱はれて居る土地の環内から離れて、種々な不便は止を得ないに忍んでなりとも、より安價な處女地を撰び、自ら必要な盛土と地均しと、土留石垣の築造、給水排水の設備をするのがより利益の場合が有りうるのです。大きな資本の土地會社と住宅會社といつたやうなものがあつ

て、完備した理想的の宅地を、便宜に安價に一般に提供することは非常に望ましいことです。何うしても大きな規模の資本を投じなければ、ほんとうに文化的に開いた宅地を、安價に提供することは出來ません。しかし徒らに名ばかりで其實のない、全然投機的のもの、多いのは、反つて有害で、そんな種類のものは寧ろ社會の爲めに、大ひに排斥すべきで有るに信じます。

めしいたる乙女の戀かくらやみに
さゝやく水の音のかなしさ

草 一 郎

小鳥の家 その貳



三、土地の撰定

土地がその居住者の健康に、密接の關係をもつことは云ふまでも有りません。人にして誰れしも健康を望まないものはないのでありますから、土地撰定の標準として、第一に健康地といふことを目途とするのは、至極當を得たことだを考へられます。

英國の建築家パニスター・エフ・フレツチャー氏は、その著「建築衛生學」のうちに、此問題に關して次のやうに記して居ります。

「敷地が衛生的條件を具備することの必要は、無論明らかなきことです。何故ならば、如何に建物に充分の注意を加へても、肝心の土地そのものが非衛生的であるならば、それは何の甲斐もないことだからです。無論多くの場合、建築家はその相談にあづかつて居らない。また市街地の如きでは、それが丘の頂であらうと雖であらうと、既に建物の位置が限られて了つて、選擇の餘地は無いのですが、それでも出来るだけ良くない條件は避けたいのです。しかし田舎の何處でも思つた

やうな場所を撰び得るころでは、最健康的の土地を撰定することが、建築家としての第一の任務です。』

同氏は右のやうな見地から、土地撰定の場合、建築家が依頼者に注意しなければならぬ條項として

- (1) その土地の氣候が健康に適すること。
 - (2) 土質が乾いて透透性に富むこと。
 - (3) 適當な傾斜を有して排水に便利なこと。
 - (4) 風通しのよいこと。
 - (5) 適當な樹木の保護を有すること。
 - (6) その土地居住者の健康状態を調査すること。
 - (7) 附近に不快な音響や臭氣を發する工場其他の存在しないこと。
 - (8) 完全な排水設備を有すること。
- の八ヶ條をあけて、建築家の参考に供して居ります。何れもみな重要な事項で、土地を定める

上に充分注意をすべきことばかりです。

土地の氣候、即ちローカルクライマートが健康に適するや否やいふことは、ひゞり人體の上のみでなく、建物の形式や構造に、種々な變化を與へる原因の重なるものになります。その土地の溫度や濕度の高低、雨量の多寡、風力風位の如何を明らかにしないで居住地を定めるのは、寧ろ冒險です。地理や地形の如何によつて、同一の地方でも部分的に、氣象上の著しい相違があり得るので、すから、その土地特有の狀況を明らかにして置くのは、人々家々兩方の上から、非常に大切なことなのです。例令ばその土地に最多い風位のことをよく調べずに家を建てること、一番重要な風の吹いて來る部分を壁でふさいで了つて、誠に風通しのよくない家が出來上つてしまいます。今すこし家の方向をかう變へればよかつたこと、後から何んなに思案しても、それは何う直すことも出來ません。また暴風雨の如きは、常に殆んど一定の方向から來るのでありますから、不用意に造られた大きな窓がその向にあるために、風雨の際には何時でも困るやうな例は珍らしく有りません。

一般に山地は、溫度が低く雨量が多くて、風が弱く平穩であります。海岸は反對に、溫度も高く雨量も少なく、風が強いのです。人間に最適した居住地は、この山地と海岸の中間、殆んど

氣候の中和を得たところが最理想的だと言く人もあります。或は左様かもしれませんが。吾が邦は全體として雨の多い、湿度の高い邦です。それが爲めに自然に建物の軒が深く、風通しのよいやう何の部分も、極めて開放式に發達して來て居るのは、決して無意味なことではないのです。氣温と湿度の關係が、歐米各國と全然異つた状態にあることも、建築上非常に注意を要する點だと言へます。次に重要なことは土質でありまして、その土地の土質如何は、居住者の健康は勿論、家の構造や耐久力にも、影響するところが大きいのです。土質は常に乾いて、滲透性に富むことを必要とします。濕氣の多いといふことは、地下水の深いと浅いによつて、その蒸發に多少を生ずる結果です。地下水が相當深いところは、その蒸發も亦少ないのですが、反對に浅いところは蒸發が多くて、土地が常に濕氣を保ち、そのために地表面が冷却せられて、居住者の健康や建物の保存に、色々の障害を來すのです。地水は少なくも地表面より、五尺以下にあることを必要とする言説して居る専門家もあります。

一般に粘土層は、雨水が容易に滲みこまないため、自然に濕氣が多い。濕氣の多いところは、健康上に色んな障害があるのです。例令ば呼吸器に關する疾患、リュマチス、神経系の各症によくない言はれて居ります。沼地が不健康地であることは人のよく知るところで、マラリヤ其他類似の疾患多く、殊に夏分は不快な臭氣を發し、蚊が群生して、種々な病毒の傳播をする恐れがあります。止を得ず比較的低濕の地を撰ばなければならぬ場合は、地下排水の適當な方法を講ずる必要があるのですが、これは手敷を要し、且つ相當な費用を要することは勿論です。

砂利層や、砂交りの粘土や、充分締つた砂地は何れもよいとせられて居ります。岩石はよいには良いとしても、掘鑿に費用を要します。コンクリートやモルタルの材料となる砂利と砂、又は壁用の粘土が敷地から得られるところは、それを直ちに利用することによつて、意外に重寶です。盛土をして充分締つて居ないところは、兩三年の内には必ず建物に故障を生じます。塵芥や不潔な土で埋めたところが非衛生であるは勿論、嚴格な意味に於て盛土は、現状のまま、少なくとも十五ヶ年を経過しなければ、本當に家は建てられないと定めて居る人もあります。

第三は土地が排水に便利なやう、何の方向にも適當な傾斜をもつことです。のんびりと緩やかな傾斜をもつた土地は、宅地として誠に適はしいものです。しかし餘りに傾斜が急なところは、見晴しがよいといつたやうな特長はあるかもしれませんが、一般に好んで求めるべき土地ではないと信

じます。それは家が建つて一部分、即ち建物と山の傾斜面との中間に、空氣の停滞を生じ易くて、往々風通しを悪くする欠點があるばかりでなく、出入に不便で、基礎工事に意外の費用を要します。高い傾斜面の土留工事はなか中面倒なもので、豪雨の時なきに、豫想外の危険を伴つた例も少なくはありません。

二

第四は風通しの宜い土地といふことです。住宅は家そのものが風通しがよいといふばかりでなく、同時にその土地も亦、風通しの充分なところでなければなりません。何の方向からでも自由に、風が吹き通すやうな地勢を必要とするのです。こゝに注意すべきことは、土地が、沼地や汚水溜りのやうなものに接近しないといふことです。左様なものが附近にあると、その方向から風が吹くとき、不愉快な臭氣や、有毒な瓦斯をもつて來られる危険があります。しかし止を得ずそいつた土地を撰ばなければならぬ場合は、その不潔なもののある方向に、樹木を植えて、風の吹き通すのを防ぐ方法をこらなければなりません。丘の頂等小高いところは、風通しはよいには宜いが、餘りに強く

風雨に吹き曝らされて、家の構造上種々の不利益があるばかりでなく、反つて不快を感じるやうな場合が多いのですから、務めて避けたいのです。

第五は樹木によつて、適當に保護された土地といふことです。前に記したやうに、土地の風通しは無論必要なことには相違ありませんが全然むき出しで、少しも樹木の保護のないやうな土地はよく有りません。北よか西よか、特に寒い風が吹きついたり、又は風當りの強い方面乃至色んな障害のある方向は、これを樹木で保護するといふことが必要なのです。雪國なきを旅行するに、特に雪風の吹きつける方向をこもり樹木で包んだ農家を見受けますが、見るから暖かさうで、落付いた感じのするものです。同じ村落でも、樹木の多い村と少ない村とは、住む人の心持も違ふやうに思はれます。しかし餘りに茂つた大きな樹が、建物に密接してあるといふことは、採光を妨げ、部分的に通風の停滞を來す恐れがあつてよくありません。少なくとも其樹の高さだけは、建物から遠ざかる必要があるといはれて居ります。即ち高さ三間の樹ならば建物から三間、五間の樹ならば五間といつたやうな具合に、ある相當な距離を保つやうに建物を配置するのです。氣温を調節する上にも、樹木はまた非常に有効でありますから、土地の状況に應じ、適當な樹木を植えて置くとい

ふところが、健康上にも亦外觀を美しくするためにも大切なことです。

第六は主としてその地方居住者の健康状態、病人の死亡者の割合、中でも最多の病氣の種類等を豫じめ調査して置くことです。自分が未だ住んだことのない、全く新規な土地を撰ぶさいふここには、色々の危険があり、種々な方面からの研究が必要となつて来るのでありますが、その地方在來居住者の保健状態について、充分に知つて置くさいふここも、また大切な一面でありませう。一ケ年に何れ位の人が病氣にかゝり、その内一番多いのが何病であるか、特にその土地に限つて多い地方病といつたやうなものゝ有無、これらに就て充分信頼すべき數字を得ることは、吾が邦の現状では何處でも容易に知られるさいふここでは有りませんが、出来るだけ左様いつた方面の材料を取り寄せるなり、またそれ／＼専門家、殊にその地方の經驗ある醫師の意見を聽いてみるのは、健康さいふここを考へる上に於て、決して無駄ではないのです。

第七には附近に不快な、非衛生的のものが無い土地さいふここです。フレッチャー氏は避くべきものとして、石鹼工場、煉瓦窯、革製造場、セメント工場、石灰製造場、屠場、墓地、汚水溜、塵芥溜、古池の類をあげて居ります。不潔な汚水や塵芥溜のあることの不可は勿論、すべて不快な音

響だの、臭氣だの、瓦斯だの、煤烟塵芥を發散するやうな工場附近は、是非避けたいのです。墓地の如きも、決して心持のよいものではありません。ドクトル・ホワイトレッジ氏は、墓地の附近は死亡率が非常に高い。それは墓地から發散する炭酸瓦斯の過剰によるさいふここ居ります。或はそのなごこが有るかも知れませんが、兎に角眼でみるだけでも、餘りよい感じのものではないのです。二階からお墓を見下すやうなところは、誰れだつて避ける方が本當でせう。尙ほ此外に多數の人の集つて、騒々しく塵のたちやすい寄席芝居のやうなもの、及び風規を害する待合、貸席、料理店等のあるさいふここも宜しくないのは勿論のことです。學校のやうな、何ちらかさいふここへは割合に害のなさそうに思はれるものでも、神経性の居住者には避けた方がよいと、専門家は説いて居ります。

第八は完全な下水装置を有する土地さいふここです。汚水の處分が完全に出來ないやうな土地はいふまでもなく住宅地として最非衛生的で、是非新式で充分な傾斜と換氣装置のある、安全な下水装置が欲しいのです。しかし市街地ですら、未だ完全な下水装置のないやうな目下の現状で、郊外地にそんなことを望むのは無理であること考へられ、事實殆んど皆無の状態ではありますが、それは考へ方であつて、市街地の擴大な地域の下水装置を、理想的に改造するさいふここは、中々容易の仕

事ではないかも知れませんが、新しい郊外地にあつては、地域も限られて居つて、比較的容易に出来ることだ云ひ得るのです。たとへば經營者にも亦居住者にも、兩方にそんな必要が少しも考へられないで、汚水は簡単な溝でもあつて、何處かへ流出口さへあればそれでよい位に、至極香氣に考へられて居る内は駄目です。是れは住宅地としての、最大な欠點の一つで、下水装置さへ完備して居れば、一番困る水洗式便所の始末等も容易です。それには是非、少なくとも地下三尺位の深さに、暗渠式の下水があつて、適當な汚水處分の方法をも設備したもので有つて欲しいのです。建物一戸毎に、相當な汚水處分の方法を講ずるのは、非常に工費を要し、また多少不完全を免れないので有りますが、これをその土地全體として計畫するならば、工費も割合に安く安全で、戸毎に何れだけ有利だかわかりません。

以上は主として衛生上の見地から、土地撰定についてのフレツチャー氏の八條項であります。尙ほこの外に大切な飲料水の問題があります。何故に同氏が、土地撰定條項の内に、飲料水をあけて居らないのか、それは別個の問題として、兎に角水は人間一日も欠ぐことの出来ない、大切なものでありますから、飲料水の有無といふことは、土地撰定上の重要事項の一つで有る筈です。

市街その他、完全な上水設備のあるところならば、元より議論はありませんが、多くの郊外地では、左様いつたことは望めません。自然井戸水によるの外はないので有りますから、先づその水の良否、水量の如何を知る必要があります。井戸水殊に浅い井戸の水は、非常に不確實なもので、飲料に適する等立派な證明があつても、事實絶対の信頼は置けないのです。季節の變化は勿論、附近の状況如何によつて、随分著しい變りかたをしますのでありますから、これ亦下水装置と同様、完全な上水設備が是非欲しいのです。上水道の設備も下水道と同様、これを一戸毎に井戸水を濾過したり、ポンプで高いタンクに押し上げるやうなことをするに、費用もかゝれば故障もあり勝て有りますが、是れを土地全體として潤澤な水源により、合理的に計畫するならば、經費も少なく、安心して飲める水が得られるので、經營者の當初の考へ一つで、さまで困難のこゝではないのです。

三

土地撰定には完全な交通機關があつて、往來の便宜があるといふことが、飲料水その他、衛生上の問題に最も重要な點になります。電車または鐵道の停車場から、十分乃至十五分位のところが

最理想的でせう。停車場のすぐ傍の土地を、最良いこ考へるのは間違ひです。必ず相當の距離を置いて、その騒音や振動から離れる必要があるのです。

また往復の道路がよくなくてはならぬのです。田舎は何處でも道が悪い。毎日都會へ出て來るのに泥だらけの靴をはいて來なければならぬやうでは困るのです。一般に宅地の北側または西側に道路のあるのは、建物の配置即ちプランニングの上に、非常な便利があります。それは最日當りのよい東方及び南方に面する部分に、主要な部屋を置いて、見晴しなり庭園として、有効にその土地を利用し得る便利があるからです。

『さへざるもの、無い良い眺望は、見積ることの出來ない慰安と満足にあたへる』と、英國の建築家ウエルチ氏は云つて居ります。無論眺望いふことは土地推定上の、有力な條件に相違ありません。米國のエル・イユジン・ロビンソン氏も、その著『住宅建築』の内に

『土地を撰定するには、美的考察即ちエステチックセンスを主とするのが第一で、實利的考察即ちビジネスセンスによるのは第二です。其土地は、其處にホームを置くといふ必要から、先づ人の眼を娛しませるいふことが大切なのです』

と説いて居ります。或はその通りかも知れません。見晴しのある良い落付いた景色の、終始觀ておくことを知らないといつたやうな土地は、誰れでも望むところでせう。しかし私共がこゝに考へなければならぬのは、家を建てるのは、單に景色を觀るこいつたやうな遊樂氣分からではないといふことです。居住いふことは、眺望をたのしむ別荘風の考へは全く別物で、この意味に於て、たと眺望や見晴しを主として土地を撰定する世間風のやり方には、あまり賛成は出來ないので。住宅は贅澤品ではなく、一個の實用品です。いくら景色がよく見晴しに富んで居つても、種々な欠點、例令ば傾斜が強すぎて、日常の出入に非常な不便があつたり、大切な飲料水に不自由があつたり、物資の供給に不足したり、日々生活の上の色んな欠點があつては何うにもなりません。そんな土地は、殆うに顔ばかり美しくして心の貧しい、欠點の多い婦人と同様です。觀て居るにはよいかも知れませんが、それでは人間として働らきがありません。たと隣地や附近に、何等見苦しいものが無く、住居として充分落付いた、永久に住んでみたいといふ心持のある土地ならば、それで充分満足に値するのです。

古來地相いふことが、家相と相並んで唱導せられ、土地の高低形狀等について、その吉凶を易

者やトビ先生に觀てもらふといふことがあります。多くは地形の張り欠け、即ち凹凸如何によつて吉凶を論ずるので、一般に地は東南より西北に延びる形を以て吉相とし、その反對西南より東北に延びる形を凶相とします。また正方形の土地や、道路の突當りにある宅地、墓地塚跡、堂宮の跡、古戰場行宮英雄の宅跡、田圃水場等を忌みます。すべてこれ等は、靈氣殺氣妖氣の滯るるところです。四神の備へを稱して、前に平野、後に丘陵、左に流水、右に林野のある象を理想地として居ります。元より現代の土地撰定法としては、特に據するやうな種類のものでは有りません。たと宅地を撰ぶのに、天地自然の理によつて、是れを輕率にすべきものでないといふ主意だけは學んでよいでせう。土地の形狀如何は、通風採光は勿論、建物庭園の配置利用上に、重大な關係を及ぼすものでありますから、餘りに變つた不規則な土地は、此意味に於て避ける方がよいのです。

瓦斯や電燈電話の便利も考へて置かねばなりません。自然の風物の中に在つて、出来るだけ現代科學的文化の利便をうけるといふことが、住宅地の理想です。しかしまた一面には、粗野な不足勝ちな田園らしいところに、捨てがたい風情のあるところをも考へなければなりません。何處までも田園氣分を失はないことにつとめたいのです。現在普通の都會附近では、電燈のないといふところ

は殆んど無いので有りますが、瓦斯や電話は、何處でもいふ譯にはゆきません。近頃臺所の廢物からメタン瓦斯を發生せしめて、炊事用や燈火用にするといふ案があります。自分は未だ實驗して居ないから、その價值については何とも斷言することが出来ませんが、若し相當有効で他に害のないものならば瓦斯の無い土地には便利でせう。

「電燈の無いところでは、普通ヴェポアランプの極めて新型のものを使用するか、又は少いさなアセチリン瓦斯照明によるのが有効で、安價に用を辨じます。離れたコテージでは、夜分寢室には蠟燭を使用するのが、一番經濟的です」

英國のヘップウォルス氏は記して居ります。英國流の保守的な氣持がよく表れて、面白いと思ひます。

その土地の租税や公課のことに就ても、最初によく知つて置きたいのです。住宅地として急に發展する村さか町さかは、その村その町の土木費や教育費や衛生費が急に膨脹する結果、村税又は町税の附課が、自然新來の居住者に割合に多くかゝつてくるのです。是れは一面には止を得ないことかも知れませんが、新來の居住者としては、全く豫期しない場合が多いのです。

概して田舎の人は、淳朴だこ考へられますが、事實此想像のはづれることが有り勝ちなのです。殊に都會附近の村落は、その氣風が日々に墮落して、功利一逼に固まり、新規來住者に意外の壓迫を加へる場合が随分あり得るのです。住宅地のために新らしく出來た道路の如きも、其居住者が進んで大部分の負擔をしなければ、完全な修繕も出來ないことになるのです。衛生上の施設に關しても、村や少いさな町では都市のやうに行届いて居らない。毎日出る塵介の始末まで、各自の費用でしなければならぬやうな例が多いのです。租税や公課の問題については、當初から充分其土地の事情を知つて置く必要があります。

以上の外に、尙ほ考へられなければならぬ事は多いのです。日常生活のためには物資供給の便否及び其價格、小供のためには學校の設備、不時の病氣のためには醫師や病院の所在、通信上の便利のためには郵便局、保安のための警察署、運動や小供婦人等に對する娛樂機關の如き、何れも皆重要な問題でありまして、土地を撰定する初めによく調べて置かないと、住んでみて始めて其不用意に驚き、さうだ不都合を忍ばなければならぬやうな破目に陥るのです。

何よりも物資の價格が高くては、生活上一番困ることでせう。しかし比較的不便な土地に住んで

便利な都會と同等のものを、務めて安價に得やうとする考へにも間違ひは有ります。田舎は田舎らしいもので満足しなければなりません。小供のある家庭では、學校の所在が常に問題になり得るので、よし附近に村の學校があつても、設備その他が、到底大切な小供を託せないといふ理由から、少いさな小供をわざ／＼電車や汽車で、遠い都會の學校へ通學させるやうな例も多いのです。少いさな小供を遠方へ通はせるといふことは、單に時間や費用の問題だけではなく、それが爲めに色んな誘惑を受ける機會も多く、教育上決して望ましいものではないのです。

最後に考へて置かなければならぬことは、その土地の將來といふことです。將來といつても、二十年三十年の先は別問題として、近くその土地が何んな風に變化するか、元より確實なことは誰れにもわからない。それは單なる豫想に止まるのでは有りますが、五年さか七年さかの後に、その附近が何う變つてゆくかを、一應考へてみるのは必要なことです。殊に交通の便があつて、都會に近かければ近いだけ、その變化も著しく、僅か兩三年の後にでも、豫想外の變り方をする例がすくなくないのです。買入れた當初は誠に閑靜で、附近に不愉快なものも見當らなかつた土地が、急に變化し發展して、周圍に人家が増加した結果、割合に眺望の良かつたところが、他の新らしく出來た

家に全く遮断されたり、道路の様が一變したり、汚水や塵介の増えたため、今まで蠅や蚊がすくなくて夏分非常に住みよかつたところが、急に蠅や蚊が増えて困るこいつたやうなことは珍らしくありません。

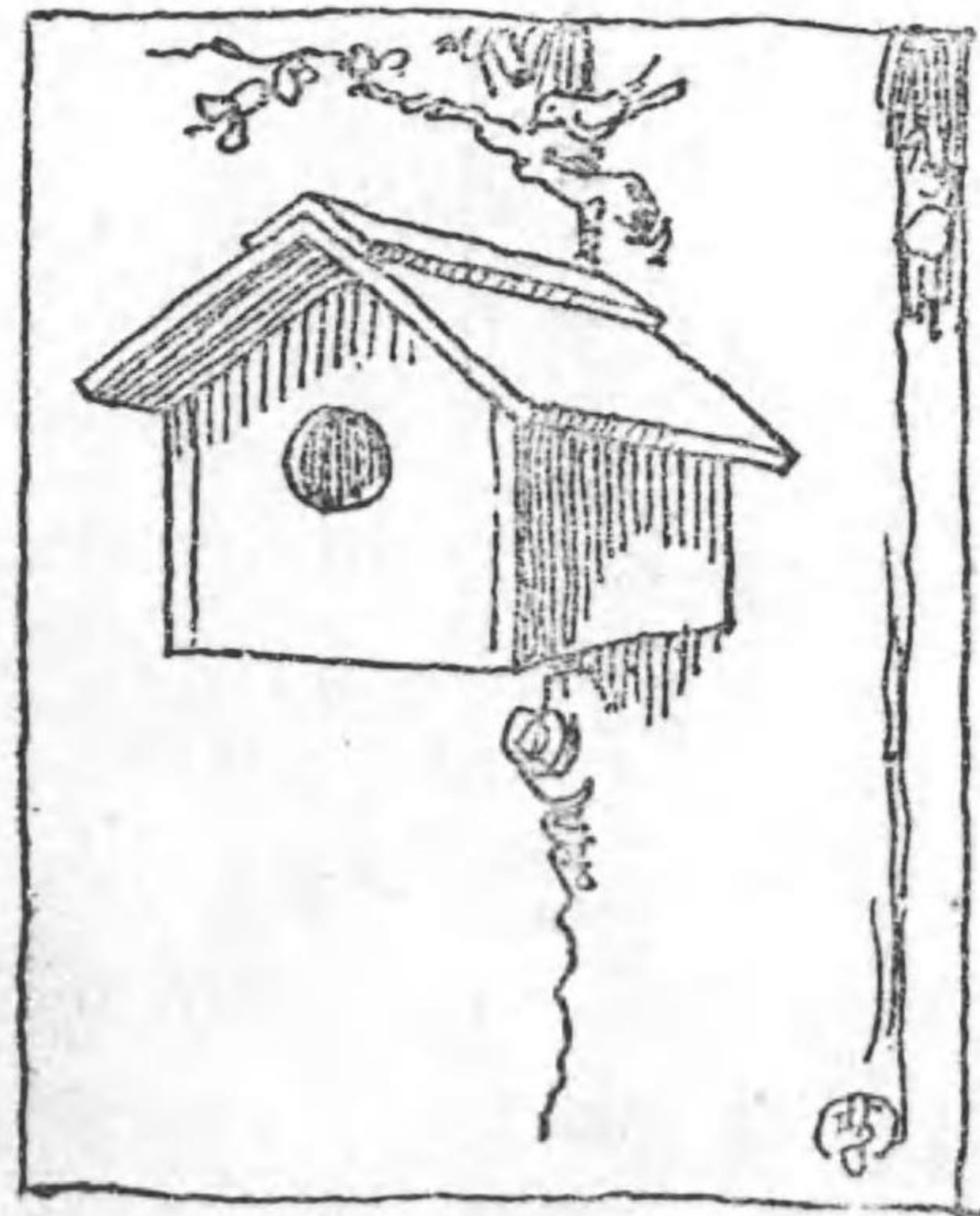
最初から投機的の考へで、地價の騰貴を豫想して土地を撰ぶのは、金錢上の利害が兎角中心となつて、住居に對する根本觀念が失はれる嫌があります。それではいけません。たゞへ何んな土地でも、自然に發展して年々地價は、多少とも高くなるのが一般で、最初何等そついつた考へなしに撰んだ土地が、意外に高くなつたといふやうな事實は有り得るにしても、初めから適當な時機に値賣りするやうな、純營利的の心持は少しも交へたくないのです。私共は是れを賣り、而して金錢上の利得を得んがために、土地を求め家を建てるのではなく、それは何處までも自分の家族の外廓であり、平和と愛に輝き、健康と幸福にみつる人生唯一の慰安休養の天地としてのためでありますから、最初から左様いつた、不純な考へを入れることを許さないので、家を建てるに、初めから賣る場合を考へて建てるのを、一廉利巧らしく思ふ人がありますが、これは決して感心したこゝでは有りません。賣るための家ではなくて、住むための家であることをよく思ひ、眞に眞面目に、計畫を進

めるべきものも考へます。土地を撰ぶに就ても、居住といふ事を本位として、以上擧げた各方面から考察して其是非を定めなければなりません。

道ばたの石に腰かけくだものを
むさぼりたべる女こつじき

草 一 郎

小鳥の家 その参



四、住宅の大きさ

敷地が定まるこ、いよく建物の製圖なり設計に着手する順序となりませんが、これを建築家に依頼する場合、その條件として、自分の要求する建物の大きさ、希望の構造様式、支出し得る豫算の金額を畧ぼ決定しなければなりません。全體何れ位の部屋数の家が自分には入用なのか、それは平屋建にするか二階建にするか、地下室の必要はないか、家の形式を何う定めるか、在來の和式によるか、それとも洋式を主とするか、洋式ならば何んな風のものにするか、建物の大きさやその形式、様式、構造の如何によつて、當然工費にも多大の相違を生ずる筈であります、さて現在自分が豫算として、確實に支出し得る金額は何程であるか。製圖や設計に着手するには順序として最初に、先づ是等の諸問題に對する根本方針を、はつきり定めてかゝらなければならぬのです。

住宅は自分及び自分の家族を包む一種の衣服のやうなもので、少いさ過ぎて困るが、また矢駄羅さ大きくても始末がわるいのです。無暗に大きな家に小人数暮して居るのは、決して楽しいものではありません。一種の寂しさが家の内に漂つて非常に陰氣であるのみならず、管理や修繕に、意

外の手数や費用を要します。寸法の合つた着物程、着ごろの宜いものはありません。家が恰うき其家族の大きに、びつたり當てはまるのは衣類の寸法が合つたやうなもので、其れが必要なので、自分の権力や富力にまかせて、用もない宏壯な邸宅を構へ人に誇るの類は、世間にこれ程無用の沙汰は無く、寧ろ社會のために罪惡視すべきものです。住宅は一定の限度を超えず、適度な大きさのものが最佳心地よく、また經濟的でもあるのです。事實多くの場合、支出し得べき豫算金額に自ら制限があつて、いくらでも云ふ譯には行かないのでありますから、此點から自然に制限されて切りつめた、必要だけの大きに限らざるを得なくなるのです。

建物の大きは、その平面積坪數を以て表すのを普通にして居ります。坪數には建坪と延坪の別があつて、平屋建、二階建、または三階建等、その構造の如何を問はず、階下に當る部分の總面積を以て、その建物の大きを表す場合は建坪何程といひ、一階二階……各階の面積を合算して全體の大きを表す場合は、延坪何程と稱して居ります。例令ば一階が二十坪で、二階が十二坪ならば建坪は二十坪で、延坪は三十二といふことになります。また建物の寸法を測るには、壁の中心から中心までを測るのが普通です。歐米では部屋の大きを示すには、その部屋の實用面積、即ち壁の内側か

ら内側までの寸法を以て表し、建物の大きを示すには、壁の外側から外側までの實際の寸法を以て表して居ります。

かやうに建物の大きは、その平面坪數を以て表すのが普通となつて居りますが、さて自分の欲する住宅の大きは何程であるか。小は一戸當り十坪以下の長屋建から、その大きなものは百坪乃至百五十坪、或はそれ以上の獨立邸宅に至るまで、家族の實情や境遇の相違によつて、家の大きは誠に多種多様です。一例として私共は、老人に夫婦と三人位の小供に女中といつたやうな家族の、中流普通の家庭を想像し、それに入用と思はれる部屋數、及びその最少限度の大きを考へてみるに、普通の組織の家として

- (1) 應接室(二坪二合五勺)、(2) 居室(四坪)、(3) 書齋(二坪二合五勺)、(4) 食堂(三坪)、(5) 臺所(三坪)
- (6) 寢室の一(四坪)、(7) 寢室の二(三坪)、(8) 寢室の三(二坪二合五勺)、(9) 老人室(二坪二合五勺)、
- (10) 小供室(三坪)、(11) 女中室(一坪五合)、

合計十一室で、此大き三十坪五合となつて、先づこれ位の部屋數は欲しいことになります。しかし家は、是れだけでは足りない。更らに此外に

玄関、廣間、廊下、階段、配膳室、湯殿、洗面所、便所手洗、洗濯場、押入、納戸、物置、ベランダ、テレース、ミいつたやうな部分が必要です。是等の部分の大きさを、出来るだけ切りつめて先にあけた部分の五割、即ち約半分十五坪位とすれば、この家の大きさは、延四十五坪五合となります。即ち中流どころの家庭で、老人と夫婦に小供が三人位、外に一人位の女中を使ふものとして、合計七人暮しの程度の家では、最少限度に於て部屋数が十一室、家の大きさが約四十五坪五合となり家族一人當りのひろさ平均六坪五合といふ結果を得るのであります。是れはあまり無理な計算ではないと考へられます。

元より室の割り合せについては、必ずしも右にあげたやうな區分が、是非入用だといふのでは有りません。それは一例に過ぎないのであります。かやうな組織的な區分が、何の程度まで重要かといふこともたしかに問題です。應接室と書齋、居室と食堂の如き、兼用せられるものは成る可く兼用の方針をこつて、部屋の方でもつと大きくするところが、工費の點からいつても、使用上からしても、はるかに利益なところかも知れません。寢室を三部屋としたのは、夫婦用と外に小供のための二室で、小供の小さい内は、必ずしも分ける必要はありませんが、成長する男の子と女の子は、寢室を

別にするのが宜いといふ説がありますが、至極尤かと思はれます。小供室をあけたのは小供の遊び場の意味で、寢室や自修室にも兼用せられます、また親戚知己等泊り客のある家では、居室を一時的寢室に兼用することも出来ます。客用寢室の準備があればこれに越したことはありませんが、それだけ家の大きさを増すことは當然です。

こんな事情から、前にあげた延四十五坪五合といふ家は、決してひろ過ぎるやうなものではありません。出来ることならば凡ての家が、すくなくとも是れ位の餘裕を持ちたいので、これ以下なるに特に家族の少ない場合は兎に角、普通の家庭では狭いといふことになるのです。ところが是れを實際問題としてみるに、是れ位の家を持ち得るといふことすら容易ではないのです。それは中流と稱する一部少數の階級に屬する人に限らるので有つて、一般はそれよりは遙かに狭い、甚だしいものは十坪以下のものから、進んで二十坪内外といつたところで満足するのが多いのです。これは頗る遺憾なことではあるが經濟上止を得ないことすれば、問題は、或る可く少いさな面積で、充分な活用と満足を考へねばならぬことになります。それには根本的に生活を簡素にすることが必要です。新らしい家に於ける自分の生活を、如何にして簡素輕便なものにするかを基礎として、その

考案を押し進めて行くことが必要なのです。私共の現在やつて居る生活は、簡素に似て、實は甚だ複雑混亂を極めたものです。新らしく家を建てんとする人は、此點に充分考慮せられたいと考へます。

血にもゆる若きくちびるかなしくも
くだけて落る夕なりけり

草 一 郎

五、和式と洋式

—

家の大きが大略決定するに、次に定めなければならぬことは、建物の形式構造を如何にすべきかといふことです。在來の日本式によるか、それとも新らしく洋風構造をこるか、疊本位の家とするか、或は進んで椅子式の家とするか、その何れかをこゝに定めなければならぬのです。自分の便宜や好みでは椅子式を希望するにしても、それだけで定めて了ふ譯の問題ではありません。老人や婦人の都合をも充分に考へてみなければならぬのです。現在并に將來の進展に觀て、勿論椅子を主とする家、即ち洋式を主とする國際的のものとするに大體議論はないにしても、住宅建築は他の種類の建物とは違つて、多年の習慣や日常の生活と密接に相關連し、長い間つゞけて來た座臥の風習にも、そこには又捨てがたい何ものかと感ぜられ、容易く速断を許さない事情があるのです。

由來座習といふことは、古代は何處にもあつたことで、腰掛けてくらすといふよりも、座つて暮す方が寧ろ自然なのです。今日専ら椅子式によつて居る西洋でも、羅馬時代頃までは座習があり、

支那の如きも漢以前は、やはり座習が主であつたといふことです。要するに國發が展して、人間の生活があはたしく、落付きのないやうになつた結果だとも觀られます。相當の文化を持つた吾が邦が、今日まで座習をつとけて來たのは不思議なことのやうですが、東方の海中に獨り超然と離れて居つたため、それだけ吾が國民の生活に落付きがあつたのだと考へることに、餘り無理はないと思ひます。上古専ら支那の文化を模倣した時代に、支那風の立禮や椅子のやうなものも、相當に輸入されたには相違ないのでありますが、その後支那との交通がびつたり絶え、一般的慣習となるまでに進歩しなかつたを考へるのが至當でせう。若しも日本と大陸との交通が、引きつゞき繼續して居たものならば、私共の衣食住は現在よりは遙かに、國際的なものと變つて居たことだらふと想像されます。日本人の歴史を通觀し、私共の祖先の生活を想ふと、本當に落ちついた繪のやうなものが浮んで來ます。度々の戰亂や不安な時代はあつたとしても、『吾れと思はんものは出で、戰ひ候へ』流の、恰うご競技のやうな、さ細な内輪もめに過ぎなかつたのです。

全體座習といふものは何んなものであるか、色々の點から觀察して、私共はその利害得失につき一應調べてみる必要があると思ひます。吾々日本人の身體をみて何時も肩身が狭く感ずることは、

その身長が外國人に比べて、著しく低いといふことです。これは小供の時分から疊の上にきちんとして座つて、足の發達を害して來た結果では有るまいか、誰れにも想像せらるゝのですが、専門家の意見によるに左様ではなくて、日本人本來の特質だといふことです。こんな譯で、身長の高いといふことは止を得ないとしても、兎に角座すること、殊に不自然に正座することのために、私共の足の發達を阻害せられ、妙に開いたり曲つたり、稍畸形的に發達して居るばかりでなく、身體全體の姿勢を害し、變にこゝんだ猫背が多かつたり、老年になつて腰が曲つたりするのは、それが座習を常とする婦人に著しいところから觀ても、不自然な正座の結果であることは間違ひないでせう。しかし座習がかやうな不自然な、足部の發達をさせて居ると同時にその反面には、特異な肉や力の發達を促して居るといふことも認められるのです。足を踏み張る力、即ち相摸に強いといふが如きはその一例だといふことも知れません。小供の時分から下駄をはくといふやうなことも、外國人の嘗つて知らない足指に特異な發達を生じて、是れがまた足の力の大きなたすけをして居るといふことです。或はそんな特長があるかも知れません。でもたゞ是れだけの理由を以て、座習が非常に優れて居るとは主張出來ないのです。

座習のためには日常生活の上に、立ち居の動作が非常に時々努力を要して、何れだけ無駄をして居るか。客に茶一杯をくんで出す場合を想像しても、幾度も立つたり座つたり、その手数は一通りでは有りません。萬事輕快な椅子式と比較すれば、その緩漫さがよくわかるのです。兎角氣不精で引込み勝ちな吾が國民性の如きも、確かにこの緩漫な座習が、著しく影響して居るやうに思はれます。又座つて居る場合も、腰を掛けて居る場合を考へるに、その眼の高さが違つて、それだけ視野の領域に狭いと廣いの差が出来ます。座つて居るに、すぐ眼の下にはよく氣が付くが、見る範圍が極く狭いのです。或る人が、一般に日本人の思慮が狭くて、いつでも眼先の勘定のみを走り、事に望んで深謀遠慮を欠くのは、多年の座習から、眼先ばかりに氣が付き易い結果だと言つたことが有りますが、或はそんなことも有り得るやうに思はれます。いかに座習が落付いてよいからといって、幸か不幸か現代は、そういった香氣な構へは許されないので。官省學校事務所等、すべて公共の場所では椅子式を採り、凡ての設備が國際的に發達して來て居るのでありますから、住宅の如きも、當然座習から椅子式に移らざるを得ないので、新たに家を建つる場合に臨んでは、成る可く疊から離れて、輕快な椅子を主としなければならぬのです。

二

成る可く座習を廢し椅子式をこるこいふことは、自然私共の住宅から最親しみのある、疊を出来るだけ廢めて了ふこいふ結果になるのですが、これにも亦考へられねばならぬ、色々の問題が起つて來なければなりません。先ず疊その物の用途利害についても、果して何んなものであるか、一應考へるだけの必要はありません。本來「たゝみ」こいふ言葉は、「たゝみ敷く」物で、古來は凡ての敷物の總稱であつたこいふことです。床は拭板張りが普通であつたので、現在のやうに、床全部に疊を敷きつめるやうになつたのは、割合に近代、足利時代の後期からだこいふことです。是れを經濟的に云つても、損じ易くて、小供の多い家などは年々表換を要する點や、衛生的にみて汚れ易く不潔で、塵や微菌や害虫の潜在所となる等、あまり感腹したものではありませんが、長い歴史を有するだけに、また捨て難い特長をも併せて持つて居るのです。

特長の一つとして數ふ可き事は、疊のために私共の住宅が、非常に簡便なものとなつて居ることです。是れは何うしても見逃すことの出来ない點で、座蒲團と煙草盆さへあれば客室となり、簡單

な食膳を運べば直ちに食堂となり、夜具を運べばそれがまた寢室にも流用出来る。といった風に、客間にも食堂にも居間にも寢室にも、便宜一つの部屋が容易に何にでも兼用出来て、割合に狭い家に大勢の家族が住み得る。いふことは、畢竟疊のためなのです。吾が邦のやうな家族制度の、出来るだけ身内のものが一つ所で暮さう。いふ雑居の國では、是れを洋風の居間は居間、寢室は寢室。はつきり區分のある組織的なものにするには、割合に大きな家を要する結果となるので、疊が一般住宅、殊に中流以下の家から容易に廢せられない理由は、主として此點にあるのでは無いか。考へられます。歐米の識者が、東洋人の生活の簡便な點には、近來盛んに注意をするやうになつて居ります。日本人ならば二十人も暮せそうな家に、僅か四五人の家族が住つたり、一人前で十人も日本人が食つて行けるやうな贅澤な食事をすることが、歐米の文化生活。いふものなのです。かやうな生活の反面には、書くも惨じめな、少いさな石油ランプ一つで夜の明りをこつて寒さにふるへて居る。といったやうな、貧弱な生活の多くがひそんで居るのです。歐米人は社會的に、此不自然な文化生活に、現在行き詰らんとして居る。ことを知らなければなりません。

また住宅は安眠休養の場所であつて、働らくところでは無いのであるから、多少の不便不經濟は

忍んでも、凡てが自由な疊敷を愛する。といったやうな意見を、無意義に非難するにも當らない。考へます。住宅はそんな窮屈なものであつてはいけません。しかし爰に思はなければならぬ事實は、現在多數の若い人達は、最早座習。いふことから日に／＼離れて、その服裝や習慣の上からも、疊の上の生活の方が、寧ろ窮屈なもの。ならんとして居ることです。思想や習慣に格段の相違のある老人。若い人が、一つ家に住んで居る。いふことが混亂の源です。自由。解放があらゆる點から叫ばれる時代です。在來のやうな雑居制度から、今日は成るべく離れる方がよいのでせう。また經濟。いふことを離れては、一日も私共の生活は成り立ちません。それは單なる物質上の經濟。だけではなく、時間や勞力の上に就ても、一層痛切にその必要が感ぜらるるのです。疊の家が椅子の家。に比べて、如何に無用の時間。無駄の勞力を徒費して居るかは、多少。も椅子式を實驗した人には、直ちに知らる。ことです。要するに現代は、最早疊本位の時代ではありません。私共の住宅も、世界の他の文化國民がやつて居るやうに、國際的に椅子式による可きものであり、また少なくとも、椅子を主とするべきものである。考へられます。

然らば椅子式による。として、さて何んな形式を。取る可きであるか。洋式だから。といった必ずしも

赤や青の瓦で屋根を葺き、ペンキで塗りたてなければならぬといふのでは有りません。私共は先ず在來の日本家に、其儘椅子や卓子を並べるにして、それが何んな結果を生ずるかを調べてみませう。元來日本の住宅は座るこいふこを目的にして、すべての構造がそれから發達して來て居ります。窓や出入口、天井の高さ、床、棚、押入、襖、障子皆然うです。軒が深く廂が出て、殆う光線が疊の上一杯に擴がるやうに造られて居ます。疊の上一杯に擴がつた明るい光りに浴するこは、私共にこつては冬の大きな悦びであるのです。その上に轉がつて、小説でも讀みふけるには誠に都合が宜いのです。かやうな氣持で出來て居るこころへ、その儘椅子や卓子を置くこなるこ、第一光線の關係が非常にまづくなります。肝心の卓子の上よりも、反つて足元の方が明るいこいふ結果になります。日本室に西洋家具を並べて、何だか落付かないこいふ理由は、主に此點にあるので、光線の採り方に就て疊の上を主としたものが、こん度は卓子の上こいふこになるのです。即ち全體の高さを約一尺餘、椅子の高さだけ高くして、遙かに上の方から光りを入れる必要があるのです。

また座るこに比べて椅子式は、腰から下が冷えます。夏季はよいが、冬季は在來のやうな開け放のし構造では困る。もつこ壁の部分を多くし、部屋の腰から下を壁で包んで、開放的な椽側附の

家を窓の家に改造しなければならぬこになります。左様するこ椽側はヴェランダの用をするこになります。若し又部屋の一部分に疊敷が欲しいこならば、其床を椅子の高さ、即ち約一尺餘り高く造つて、椅子の人も疊の人も、同じ高さにあるやうに構造すれば不都合なく併用出来るのです。かういつた考へ方からするこ、日本風の傳統を根本的に破らなくこも、相當に愉快な椅子の家は出來上る筈で、出駄羅目の整はない間違つた西洋風より、何れだけ親しみがあるかわかりません。住宅の改造は、何處でもまた誰れにでも、容易に出来るこいふ事から出發したいのです。いくら名案でも、特種の場合にのみ實行出来るこいつたやうなものでは、何等一般には役に立たないのです。住宅は何處までもそれが自分自身のもので有り度いのです。何だか餘所のものを借りて居るやうでは、到底落付いた氣持は出やうがないのです。外國風の模倣も、それが土地の狀況や生活の實際によく當てはまるものならば、敢て悪いこいふ譯はありませんが、頭から足の先まで他人の眞似をするばかりで、創造こいふこを全然考慮しないやうなやり方は感腹出來ないのです。一寸見て奇麗だハイカラだこいふだけで、輕卒に所謂文化住宅等こ稱へて、誠に蠱造の似て非なるものを造るのは考へものでせう。

小鳥の家 その四

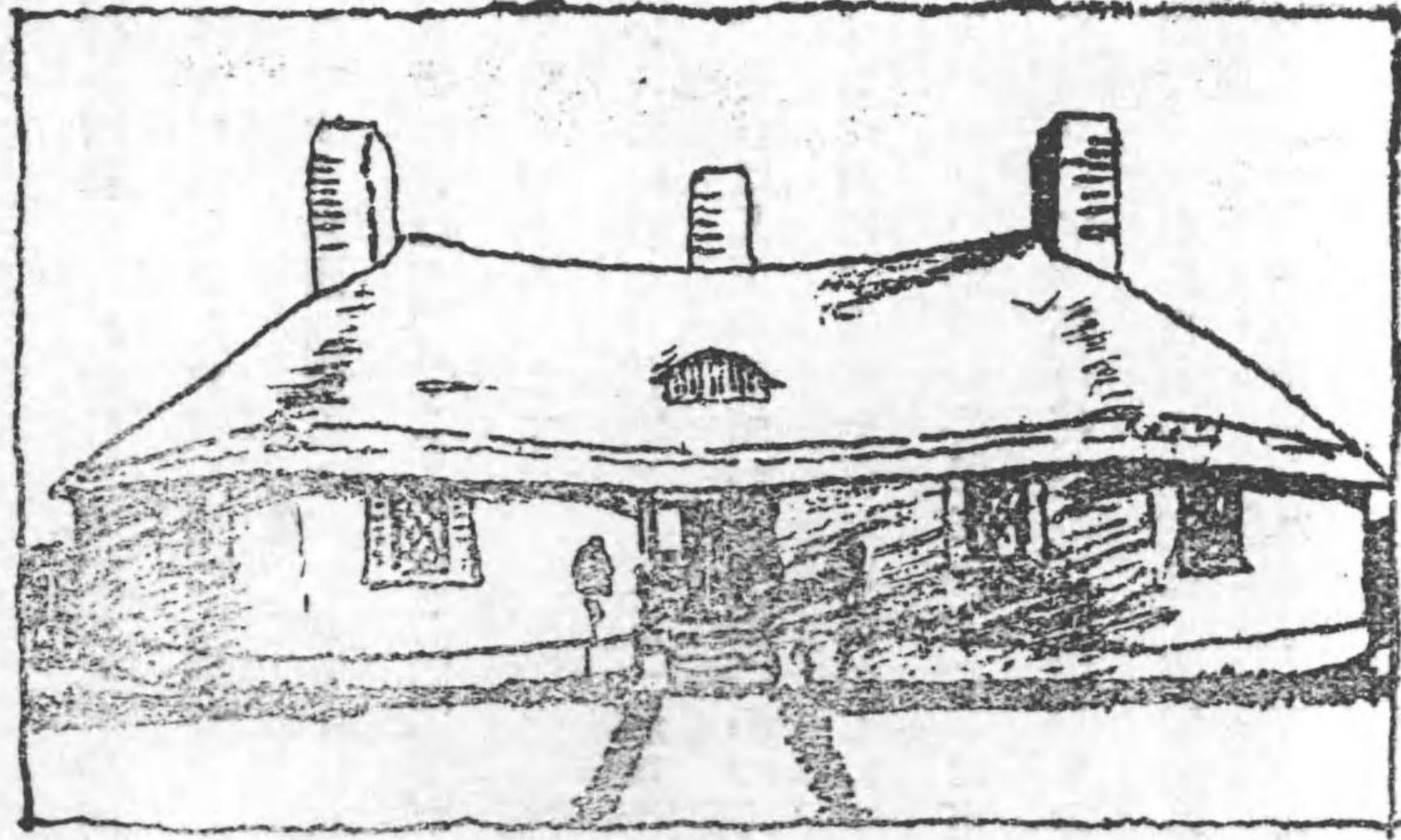


六、バンガロー

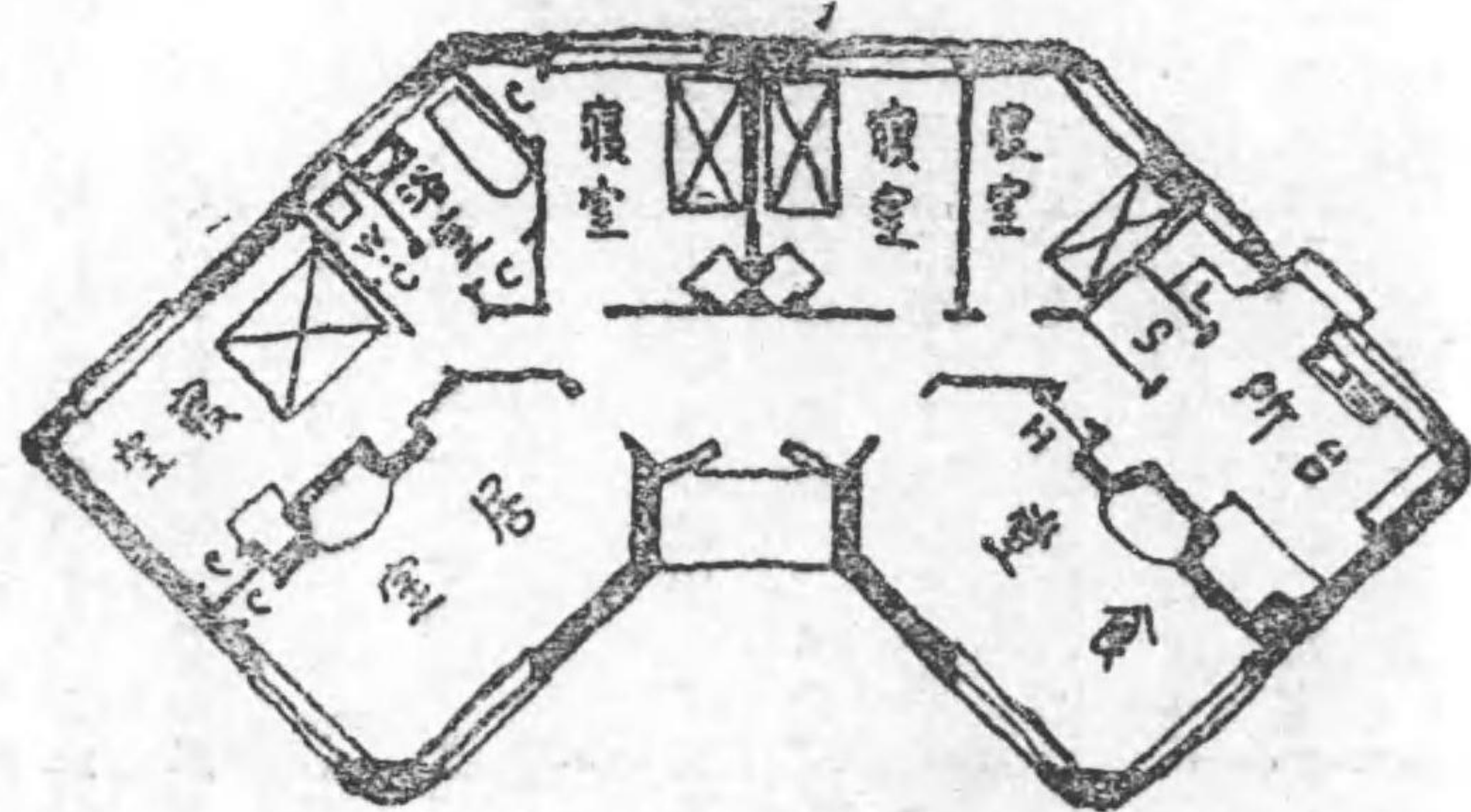
建物の大きさその形式、即ち何れ位の部屋数を有し幾坪位の大きさの家で、形式は和風か乃至は洋式かといふところが定まること、次に起る問題は、是を平屋建にするか或は二階建にするか、又は特種の構造になる中二階建のやうなものにするかといふことを定めなければならぬのです。無論その一々に利害得失があり、各事情によつて決定せらる可きもので、何れを良しとて、に速断する譯にはゆきません。

小住宅で平屋建のものをバンガロー、是れに對して普通の二階建を коттеージ、屋根裏の一部を利用する特種の半二階建のものをハーフストーリーイミ呼んで居ります。バンガローといふ名稱は本來印度のもので、同地方の郊外の別荘、田舎の宿舎即ち旅行者の便利のために、數哩づゝ距れて地方に散在する隊商のこまる宿舎に適用せられるのです。是等の建物は、勾配の急な屋根をもつた長い低い長方形の建物で、屋根窓も妻もなく、部屋は一階のみとし、屋根裏の空所は、その國の熱い

(乙) 英國風バンガローの一例



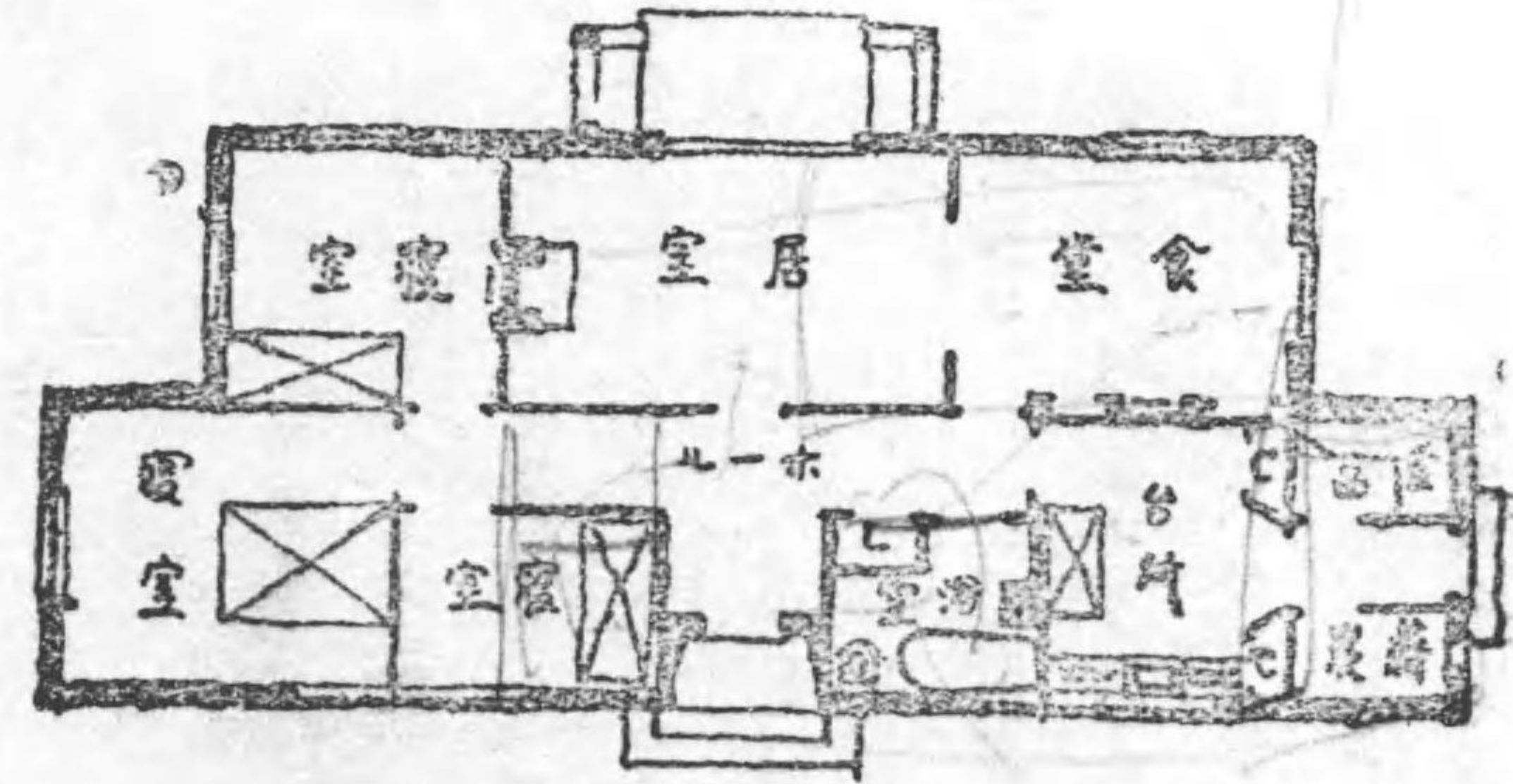
見取圖



平面圖



(甲) 英國風バンガローの一例 (見取圖)



(甲) 英國風バンガローの一例 (平面圖)

大陽の直射を緩和するために、空所として放置された至極簡單なものだそうです。これが住宅の理想として英米に輸入せられ、一般に平屋建を主とする住宅を廣くバンガローの名で呼ぶまでに流行發達したのです。米國加州邊のバンガローには、日本風が加味せられて得る點が著しく、米國の建築家の或人の如きは、「バンガローは印度のものを元として、是れに日本風を加味したものだ」等と定義して居るのがあります。

便利といふ點に就て、住宅としては一般に平屋建即ちバンガロー型タイプのものは優れて居るにされて居ります。それは凡ての部屋が一平面にあつて、昇降に面倒な階段が全然無い、ステアレスであるといふことのために、家事や育児に忙しい主婦の勞力を、非常に略くといふことです。事實二階家に住つてみるに、階段の昇降といふことは可なり面倒なことで、それが爲めに二階は餘り使用しないことになります。郊外住宅の二階建のもの等をみるに、多くは兩戸を閉めたまゝになつて居るのが多いのです。本來日本の住宅は、平屋建を原則として居るので、王侯貴紳の邸宅から一般庶民の住家に至るまで、古來平屋を本位として來たのです。これは生活が簡素で、土地が自由であつたためか想像されます。地震の多いこと等も、その原因の一つかも知れません。兎に角日本風の家

で二階建が盛んに出來たのは、近年の流行といつてよいと思ひます。

米國の建築家チャールス・イー・ホワイト氏は、その著『バンガロー書』ブックの内に、便利といふ點に關し次のやうに記して居ります。

「便利といふ點について、バンガローと普通の cottages を比較する事は難かしい。それは何らにしても設計のよく出來て居る家は、便利といふことを主として居るからです。しかし良く配置されたバンガローの間取にあつては、便利といふことは明らかにその特色です。何となれば各室の配置が、二階或はそれ以上に置かれて居るよりは、すべて一平面に擴がつて居るといふことが、確かに都合の宜いことに相違ないからです」。

また外觀が自由で、郊外の自然をよく調和するといふ點に關し、同氏は更らに筆を進めて次のやうに讚美して居ます。

「バンガローの他の建築上の利益とするところは、魅力ある繪畫的意匠の方法に就て、多分の可能性をもつて居ることです、バンガローは地上に低く建つて居ます。その爲めに、人の眼をひくことが突入的ではありません。それは最完全に、地から生長したものゝやうに造られます。普通の二

階建のものよりは一層その感じが良く、而して建物が出来上つたときに、恰うそれが景色の一部でともあるかの如く見えることを必要とする趣味深い設計では、地平線上に新らしく輝く露出物ではなくて、既に以前から自然そこに現存して居つたもの、やうに感ぜられるのです。

草原や海岸や、丘陵や山地や、何處でも何時も同様の成功が收め得られます。低い簡単な水平的な屋根の線は、草原の精神に愉快な調和をするが、併しまた、丘陵のやうなところでも、同様の面白い結果を呈します。下から見上げたときにバンガローの深くさし出て居る軒裏が、凸忽したその環境をよく調和して、繪畫的なよい外觀を表します。またバンガローは、何んな景色にでも必要に応じて、有効に合致せしめ得るだけ自由な特長を持つて居ます。丘のやうなところでは、土地の高低を利用して段々に部屋を設け、しかも其處にバンガローの精神を存置することも出来るのです。

バンガローの特長とする便利といふこと、即ち凡ての部屋が一平面に擴がつて、互に相連續し、一日中に何回もなく昇降する面倒な階段のないといふことは、何人にも直ちに了解せられることである有りまして、男子といふよりも寧ろ婦人の立場から、平屋建住宅は殊に望ましい構造の一つでせう。

また其外觀が普通の二階建に比べて、いかにも人の心に満足な快よさを與へ、ホワイト氏の説くやうに、侵略者の如く聳え上つた二階造とは違つて、安らかにその周囲の自然に調和して、限りなく私共の心を惹きつけます。構造上から言つても、壁の高さが低いため、安全といふ範圍に於て最少量の材料で間に合ふといふ餘徳があります。例令ば柱の如きが、二階建ならば四寸角が欲しいが平屋建となるに、三寸五分角でも充分だといつた調子になつて、最經濟的に材料を使用することが出来ます。地震等にも平屋の方が安全です。相當に筋違すぢぢがひを入れてポールの締りつけ、瓦以外の軽い材料で屋根を葺いた平屋建ならば、大抵強い地震にでもこわれる筈は無いのです。元より是れを一概に定めることは出来ませんが、住宅は出来るならば平屋建を主としたのです。たゞ二階建に比べて、割合に廣い土地を要することが、何の場合にも許さるゝことでは有りません。切りつめた比較的狭い宅地内に、所要の室を配置しやうと思へば、何うしても二階、少なくとも一部二階を設けざるを得ないのは止を得ぬ事としても、より多く住宅らしい感を與へるのに便利な點に於て、成る可く平屋建を主とするにしたいと考へます。

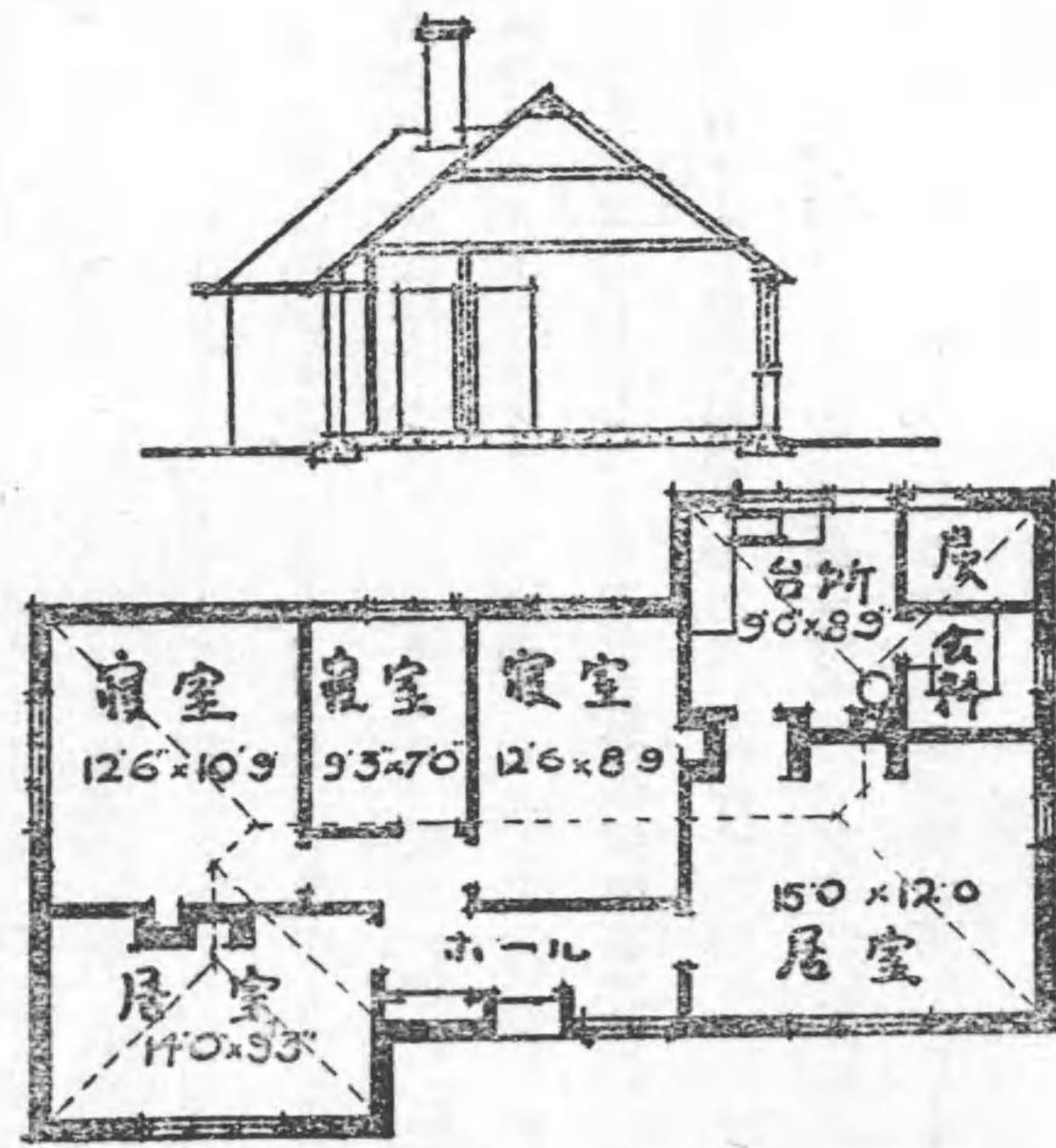
平屋建と二階造、即ちバンガロータイプと普通のコテージタイプとの工費の比較がよく問題になります。是れを正しく比較することは稍面倒です。これについて一二専門家の意見をあげるに、英國の建築家ビーデー・ヘップウオールズ氏はこれに關し次のやうに述べて居ります。

「バンガローの益々流行するに當つて、是れを二階建の住宅に比らべ、その利害得失や工費の如何を考へてみるのは、興味の深いことです。大抵の人の意見が、平屋建は階段及びそれに續く廊下といふものが無くなるから、同一の大きさのものならば、バンガローの方が工費が安いといふことに一致します。でも此結論は正しいとは言はれません。何とならば家にあつて必要とせらるる各種の設備は、二階家と等しくバンガローにも現存するからです。たゞ二階建住宅よりも、より廣い大きな土地を要し、間口や奥行が長くなる嫌いは有つても、仕切る工費が容易で、同一の敷地に、同じ数の二階建を配置するよりも、バンガローの賢明な配置の方が、遙かに離れて居るといふ、大きな印象を與へることが出来ます」。

一寸分りにくい説明のやうですが。平屋の家の建て込んだ場合と、それよりは多少の餘地があつても、二階造の建て込んだ二つの場合を想像してみることよく分ることです。二階造の場合は、家と家の間に多少の餘地があつたとしても、窓と窓、座敷と座敷が互に向き合つたり、相方互に鬱陶しく感じる場合が、平屋建のときよりも一層多いのです。更らに工費の比較としては。

「實際問題として平屋建は、階段や、二階床、根太等の節約は明らかに便宜では有りますが、そのかはり一階床の面積が二倍になります。壁について平屋建は、その周囲の延長を増すが高さを減するといふ利益があつて互に相殺せられます。暖爐の煙突は高さを減するが數に於て増える傾があり、且つ一つ所にまごめるのが不便なる嫌があります。基礎の防濕層を増すことや、棟や軒樋及び屋根の面積が増えることは、すべてバンガローの大なる不利益とする點です。建設が早いといふこと、足場の建方が簡單で監督に便利だといふ點は、たしかに平屋建の利益とする一面です。是等の諸點の多くは、少いさい單純なバンカローには適用されません。多くの人は、或る大さ以上になると、最初の工費に於て、その固有の利益によつて正當とせられて居るよりは、比較的少ないけれど、多少の増額があることを考へて居ます。併し實際は、殆んど同額か、或は多少す

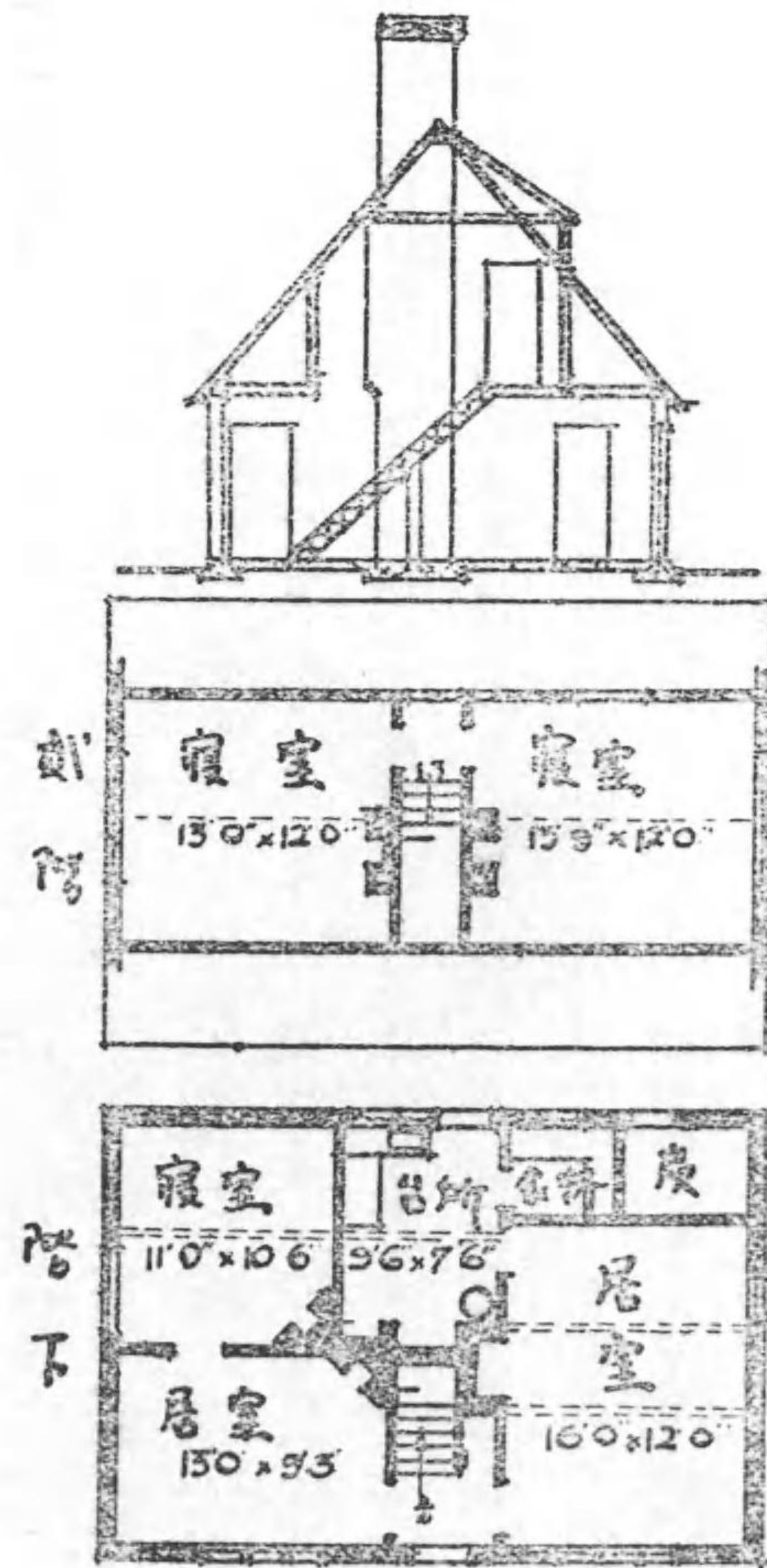
バンガロー



同一の大きさのバンガローとコテージの比較

ツプス氏の指示のもとに、
 エドウィン・ガン氏が圖の
 如き平屋建と二階建につい
 て、具體的に興味ある比較
 を試み、その結果をガン氏
 が次のやうに記述して居り
 ます。
 「最近私は部屋の大きさや
 一般的便利に就て、普通
 に似て居るさいふよりは
 一層よく類似した一つの
 バンカローと二階建コッ
 テージの工費の比較を試

コテージ



くなくて済む傾が有るのです。
 即ちヘツプウオールス氏の記すところによると、一般にはバンカロー特有の利益に比して、ほん
 の僅かではあるが増額が有るに多くの人は考へて居るが、實際は同額か、場合によつては二階建
 よりも安價なる傾があるといふ意見です。尙ほ此問題に就て、英國のオール・ランダル・フィリ

みました。その結果は明らかに、二階造の利益となりましたが、併しそれは絶対的の證據はな
りません。何故ならば、問題とした平屋建の住家は、軍隊に於ける假兵舎の標準設計よりは稍高
等なもので、多少費用を要する部分、例へば屋根の谷を有するが如き、最安値なものとは断定出
來ないもので有るのに反して、コツテージの方は、最平易な變化のないものに因つて計算されて
居るからです。工費の比較をするに就て、扉、窓、暖爐、流し、浴槽云つたやうな類のもので、
凡て相方に共通のものは略することにしました、敷地の特種の狀況をも考へては居りません。基
礎は何れもエキスパンデットメタルを補強した、厚六吋のコンクリートで、外壁及び煙突の下は
九吋まで厚くしたことにしました。そこで基礎の面積を計算してみるに、バンカローがコツテー
ジよりも約三十五ヤード以上超過しました。場合によつては、もつと多くの相違があり得るでせ
う。壁については、バンカローは延長は増すが、高さが低い徳があります。併し此場合では、コ
ツテージは屋根を二階に利用して居るため、その壁の高くなる部分は兩妻のみに限られ、相方略
平均して、大差ないことになりました。

「コツテージにまつて有利な點は、バンカローの方が二ヶ所の入隅を持つて居ることです。その上

都合の宜いことは、このコツテージは最經濟的に出來て居つて、場合によりゲイブルを木組とし
板張りにも出來ることです。防濕層はバンカローの方が三十三呎多い。煙突は、バンカローの方
が多いを考へられるかも知れませんが、事實は左様でありませんでした。若し各室に暖爐を設け
るにすると、事實上一つの煙突にまごめることは困難でありますが、それでも三呎立方だけコッ
テージが過剰でした。屋根ではコツテージが利益で、バンガローの十四に對し、コツテージは十
一の割合です。且つ又それが寢室の間仕切で固められて居るため、餘分の貫や束がいらぬ事に
なつて居ます。また棟や軒や屋根の谷が、バンカローの負擔を一層重くしますが、妻の延長六十
九呎の蟻羽はバンカローには無いことです。以前ならば略しても宜かつたのですが、現在では左
様は行かない程費用のかゝる種廻りは、尚ほバンガローの不利益で、延長七十九呎の超過の外に
二本の堅種が多いのです。内部に入つて床面積は實際的に同じですが、コツテージにはバンガロ
ーにない、三本の梁を使用して居ます。階段はコツテージの最不利益とするところで、バンガロ
ーにはそれに比較すべきものが有りません。間仕切、天井及びその他の内部雜作は殆んど同一で
した。

『工費を比較するに次の如き結果で、価格は週刊テクニカルプレスによつたのです。

	パンガロー	コツテージ
基礎及び叩き床コンクリート	超過額	超過額
防 濕 層	三十 磅
屋根(小屋組及瓦共)	一 磅
軒 樋 及 び 堅 樋	三十二 磅
床	十二 磅十志
階 段	六 磅
合 計	七十五 磅十志	十 磅
差 引	五十九 磅十志	十 六 磅

即ちパンガローの方がコツテージに比べて、五十九磅十志の超過で、全工費の百分の九に當ります。是れを要するに、その相違は大差ない云ひ得るでせう。人によつては九パーセント位の超

過額を支拂つても、階段の無い便利なパンガローを撰ぶのもありませう。また他の人は、更らにそれ以上の工費を要しても、便宜上二階建を望むかも知れないのです。

以上ガン氏の實驗は、英國式煉瓦造のものに就て試みられた結果であります。一般吾が邦に行はれて居る木造洋風及び和式住宅に對しても、略同様のことが云ひ得られるを考へます。殊にガン氏のこつた二階造は、同氏の説明して居るやうに、屋根裏を利用して居る中二階式の、最經濟的のものでありまして、是れを普通の二階建に換ゆるならば、多少計算が違はなればなりません。即ち壁の面積が、二階建は平屋建に比して超過の傾向があるので、さきの九パーセントはもつ減する筈です。兎に角平屋建は二階建に比較して、延坪當り五分乃至壹割位の工費の超過は免れません。が、種々な點に於て、住宅としての特色と便利があるを觀るのが至當でせう。しかし是れは決して二階建が住宅として、全然不向だといふことではありません。普通の洋風住宅の定式となつて居るやうに、家族の多い家では、階下の大部分を晝間使用の部屋に當てるに、自然二階を寢室に利用することにあります。和式の明放しの構造では、客室とか書齋とか、多少靜かなことを望む部屋は、これを二階に置くことが便利な場合もあります。小居室の如きも、他の室と離して設けるといふた

めには是亦二階をよしとすることがあるのです。かやうに其家族の模様によつては、貳階建を必要とする場合があります、また事實、敷地の關係上、貳階建を餘儀なくせらるゝことが多いのです。

三

ハーフストーリーといふのは、正式の二階建ではなくて、小屋裏の一部分を部屋として利用する半貳階造といつた式のもの指し、多くの小住宅は此構造によるのが、比較的經濟であることされて居ります。バンガローが平屋建を本義とするのは勿論であります。米國では一般に、この中二階式のものをも、バンガローと呼ぶのが普通です。多くのバンガローは、嚴重な意味に於ける平屋建ではなく、必ず二階に貳室位の寢室を置いて居るのが常です。ホワイト氏は是れについて次のやうな意見を記して居ます。

「貳階に室を置くには色々の理由があります。屋根は何れにしても必ず設けられるとして、その天井と屋根との空間は、僅かな工費を増しただけで、部屋として利用するに充分の餘地があるので、二階に寢室及び浴室を設ける、それだけ階下の部屋が減少せられ、建物の大きさが限られる

だけに構造上の工費を減ずるのです。中二階式のバンガローは、凡ての部屋が階下のみには擴がつて居るものに比べて、總工費が遙かに安くなります。吾が溫和な氣候、殊に北部地方では、屋根裏の寢室が充分使用に耐へるばかりでなく、階下に於けると同様、可なり愉快なものとするこゝが出来ます」。

屋根裏の一部を利用して部屋とするこゝは、吾が邦の洋風住宅にも、さして珍らしいこゝではありませんが、純ハーフストーリーの構造による屋根裏の室は、全然夏向でないといふ點が問題になります。たゞさへ二階の室は暑いとしたものが、屋根裏で焼けた瓦の熱が直接部屋に影響するので、すから、到底夏季には耐えられぬやうな例のあるこゝも事實です。夏季に暑いといふこゝは、同時にまた冬季に寒くて堪まらないといふこゝにもなるのですから、此點に就て、特に構造に注意を加へる必要があります。ホワイト氏は更らに此點を注意して、

「この爲めには二三重要な點を、心に銘記して欲しいのです。其第一は、それが寢室或は居室の如何を問はず、又屋根裏にある階下にあるに論なく、常に風通しが大切であるこゝを會得するこゝです。風通しをよくする爲めには、必ず部屋の二方に窓を必要とします。窓を開けるこゝ部屋

の一方から他へ氣流を生じて、それが部屋の温度を著しく低下します。もしも窓が部屋の一方の側にのみある場合は、空氣の循環さいふもいふものがなくて、夏季の軟風を十分に味ふことが出来ません。かやうに半二階建のバンガローに於て、屋根裏の寢室を考へる場合には、必ず部屋の二方に窓を持つやう、充分な屋根窓を用意しなければなりません。

「貳階の室を實用的にする他の方法は、よし低い屋根の場合でも、屋根裏に充分の空所を設け、その部分の風通しを完全にすることです。これを有効にする最普通の方法は、そこを自由に空氣が貫通するために、建物の兩端の妻の部分に、通風装置を設けることです。かやうにして日光に熱せられた屋根裏の空氣が、通風装置から免れ出るので、それは涼しい新鮮な空氣を誘導し、そこに循環が起つて内部の空氣を冷却します。此通風方法が使用せらるゝ時、循環せる空氣は部屋の温度を數度低下することが實驗せられます。」

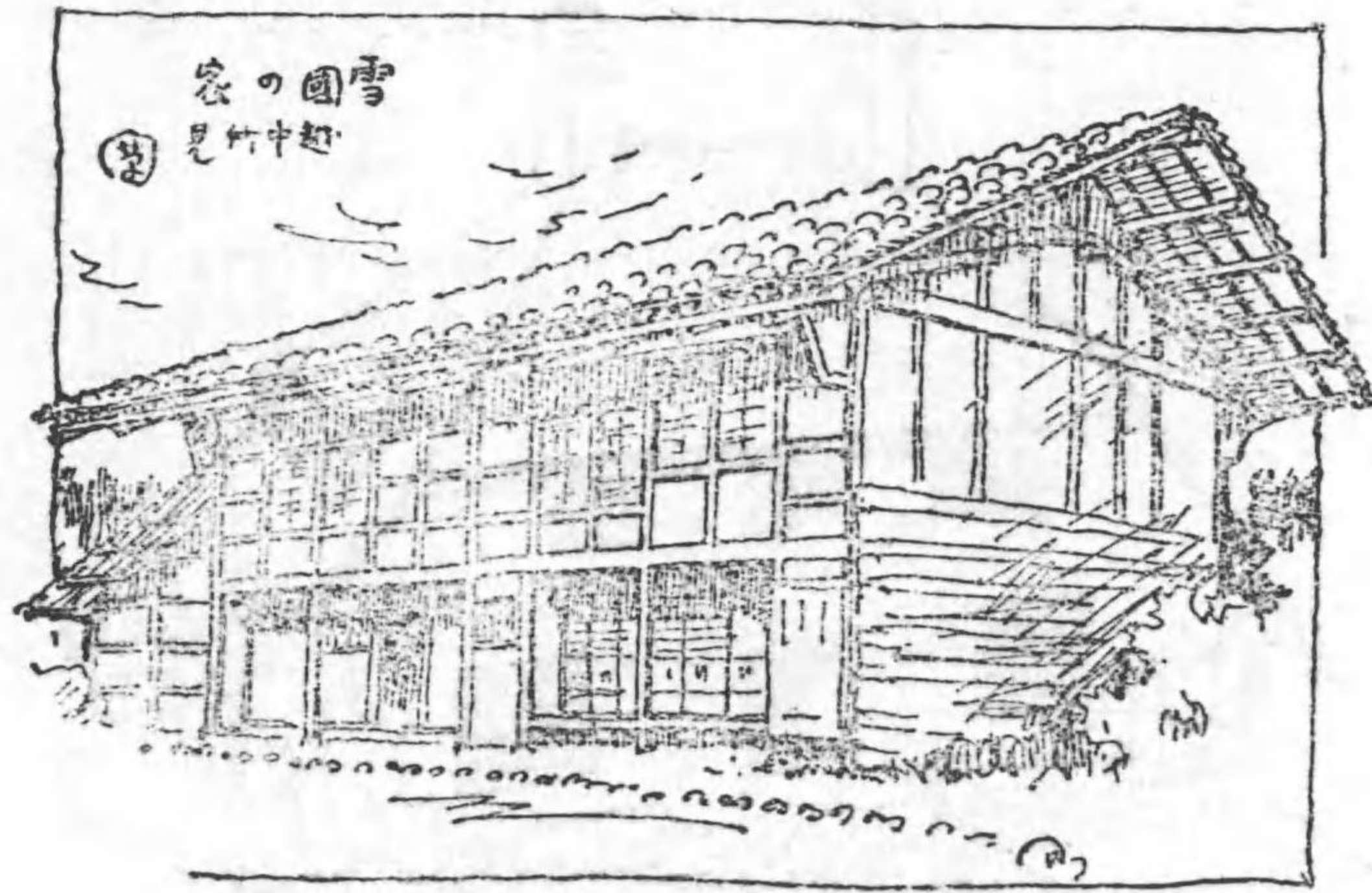
こゝに記るされて居る通風装置さいふのいは、普通の「ガラリ戸」を稱して居る罫戸か、又は回轉窓の類です。成る可く回轉窓にして、下から紐で自由に開閉出来るものが便利でせう。又暖爐の烟突を利用して、其處に換氣孔を設け、煙突を通じて換氣せしめる方法も有ります。夏涼しいこゝ、

同時に、冬季に暖いこゝも是非考へて置かなければなりません。それには通風装置が適宜開閉せられる必要があります。即ち暑い時期には開けて置くが、雨の日や冬季には閉鎖しなければなりません。私の知つて居る範圍でも、屋根裏の風通しをよくした、めに、非常に暑かつた部屋が、數度低下して涼しくなつた例があります。屋根窓を開いた儘では、小鳥等が入るおそれが有りますから、網戸の必要がありませう。屋根窓を兩開きとし、内側に網戸を用意するのが、簡單で、此目的には最適當します。

家をバンガロータイプにするか、又はコテージにするか、或はハーフストーリーミ云つたやうな屋根裏の一部を利用した半二階建のものにするか、平家は便利で面倒な階段の昇降もなく、住宅として最望ましいにしても、敷地の關係や家族の實情工費の都合で、必ずしもそのみ定める譯には行きません。一部に二階建させざるを得ない場合が起るので、小屋裏を利用する半二階建の構造は、この中間にあつて最經濟的では有るが、その構造宜しきを得ないに實用上、種々な缺點が生じます。是等の點は設計の當初に、敷地や附近の事情に觀て、よくその利害得失を考へ、慎重に決定しなければなりません。

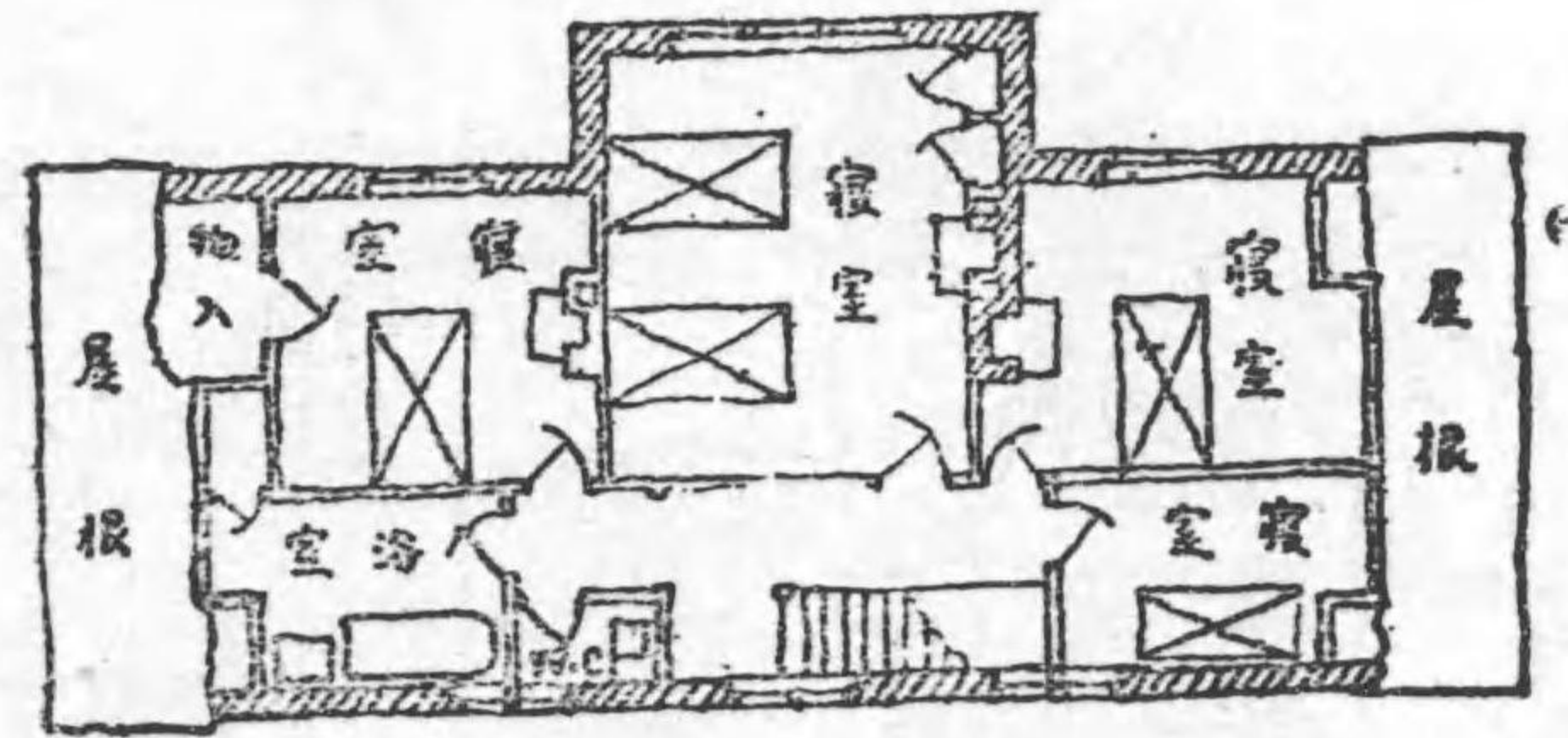
バンガローといふ名稱の濫觴は、すでに記したやうに印度です。それは平屋建の方形な、二室三室或は四室ミ組になつた部屋を持ち、床の高さは地上一段或は二段位の極めて低いものです。市街にあるバンガローは、富裕なものは一層虚構的で、また規模も大きいのです。印度の風習により従者等の非常に多い關係上、中庭を圍んで、往々多數の部屋を設けて居るものもあります。軍隊には軍隊用のバンガローがあり、やはり家庭用のものゝ特色をもつて居ます。屋根は普通藁葺か瓦葺でありまして、何の建物に在つても、太陽の熱を避けるといふことを主要な目的として居ります。ヴェランダは窓に日光の直射しないため、建物を圍んで、三方或は四方に設けられて居ります。即ち印度に於ける本來のバンガローは、絶體に平屋建で、屋根の大きな床の低い、單純な間取の、三方或は四方をヴェランダで圍んだ、純熱帯式の建物なのです。

バンガローが英米に輸入せられて、それが住宅の一形式となり、在來二階建コテージの原則を破つて、盛んに唱導せらるゝやうになつたのは比較的近年のことです。したがつてそれが吾が邦に傳はり、一般にバンガローの名が私共に呼ばれるやうになつたのは、更らに新らしいことではありませんが、それは傳來が印度だけに、それ程私共には眼新らしいものではなくて、日本住宅本來の主意

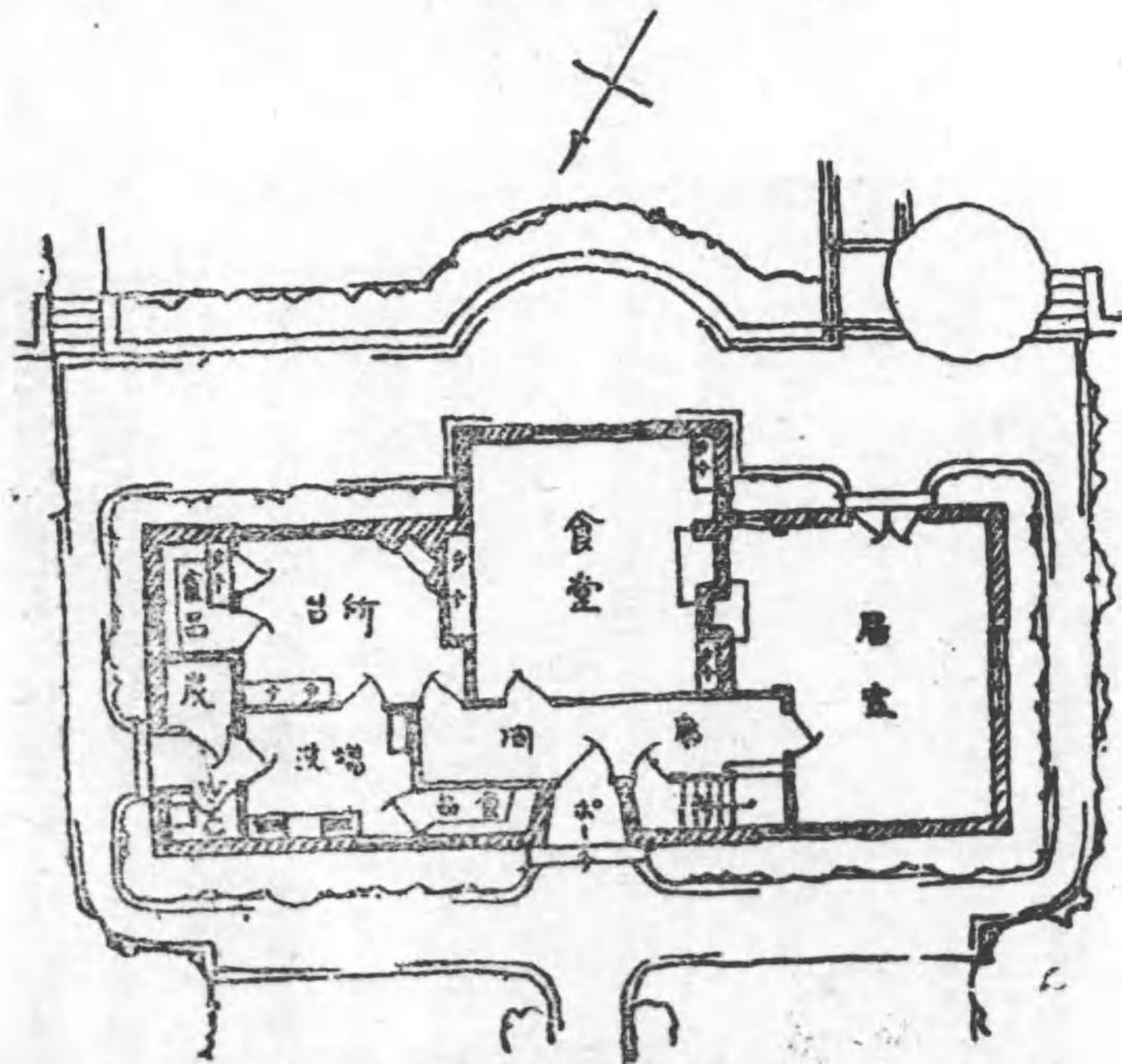


がよくそのものミ一致して居るのです。英米では初めは主として、粗野な山手や海岸に於ける、あるシーンに限つた別荘等を稱したのでありますが、その趣味深い外觀ミ、階段のないステアレスといふ便利な點が一般に知られて以來、住宅建築界の一流行ミなつて、現在では平屋を原則とする永久的住宅の建築を促し、これをひろくバンガローミ呼ぶに至つたのです。等しくバンガローミ稱しても、土地によりまた構造材料の如何により、その間取や様式に様々の變化を生ずるのは勿論です。英國に行はれて居るものミ米國のものミを比べても、大なる相違がその間に認められます。既に記したやうに米國では、屋根裏を利用した半二階建のものまでもやはりバンガローミ呼び、比較的

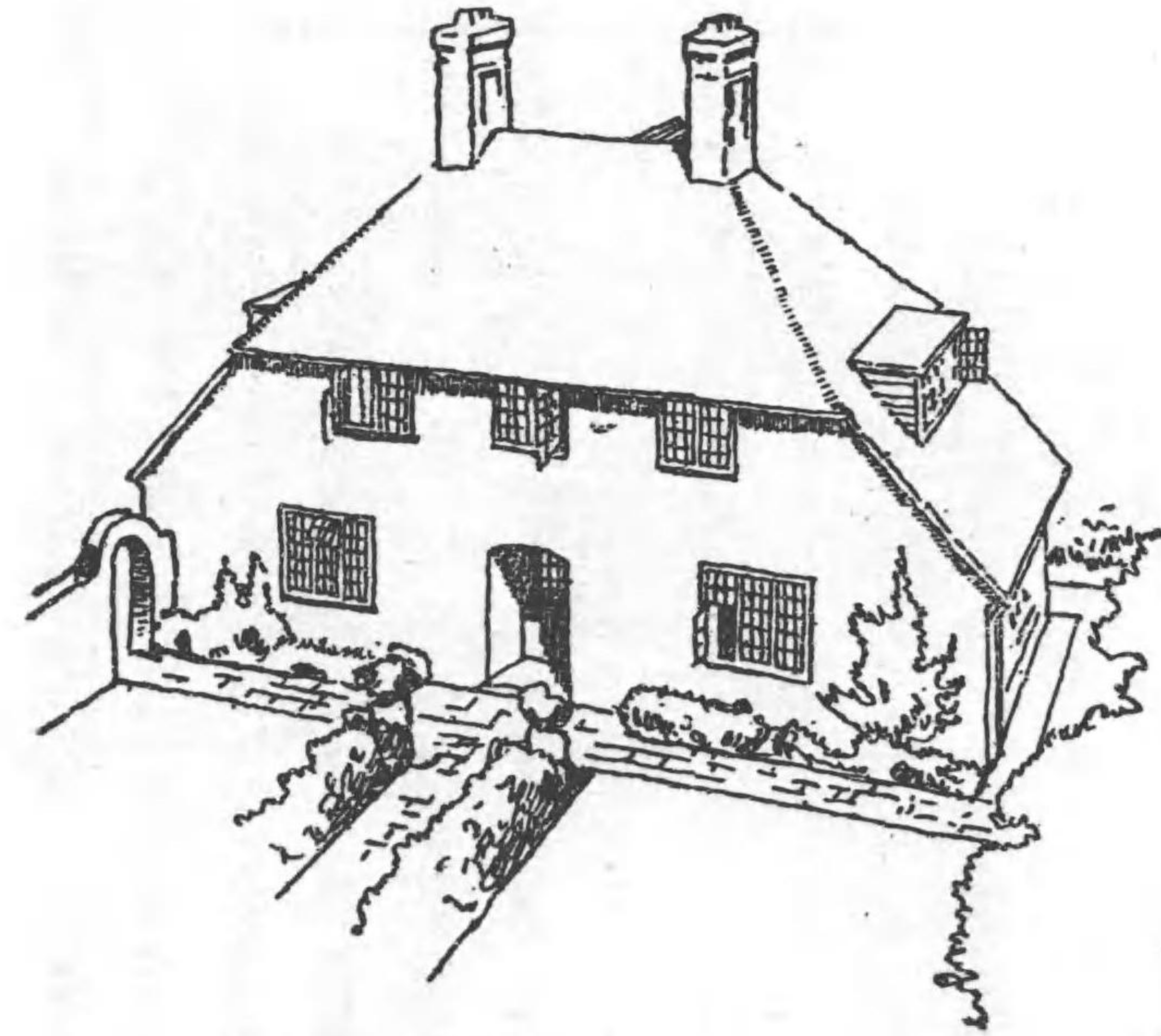
(甲) 英國風コテージの一例 (平面圖)



貳階平面



階下平面

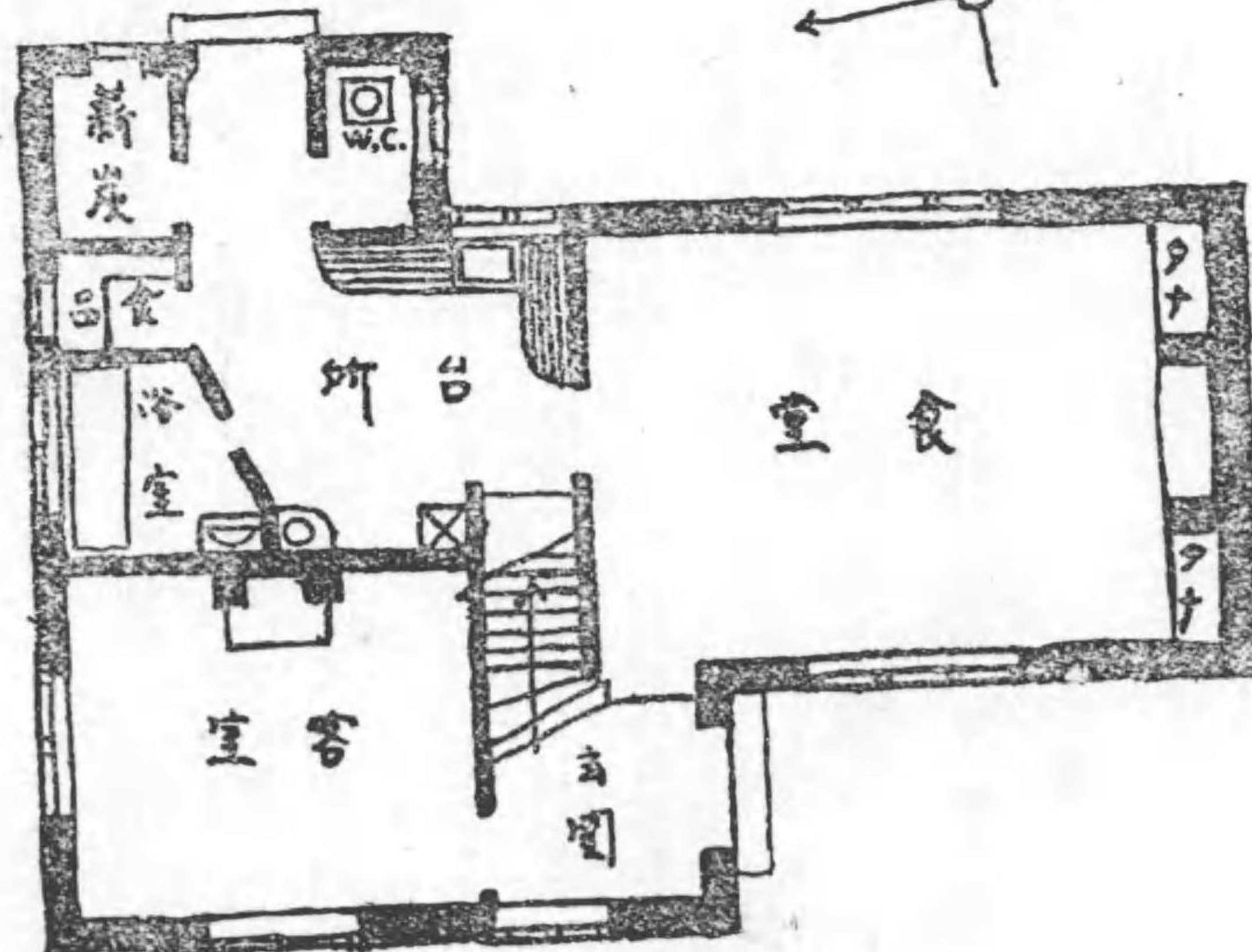
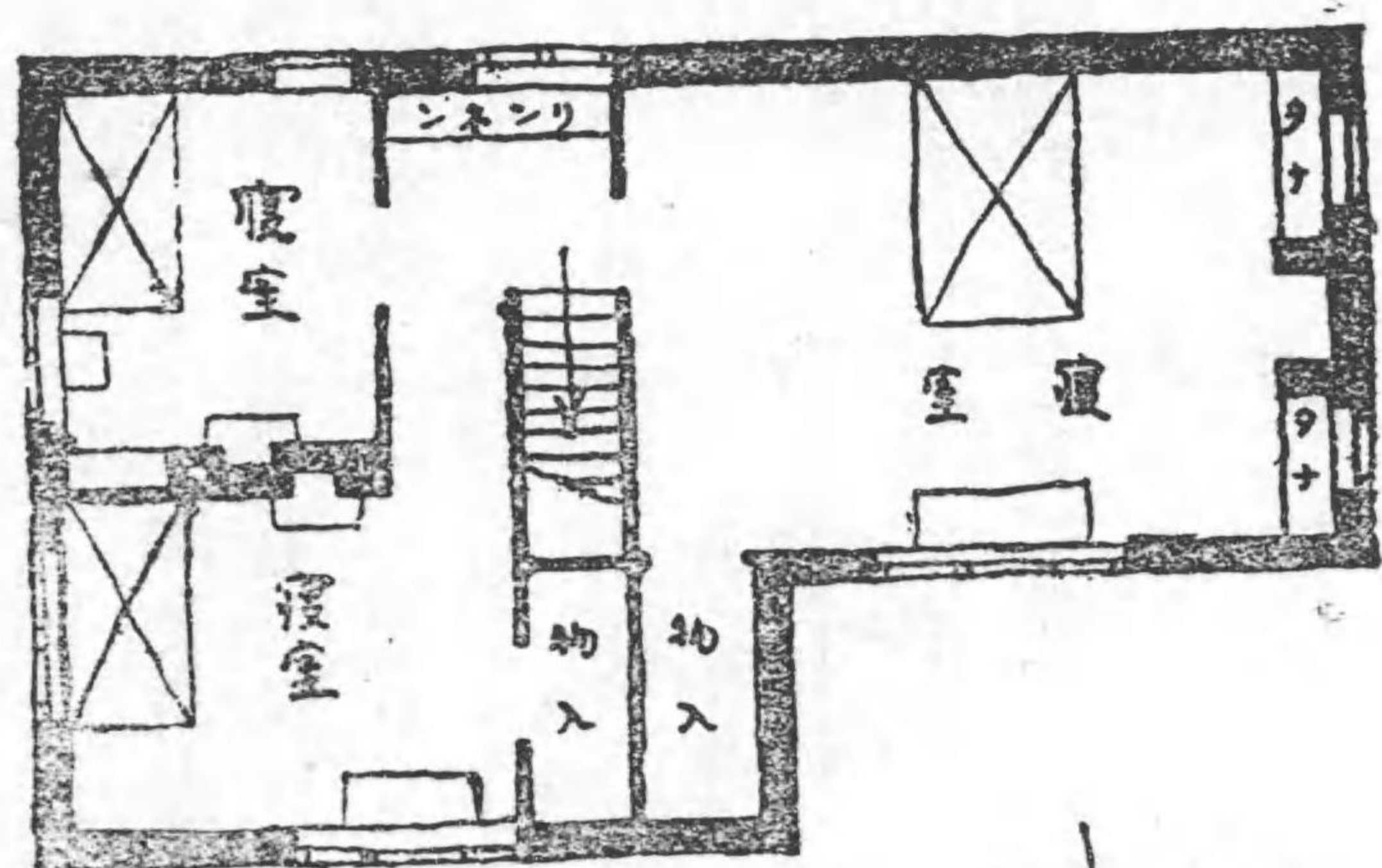


(甲) 英國風コテージの一例 (見取圖)

この形式のものが多いのです。また居室を建物の前面に置き、すべてが解放式で、外観の如きも緩やかな屋根と深い軒をもつた、恰う日本雪國の田舎家を想はせるやうなものが多いのです。英國のものは居室を中央とし、その間取が全然閉鎖式で廊下を以て部屋と部屋を連絡し、平屋建の原則が嚴重に保たれて居ることに英國流の特長があります。

コテージといふ言葉は、田舎家といふ意義の外に、パンガローに對して一般の二階建小住宅を總稱して居ます。必ずしも獨立家屋ばかりではなく、長屋建をもその内に含んで

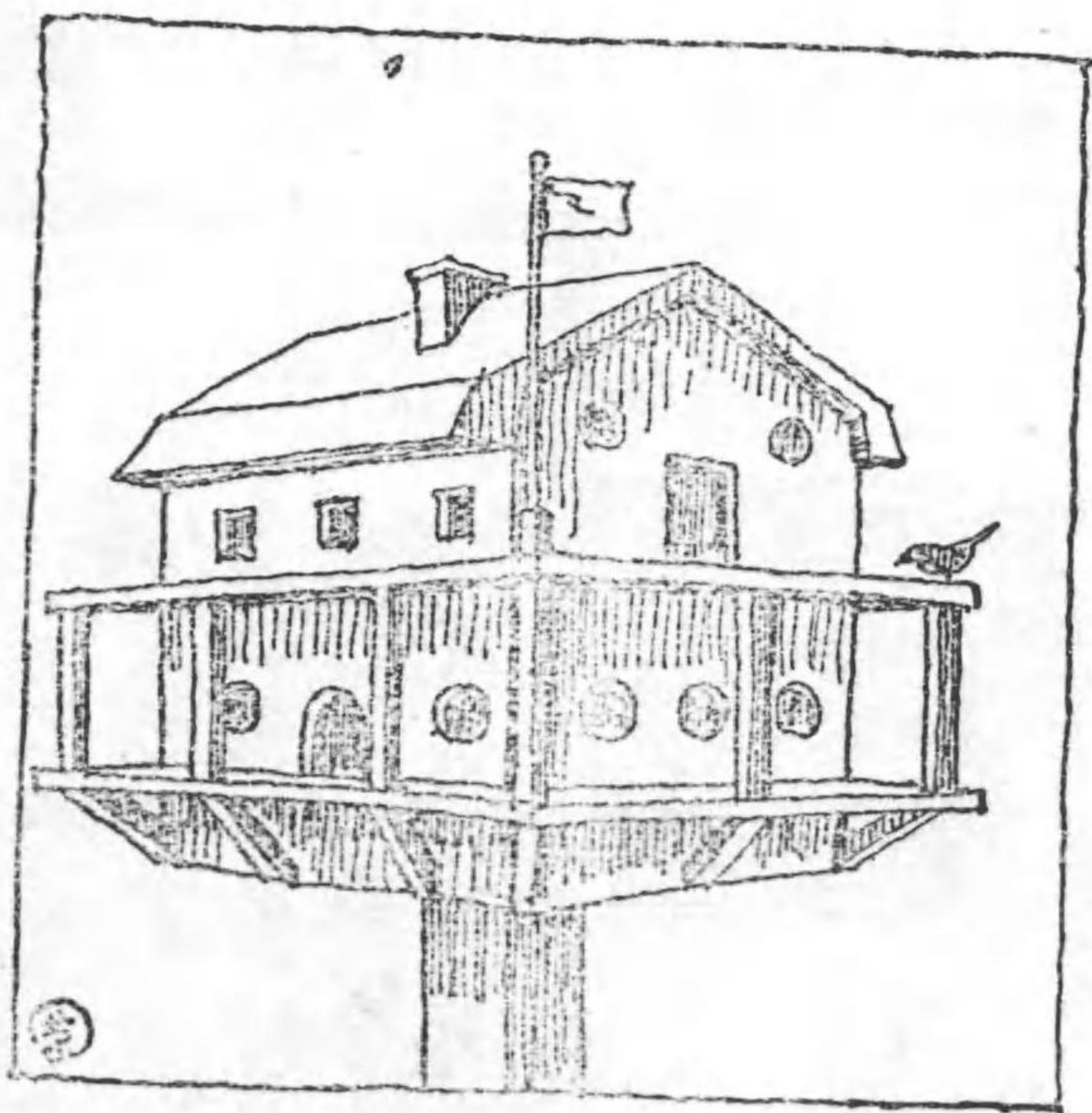
(乙) 英國風コテージの一例 (平面圖)



(乙) 英國風コテージの一例 (見取圖)

居ます。此種のもものは階下を日中使用する居室
 しか食堂もか臺所等に當て、二階を寢室とする
 一般住宅の通則によるので、その最少いさいも
 のは四室位です。居室を主とし臺所も他に二個
 の寢室位で、特に食堂を設けずして居室か又は
 臺所を兼用します。英國風の臺所では、別に洗
 場即ちスカレリーが附屬するのが普通でありま
 すから、臺所を食堂に兼ねるのは簡単な生活者
 には最便利でせう。湯殿の如きもスカレリーの
 一部に、臨時に浴槽を取出して使用するといつ
 た風で、至極手軽に出來て居るのです。私共の
 住宅にしても成る可く將來はかう云つた手軽な
 ものをお手本として新らしい工夫をする必要が
 あると思ひます。

小鳥の家 その五



七、住宅の洋式

日本に現在行はれて居る住宅の様式を、一々組織だて、記すことは非常にむづかしいのです。事實思ひ／＼の殆んど定まつたこれいふ型がないからであり、また此傾向は益々甚敷なつて行きつゝ有るからです。併しこれを一般的に觀察して、(1)全然保守的のもの、(2)急進的のもの、(3)漸進的のもの、かやうに三段位に分けてみる事は出来ます。保守的のもの云へば在來の日本式です。近年最多く郊外などに建設せられるものは、その内別荘風でも稱すべき、比較的華酒な種類のもので多いのです。一見したところ非常に弱々しく見えます。事實また弱々しいものなので、柱の細い、廻り椽の硝子障子を入れた、細い格子の連子窓や、竹を組んだ圓形の下地窓したじまどなどが、都會的氣分を多分に添へて居ります。屋根は入母屋造いりもやうぞうの瓦葺で、割合に複雑な形をとり、壁は柵や杉板の下見或は豎張りで、門扉かどなどは是れに適はしく嚴重に圍まれて、庭にはところ狭いまで、石や植込があるといった風のもので、内部に入つても關東方面では、長押造ながしよぞうのかたい定まつた風のもの

が多いが、關西方面では數奇屋風で、柱も丸味のあるめんかわ物を使つて凝つたものが少なくないのです。

専ら日本式によるものは、長い傳統で、現在なほ多數人の習慣に合致するといふ點に於て、萬人向がすることは勿論ではありませんが、しかし是れをもつて現在并に將來の住宅として、永く押し通して行く譯にはゆきません。殊に郊外の自由な天地に、全然都會的の氣持ちそのまゝの物を造ることは面白いことでは無いのです。時には何のためにこんな家を、かやうな土地に建てられる、のかを疑ふことがあります。建物がその様式に於て土地や周圍の狀況に、びつたり合ふといふことは大切なことです。たと一戸や二戸の場合は鬼に角、かやうな家が十戸二十戸を建ち並ぶと、何の事はない郊外といふ氣分は全く失はれて了つて、其處は全く都會の狭苦しい一部分に化して了ひます等しく和風にしても、郊外または田園に造るものは、自らその様式に於て、今少し考へ方がある筈と思ひます。

日本の農家にも随分面白いものがあります。同じ藁屋根でも地方により、みなそれ／＼趣を異にして變化あり、なか／＼風情に富んだものが有ります。また山嶽地方へ入ると、切妻造で中二階

風の随分變つたものも認められます。見るからにもつゝ強固らしい、單純で自由な解放的のものに、いくらか郊外住宅として適はしいものが有り得るを考へます。かやうな型を幾分でも採り入れることにすれば、材料の如きも非常に自由で、粗野な建物の様式から推して、二等品或はそれ以下のものが、反つてよく適合し、工費も遙かに低額になります。またいかめしい嚴重な塀や門の如きも自然に不必要になりませう。今後の和風住宅、殊に郊外に建設せらるゝものとしては、その地方々々に自然に發達して來た建物から暗示を得て、全然變つた方面に進むことが必要です。必ずしも外國のものにのみ學ぶ要はないのです。「日本人は木材を木材として、首尾貫徹せる方法で使用し、洗練されたる手法で、機械では得られない手工の味を持つて居ます。」米國の一建築家は賞めて居ますがこれは吾々日本人がよく味ふべき言葉だを考へます。遠い餘所にばかり眼がつく結果、肝心の自分が持つて居る立派なものを、忘れて了ふやうなことがあつてはならぬのです。

急進的のものといへば、即ち洋式模倣です、しかし廣く洋式を一口にいつても、その内に英國風の影響を最も多く受けたもの、或は米國、或は獨逸三種々雜多であり、中には全然素人細工の「でも洋式」といつた風の、何の根據もないものも可なり多いのです。米國風の影響を受けたものが、近

年最多く建築せらるゝやうに認められますが、等しく米國風といつても、是亦西部中部東部と、地方により其れ／＼の相違があつて、大略九様に分類せられます。即ち

- (1) 植民の當初に起りニューイングランドや南部を主とするコロニアル
- (2) 希臘殿堂に暗示を得て居るクラシックの復興
- (3) ペンシルヴァニア及び北部に多い、屋根の急な北方風。
- (4) 平屋建で屋根勾配の緩やかなカリホルニアバンガロー
- (5) 西部に行はるゝ、屋根の平らな、水平線を誇張したシカゴ風
- (6) スペイン風の影響を受けて居るミツシヨン
- (7) 温雅な外形をもつイタリア風
- (8) 骨組を外に表したやうに見せかけるハーフティンバー
- (9) 南西に多いビエブロー

の九つで有りまして、土地の状況により、種々變つた様式が行はれて居ります。

かやうな次第で、全然洋式模倣といつても、土地を異にし材料が違ひ、風俗習慣の上に多大の相

違がある限り、全く内容外觀を一つにするといふ譯にはゆきません。自ら日本は日本として、特有の點が表はれて來る譯です。その風土や材料や、住宅として必要な要求から忠實に考へて、最適當したスタイルを採用するといふことは、決して悪いといふことでは有りますまいが、たゞ表面的にその外觀のみを模倣するのは、あまり感心したところでは有るまいと考へられます。非常に新らしいつもりで三角の窓や、箱のような家を造つて悦んで居る向もありますが、是れもやはり淺薄な模倣に過ぎないのでは有りますまいか。住宅は何處までも自分のものでありたい。餘所の借物では困るのです。その外觀や様式のごききも、それが自分のものとして、充分觀賞に値するものでなければならぬのです。徒らに不便な思ひや、一向譯も分らずに、洋式住宅に治まつたからきて、それは何にもならないことです。洋室に疊を入れ、あぐらをかいて牛肉をつゝく程無意義なことは有りません。かういふ例はいくらも世間にあるのですが、是れは一考を要する點と考へます。また同じく眞似をするにしても、その様式を充分に知つた上、それが自分の趣味なり要求なり、自分のプランに當てはめて満足な結果を得るや否や、その邊の考慮が最必要です。要するに模倣は何處までも模倣であつて、本物以上に出るといふことは難かしいのです。吾人が洋式に學ぶ可き點は、間取が粗織

的に引締つて居るこゝ、意匠が自由にして變化に富むこゝ、構造の堅固なこゝ、窓や出入口の締りのよきこゝ、椅子を主とするこゝ及び衛生上の注意と外形及び色彩の美でありまして、徒らに是れを模倣して、反つて眞の精神を失ふやうなこゝは仕たくないのです。

二

第三の漸進的のものは、これを混合的のものゝ獨創的のものゝ、二つの方面に分けて観るこゝが出来ます。混合的のものは、日本式を本體とするが、その一部に洋風の應接室か書齋か食堂といったものを附け加へたもので、和洋相併立するところに妙なコントラストは有るには有つても衣食の現状から推して、是れが免がれるこゝの出来ない現代世相の如是相だすれば、最無難なものかも知れません。たゞ此形式では、當然室を二重に設けるこゝ、洋服の外に和服を調べて置くやうに、家は勿論家具調度裝飾品に至るまで、すべて經濟上二重の負擔をしなければならぬこゝは勿論です。二重生活の非を叫ぶ聲は、随分古くなつて居るのでは有りますが、然も依然として現在まで、尙ほ多數が二重生活をやつて居るのは實に愚かなこゝです。それは餘義ないこゝだといふ

人があるかも知れません。しかし凡ての人殊に婦人が、二重生活の愚かな點に自覺して、務めてこれを止めやうと試みさへすれば、それは追々に改良せられる事だゝ私は考へます。衣食住に就て今日の日本人程過大な費用を拂ひ、然も貧弱な實質に満足して居る國民は、餘り他所にはありません。政府の盛んに唱導する消費節約の如きも、私共が此二重生活から來る剩費を節約するこゝに務めたならば、頭から問題にはなるまいと思ひます。

次に獨創的のものは、全然如上の混合的和洋併立式ではなくて、何ものか新規な獨創的の主張を以て、和式の内に洋風を融合加味して行かうといった考へ方のものであります。是れは現在并に將來の住宅様式として、最望ましいものゝ一つです。切妻屋根を持つた日本風眞壁造で、窓は肘掛窓の形式を採り、椽側のかわりにヴェランダ又はポーチ様のものを附け加へ、戸は開き扉、面倒な洋風の線形や裝飾を畧き、内部壁は漆喰又は紙張り、床は板張り椅子式とし、寢室その他婦人向の部分に一部疊敷を併用し、暖房及び衛生上の設備をも調べ、成る可くけばくしきペンキ塗を避けて、防腐劑やオイルステインで色附けた、好みとあらば床の間や違ひ棚を設けても、何等不調和の感を感じさせないやうな、全く日本趣味と習慣を基礎としたものがその一例です。悪い趣味や習慣は一

目も早く捨てる必要がありますが、それこそ所に良い趣味や習慣まで捨て、了ふには當りません。それは務めて保存すべきものなのです。何れがよい趣味よい習慣で、何れが悪い趣味習慣であるかをはつきり見定めて、その良いものは何處までも育て、行くことを考え度いのです。日本人の持つて居る趣味や習慣の凡てが、決して悪いといふ筈はありません。永い獨特の文化が生んだ捨て難いものが、その内には多分に含まれて居るのです。たゞあまりに消極的で、世界的に進まうとする積極的な現代に添はない點が多いから困るのです。しかし私共が日本人である限りには、またその土地が日本の國土である限りには、日本の精神は失ふ譯には何うしてもゆかないのです。

米國の建築家でカリホルニア大學の教授、アーツール・ブリッジマン・クラーク氏はその著「住宅家具、郊外建築物の藝術的原則」の内に、住宅の様式に關し通俗的に分り易い説明を試みて居りますが、一般の參考としてここに譯出するのは、決して無用のことでないと思ひます。

「様式といふ言葉は、建物の體裁とか容儀といつたやうなことを意味します。既に存する様式を名付けるもの、内には、その分類による變化や、地方的の相違、即ち一つ様式であつても、それが幾つかに分れて其間に多少の差異があつたり、また地方々々による材料その他の關係から、同

一の様式でも、取扱ひ方に大小の相違を伴ふことは有り得るにしても、全體として一貫した、建築の習慣と共通性を表して居るのです。それは形體の組合せや屋根の形、繪樣線型等の詳細部分に表はれる外形上の問題ばかりでなく、材料及び其細部の手法によつて、内面的に建物の本質即ち威嚴とか嚴肅さか、内氣なところ遠慮深きところ愉快さ等を、一見して人に感得せしめ、洗練、優雅、上品、高低、がさつ、自然、粗野、繪畫的、質朴、研究、不注意、無差別等をも表現するのです。かやうに建物の外形と、その内面的精神が相依り互に作用する兩面を、スタイルといふ言葉は表して居るのです。

「また様式といふ言葉は、往々建物の品位、個性を表すものとして使用せられることが有ります。著しく優れて居る品質を表す言葉、例令ば優美さか威嚴さか住宅らしいこと、云つたやうな、望むところの品質を所有することを、積極的に區別する場合、それは様式を持つといふ類です。

「様式を知らないで建築物を鑑賞することは出来ません。元より様式だけではいけません。それでは不充足です。ある國、ある都市、或はある都市の一部分の建物を研究してみると、その隠れたる魅力といふものは、様式中にのみ存在するのではなくて、個々の設計者の趣味や熟練による

ここが直ちに知られるのです。設計者は藝術的魅力を呼ぶ、ほんとうにつかまへざるの無いものを表すために、機巧な技術を以て様式の型や方則をその建物の上に應用するのです。

「一般に建築の進んで居る時には、多くのあまり藝術的でない建築者が、その時代に擴く行はれて居る建築上の習慣や釣合プロポーションを、何の差別もなく無知の間に模倣しても、その出來上りは他の時代に比べて、疑ひもなく良好な事になります。恰うさ反對の場合もあり得るのです。それは多くの建築が様式に於て貧弱で、人の心を惹きつけないやうなものばかりの時代には、その結果として優秀な美しいものは保證するこゝが出来ないのです。(その社會が正義に基づいて居るならば、人間は自ら正しくなるが、反對に多數が無知な利慾にかられて居る中には、容易に正しいものは現れないのと同じ理屈です。)實際完全な藝術的魅力に富んだ建物といふものは、何處の土地へ行つても、亦何のスタイルでも甚だ稀れです。新らたに出來た家や、新開の住宅地に行くこゝ、一見頗る美しい家に満ちて居るやうに見えますが、是れを落ちついてよく觀るこゝ、本當に優秀な設計といふものは甚だ稀れです。様式の如何を問はず美しい設計の家といふのは、各部分形體の美的配列、最よく調整せられた釣合、適當な場所に適當な裝飾を持つたものなのです。換言すれ

ば、意匠の組立とその完成によつて美的効果が得られるのです。また或る建物にあつては、一部分が完全で、他の部分が左様でないこゝ云つたやうな場合、特にその完全な一部に對して大なる興味を感じるため、不完全な他の部分が、それ程目立たない例がよく有るのです。

三

「ラスキンは建築の主要な徳を七つ數へて、彼れの論文「セツのランプ」につとめて居ります。眞實の光、美の光、犠牲の光、力の光……等です。若し吾人が或る特種の設計のものにラスキンの説或はそれに似たやうな他の原則を適用するこゝ、私共は多くの驚嘆に値する建物は、凡てに於て完全といふものではなくて、或る一つの光即ちある一つの點に於てのみ完全で、他の光即ち他の點に就ては必ずしも左様でないこゝを發見するのです。建築といふものは、その形を支配する色々のものから影響を受けた、頗る錯雜したものです。建築家は氣が附くこゝ附かないこゝに關係なく、是等の力のあるものを感じ、他は感じないのです。

「凡ての點に於ける建築の完全を望んで、その欠點を欠點として明らかに認める結果、それがあ

る効績を欠くといふ理由のために、その良い點まで葬り去らんとするのは愚かなことです。建物がその構成部分の主要なもの、第二の部分との組合せに於て成功して居ても、材料の使用に於て、構造を偽るやうなことがあり得るのです。見掛けは石造のやうに見えても、實は木組の上に木摺を張つて添喰を塗り、石造のやうに見せ掛けてあるのです。かういつたものが現在の家には多いのです。入口に窓か、これを部分的に觀れば精細優美であつても、全體として形の組合せを誤つて居るものが多いのです。荒涼にして愛想のないコロニアル風の邸宅に、かういつた例があります。又木材は、それに受ける力の性質に應じ、その割れ易い欠點を巧みに保護するやうな特質を考へて、構造上一貫した理論により、便宜使用すべきであります。時としてその構造物が、設計上の優美な階律を欠くことが有ります。飾り氣のない小屋や、粗末なバンガローに此例があります。獨り材料の適當な使用といふことだけで、良い建築だか断定する譯には行きません。また家としては優れたものであつても、その周囲の樹木か道路か、まことに貧弱なところがあります。家は極めて有りふれた普通のものであつても、その庭園や周囲が、非常にその家を愉快に觀せることでもあります。便利な家だけを見苦しいのもあれば、又その反對の場合も

有り得る譯です。

「賢明な建物の觀賞は、その良いところは良いこととして、それだけで認めることです。寛大な心を以て、良い方が欠點に優るからといって、其欠點を認めないやうにするのは、賢いやうでは有りますが、それは事實に於て本當に建物を嘆賞し、欠點を繰り返へさない事にはならないのです。

「尙ほ又、狭い嗜好から出發してはいけません。吾人は鹽廟や、ニューヨーク及びボストンの圖書館、或はワシントンのスコッチシユ・ライトテンブルのやうな、偉大な近世的公共建築物に於けるが如き、全部石造から感ずる構造の堅固性や、永久性を嘆賞することが出来ます。併し吾人の骨を肉が包み、その肉を更らに衣裳で隠して居るやうに、種々な材料を自由に組合せて、その骨組をすつかり外皮で包んだ、中味と外と區別の全くはつきりしたものにも、澤山美しい建物のあることを知らねばなりません。かやうな建物は、木材で石造の形を表して居るコロニアル風の家、又は煉瓦造を大理石で包んで居るヴェニス風の宮殿に觀るやうに、或一つの材料の自由な表現の徳は欠いて居るかも知れないが、尙ほ多くの藝術的可能性を持つことを認めないわけには

行かないのです。

『建築に働らく力は色々です。第一は建築上の傳統であつて、假令ばニューイングランドの最初の建物に、英國の建築が影響したやうに、設計者の頭の中に、或る建築の幻影が存在することです。第二は木材、石材、煉瓦、コンクリート、乾燥瓦の如き、手近かに得られる材料の力です。(合衆國の南西地方の鐵道沿線では、鐵道の廢棄材料を利用した初步的様式の家があります。) ニューメキシコ及びアリゾナ地方のピエロー建築では、覆ひか、つた絶壁を利用して、壁はくすれ石の粗末な積方で、泥を以て結合し、木の柱を建てたのが有ります。東部の初期の植民は、斧を持つて森に行き、細長い小屋を建てました。第三の力は社會的家族的要求と習慣です。コロニア風の家に表はれて居るやうな生活の威嚴に對する家の表現は、初期の丸太小屋や、ミシシッピ平原の泥を塗つた家や、カリホルニアの金礦時代の少いさな小屋や、尙ほ又、現在のパンガロー又は散漫な家とは全然違つて居ります。第一は成熟したる文化に反映して學者に研究の餘地を與へ、次は強く壓迫された生活の内に、單なる存在を餘義なくする止み難き必要が凡てを吸収し、最後のものは文化に於て此二つの中間に位し、餘り注意を拂はれずに存在するやうなことになるのです。』

要するに住宅の様式は務めて單純に、出来るだけ虚構を排し、見苦しからざること及び何時までも見飽きのしないことを本義とすべきで有りませう。徒らに新奇を粧ひ、華麗を誇るが如きは元より無意義です。日本の住宅に於ける古い傳統や習慣は、務めて破らなければならぬ時代に進みつ、あることは事實としてみても、全然それを無視することは出来ませぬ。日本の精神といふものは失ひ度くないと思ひます。簡素な東洋人の生活には、反つて歐米人から學ばなければならぬ點も多分にあるのです。徒らに歐化する必要はありません。また事實一部少數の人達を除いては、それは出来ない相談です。輕卒な文化住宅や文化生活には直ちに賛成は出来ません。たゞ大勢は刻々國際的に進みつゝある今日に於て、依然として疊の上に按座し、悠々その日を暮す譯には行かないのです。自然住宅の形式や様式の上に、多大の變化が生ぜざるを得ないのです。傳統にのみ生きやうにしても、それは出来ないことです。趣味や習慣が自ら國際的に開けて、灰色の家がもつて明るい色に彩られ、素地の木材に、ペンキやワニスやオイルステインが塗られ、疊床が板敷となつて椅子が用ゐられ、洋式の窓や扉がついて、暖爐には石炭の火が暖かに燃え、美しい電燈の花笠から華や

かな夜の光が洩れたとしてもそれは當然の變化でせう。住宅の様式についても、將來眞に進む可き道を、慎重に考へて事を定めたいと思ひます。

水にうつる磯の燈かげのまたゝきに
若きひとみを想ふ宵かな

草 一 耶

八、材 料 と 構 造

一

家が使用の材料により、その形式様式は勿論、構造及び價格の上に多大の相違を生ずることは當然です。専ら木材を主とした日本の住宅も、時代の變遷につれて其建築材料が、煉瓦やホロタイルやコンクリートのやうなものに變るかも知れません。家を建てやうとする人は、その主要な建築材料について、先ず一通りの知識をもつことが必要です。材料の知識なしに、材料を撰擇することは出来ません。また同一の材料を使つても、その構造の如何によつては耐久力にも重大な關係が生ずるので、材料と共に、一般構造の太要をも知つて居たいのです。大きな市街的建築物となる構造も面倒ですが、住宅殊に郊外に於ける少住宅の如きは、その組立も簡單で、其要點を知ることはさまで難かしいことでは無いと考へます。

構造の最初であり又最重要な部分は建物の基礎です。基礎工事の不十分な家は、如何に上部が強く固でも、すぐ建物にゆがみやひすみが出て、建具や造作に種々の故障を起すばかりでなく、地震の

やうな不時の災害には最危険です。他の部分の工費は少々節約しても、基礎工事だけは充分完全なものにしたいのです。基礎から来る故障は、後から修繕の仕様がなければかりでなく、假りに出来る場合でも、それは豫想外の費用を要する事になります。

基礎工事の主要な材料はコンクリートです。平面圖にならつて土地に繩を張り建物の位置が定まるに、必要の巾に深さに根切即ち堀方をします。土の軟弱なくすれ易いところでは、堰板を兩側に入れて土のくずれを防ぎます。根切の底には栗石を相當な厚さに入れて充分突き固めた上に、平均厚五六寸のコンクリートを打ち、その上に數段の煉瓦積をして土臺下の基礎が出来上るのです。煉瓦造の如き壁の重量が重くなる場合は、コンクリートの厚さも一尺内外に増し、巾も壁の厚さに應じてひろくなります。コンクリートにはセメントコンクリートと石灰コンクリートが有ります。基礎としては石灰コンクリートよりも、セメントコンクリートを指定する方が宜いのです。それは一層工費を増すことでは有りますが、力を強くする點に於て遙かに優れて居ます。セメントコンクリートはセメントに川砂と川砂利を適量に混和し、水を加へて練り固めたものです。その材料の割合如何によつて、著しく強度の差あることは勿論ですが、住宅の基礎工事の如き普通の場合で

は、容積に於てセメントの一に對し、川砂三、川砂利六といふ割合で充分です。鐵筋を挿入するやうな重要にして比較的厚さの薄いものに對しては、更にその割合をよくして、セメントの一に對し、川砂二、川砂利四といつた割合が最も多く用ゐられます。石灰コンクリートはセメントのかはりに石灰を混和するもので、セメントが現在のやうに内地で盛んに製造せられない明治時代の前半には、可なり廣く使用されたものでは有りますが、その力の弱い點に於て、今では殆んご顧みられなくなつて居ります。

宜いセメントコンクリートを得るには、良質のセメントを撰ぶことを第一の要點としなければなりません。現在吾が邦には、約二十に近いセメントの製造工場があり、その製品にそれ／＼の差はありますが、同一會社の製品でも、常に品質が一定するといふ譯には行き兼ねるもので、それが爲めに重要な建築工事では、一々強度の試験をした上で、一定の標準に合格したもの、みを使用して居ります。セメントは石灰石と粘土を、大仕掛の釜で焼いて造つたものですが、適當な注意を缺いたところに放置したものは其強度を失ひます。濕氣を受けたやうなものは絶対に避けなければなりません。普通一時間内外より硬化を始め、或三時間の内に硬化を終るのですが、製品によつて元より

一定しないのです。硝子板の上に徑二三寸位の饅頭型のものを造り、濕つた布を掛けて一週間位堅めたものに就て、その硬化の様や、是れを煮沸して、龜裂の有無を検査する程度の試験は誰れにも出来るのです。

煉瓦は建物基礎の根積として、又便所や湯殿の腰積として、或は壁として最普通用ゐらるゝ、是亦重要な材料です。古代支那や西方亞細亞や歐洲で、紀元前から使用せられた建築材料としては最古のもの、一つです。粘土を型に入れ、乾かしたものを窯で焼いたもので、その焼け方の程度や形により、一等品以下數等の差があります。巾三寸六分長七寸五分厚二寸を定寸しますが、焼きものだけに出来上りに、多分の寸法の差があります。煉瓦積の壁は、其並べられた煉瓦の数を以て壁厚を呼ぶのが習慣です。煉瓦一枚厚或は一枚半厚といつた調子です。煉瓦一枚厚といへば長さの七寸五分厚、一枚半厚といへば煉瓦一枚半分に目地の厚さを加へたもの、一尺一寸四分厚の壁を指すことになります。基礎工事に使用するものは、ヤサヤサ焼過き呼んで居る、形状よりは焼けのよい硬い吸水性の少ないものが適します。壁の外部で態裁を主とする場合は、色も一定し、形状も正しく、その表面に當る部分に色々な裝飾的な刻み目等をつけた、化粧煉瓦があります。又火にかけないで

單に日乾しのみ、の煉瓦、セメントミ砂を混じて堅ためた砂煉瓦、鑛滓を利用した鑛滓煉瓦のやうなものも有ります。普通煉瓦ミ同一の製造法で、それよりは型も大きく、内部を空としたホロタイルも近年製造が開始されて、追々利用の途が開かれて居りますが、是れは普通煉瓦に比べて、重量の軽いといふ點に特長があります。平屋建の軽い建物ならば基礎積として差支へありません。

煉瓦やホロタイルを積むにはモルタルを使用します。モルタルにはコンクリート同様、石灰モルタルミセメントモルタルの別があります。セメントモルタルは、セメントミ川砂を混和し、水を加へて練り合せたもので、その割合は容量に於て、セメント一に對し川砂三の割合を普通とします。石灰モルタルは石灰コンクリートミ同一の理由で、現在は餘り使用せられません。またモルタルは單に煉瓦や石材を積むばかりでなく、壁や床用としても有要なものです。

地下室を設ける場合は、水氣を防ぐためにアスファルトを用ゐます。比較的簡單な場合は、防水劑を加へた防水モルタルでも用を足します。煉瓦壁の濕氣を防ぐ爲に、地盤から五六寸上のところに防濕層ダンプコースを置きます。これはスレートをアスファルトで敷き込むのが普通です。アスファルトに砂を加へたアスファルトモルタルを塗つても宜いのです。地下水の淺いところでは、地下室を設けるこ

こは困難です。割合に多額の工費を要して、その利用の途がすくないのです。高低の著しい土地でその低い部分を地下室として利用するのは宜いでせう。たゞ土に沿ふ部分の壁の防水工事を完全にすることが大切です。

二

軸細、床組、小屋組の材料として、木造住宅に於ける最主要的な位置を占むるものは、いふまでも無く木材です。柱、貫、束、根太、母屋、垂木としては杉材が重に使用せられ、土臺は檜材または羅漢柏、梁、胴差、桁、小屋材としては松を主とします。杉材は建築材として最も多く使用されるもので、殆んど用材の過半を占めて居ります。輕軟で加工し易く、木理が眞直で長いものを得易いために、柱さか、貫材、敷鴨居等に利用されるのです。また板としても床板、外部羽目板等に盛んに用ゐられ、柱目の美しいものや、盲目のものは、天井板や建具材として賞用されます。産地は至るところにあり、生長の比較的早いものです。關西地方では大和の吉野、及び紀州材が良材として有名です。

杉材に次いで最も多く使用さるゝものは松材です。松には種類が多くて、赤松、黒松、姫小松、落

葉松等がありますが、中でも赤松が最も多く、材質も木理が通つて美しく、弾性に富んで脂氣を多く持つて居ります。強度の強いといふところから、基礎工事の杭さか、梁、桁、胴差、こいつたやうな力の掛る重要な部分に使用されます。また板としても杉材と同じく、羽目板、床板、屋根板等に利用せられます。姫小松、落葉松といった種類は、材質が密で、内部の床廻り造作材として用ゐられる場合が多いのです。

檜材は建築用材の最優秀なものとして、吾が邦では古來住宅に愛用せられて居りますが、松や杉に比べて價格が遙かに高くなります。光澤と香氣があつて、水に強く耐久力に富む點で、土臺には必ず檜を使用するのが普通です。造作材、建具材としても優秀なものとして、是亦盛んに使用されて居ます。尾州、紀州、土佐、日向等に産しますが、産地によつて多少色澤の相違があります。木曾御料林から産するものを以て、最優良品として居ります。羅漢柏は檜に類して是亦水に強い點から土臺其他腐蝕し易い部分に使用せられます。

樺材はトガ又はツガと稱し、木理が密で美しく堅いといふ點に於て、柱、敷鴨居、椽ぐれ其他造作材構造材として、杉と相並んで多く用ゐられます。山城樺尾に産するものが、最良材として知

られて居ます。樅は軟らかで加工し易く、價も低いといふ點に於て、天井板その他一般造作材としてひろく用ゐられて居ります。尙ほ建築用材として此外に堅木に屬する樺、鹽路、桂、栗、檜等種々のものがあります。又近年米國より輸入する米檜、米樺、米杉、米松、といつた種類のものが、材質が美しくして日本材に比し價格が安いばかりでなく、大物や長物が自由に得られるといふ利益のために、住宅建築材として盛んに使用せられて居ります。元來が山國で木材には富んで居るに、吾れも許し人からも認められて居る日本が、現在ではあまり豊富だとは云はれなくなつて、海を越えて遙ばる亞米利加から木材を取寄せて家を建てる始末です。山林國が他から木材の供給を受けるといふことは、あまり有り難いことではありません。山林といふ山林は、出し場のよいところは大方伐採しつくして、今では最不便なところのみが残つて居るこいつた形ちです。或る種のものに就ては、殆んど得られないやうなものも有ります。北海道や樺太、鴨綠江方面のもので、内地の不足を補つては居るので有りますか、元よりそれだけでは不充足です。米と綿と木材は、日本人の生活からいへば三つの大きな必需品で、何時でも豊富な供給が必要なのです。米も不足だ、綿は全然外國から供給を受けなければならぬ、木材も輸入するにあつては、日本人の立ち行く筈が無いのです。

これは國家的に是非考へられなければならぬ大きな問題です。

木造壁の構造に、洋式即ち大壁造り、和式即ち眞壁造りの二つの方法が行はれて居ります。眞壁造りは、土臺、柱、敷鴨居、桁こいつたやうな構造材を其儘裝飾材として露出し、その間を壁で埋める結果、自然木材を吟味し木理の美しくさを鑑賞するやうな風を助長し、柱一本を撰ぶにも二方桁或は三方桁等と稱して、中々容易のこころではなくなるのです。こんな風に木材を撰ぶといふことは、恰うさ大きな魚をつぶして特別上等のさし身をほんの僅かゝるやうに、非常な贅澤なものなるのです。洋式の大壁造は、柱、間柱、筋違等で組固めたものを、内も外もすつかり板で壁で包んで了ひます。前者を露骨といへば、後者を皮肉と云ひたいやうな構造の相違があります。眞壁造には、偽らない東洋流の正直さが見えます。此方法は決して悪いのではなく、眞に木材を木材として使用する氣持のよい方法だと考へます。大壁造りは凡ての木組を壁の中に包んで了つて内も外も全然別物となつて了ふのです。木造を煉瓦造に見せかけるブリックヴェニア（煉瓦を薄く張りつけたるもの）だの、石造の眞似をする人造石塗の如きは、保存上からしても餘り有利な方法ではありません。クラーク氏のいふやうに、私共の骨を肉が包み、その肉を更らに衣裳が隠して

居る如く、種々な材料を自由に使つてその骨組をすつかり包んで了ふことは、必ずしも批難すべき構造ではないかも知れませんが、木で造つたものを、石造や煉瓦造に見せかけやうにするところに大きな嘘があります。東洋風の考へに、西洋風の考へにの大きな相違が、そこに明かに認められます。何れにも特色はある筈ですか、不幸にして輕卒な東洋人は、兎角東洋流の特色を忘れて了つて西洋流の虚構主義や表裏主義に傾かうとするのは大きな間違ひを考へます。

洋式の木組が力學的で、務めて細い材料を以て重い荷に耐える強固な點は學ばなければなりません。徒らに大きな材料を用ゐることを誇りとするやうな、東洋流の簡單な方法のみに固持するのは愚です。内部を和式の柱の露れた眞壁とし、外部に細い間柱を入れて下見張或は漆喰壁とした半洋式は、恰うご和洋の間をこつた面白い方法かご考へます。これは輕便で比較的經濟な方法ではありますが、下手をするご和洋兩方の欠點を合せることになる恐れがあります。小屋組は少いさなもので、和式の束ご貫で固めたものでも差支は有りませんが、傾斜の急なもの及び張間の大きなものは、洋式組の方が經濟的であり且つ安心です。また小屋組ご軸部ごの連結を充分にするごにも必要でせう。

壁の構造は、和式は柱ご柱の間に貫を通し、割竹で細かに壁下地即ち小舞掻きをして、兩面から土を塗りつけます。普通は荒壁、中塗、村直し、上塗ご都合四回塗仕上で、仕上の程度は色々あります。材料は壁土、沙、石灰で、角又、ふのり、藁筋、濱筋、紙筋、を混入して練り合せ、貫當り等龜裂の恐れある部分には布切を塗り込みます。色は白、赤、青、黄、茶色、黒色等色々あります。が、地味な滋味の勝つたのが日本壁の特色です。洋式では、柱或は間柱に木摺又は金網の類を張り色漆喰或はセメントモルタルの類を塗ります。外部モルタル塗では、セメントモルタルの投げ附け塗が、比較的野趣に富むごころから盛んに使用せられます。板を張る場合は、日本流ではさ、らご下見或は堅板目打ち張ですが、洋風では比較的中の狭いものを、羽重ねにして横に使用します。ペンキを使用しない場合は、澁塗りか防腐劑塗りごし、和式は多く杉の焼板を用ゐます。

床板は最安價なものは米松の出來合品で有りますが、稍高等のものは猶材の巾の狭いものを使用します。寄木張りは最上等のものに屬します。未だあまり使つては居りませんが、立關先や臺所廻

りには木煉瓦敷が良いを考へます。キルクタイルも住宅の床用として、近年多く使用されて居ります。リノリウム其他敷物を使用する場合は、杉板割のやうなものが重に用ゐられます。叩き床はセメントコンクリートの上に、セメントモルタルを四五分厚に塗りつけるのです。人造石塗は、普通のセメントモルタルに、大理石、石粉の類を混入したもので、塗り上げた跡をすぐ水で洗つた洗ひ出し仕上のもの、その上に磨きかけた研き出し仕上があります。

屋根葺材料として最多いのは瓦です。瓦には現在非常に種類が多く、在來の日本瓦の外に洋式のセメント瓦金屬製のもの等、色々な材料の型が行はれて居ります。日本瓦の内にも品質の等差は勿論、その大少及び型の相違があります。色合についても従來の鼠色ばかりでなく、赤色及び茶褐色のものが近年多く用ゐられます。大正十二年の地震以來凡て釘止めにする事が必要とせられて居ます。セメント瓦は、セメントモルタルを型につめてロールしたもので、赤、青、小豆色、綠色等、仕上の自由で輕便な點から住宅向きとして各地に使用せられて居ます。瓦の外に屋根葺材料としてはスレート、石綿盤、銅板及び亜鉛引鐵板があります、輕いといふ點に於て、是等のものは瓦に比して便利では有りますが、金屬板のやうな薄くて熱し易いものは、下地にモルタル或は漆喰塗をして

寒暑の調節を謀るに必要とせう。郊外では、藁葺や板葺もよいを考へます。單に見たところから周囲を調和してよいばかりでなく夏涼しく、冬暖かい特長があります。

住宅用としての石材の用途は、その範圍があまりひろくはありません。土臺下の延石、入口段石、腰石、敷石といったやうな、何れも一部分の用途です。關西地方では花崗石を多く使用します。これは攝津の御影から産するものが有名であるため、御影石とも呼んで居ります。火山岩の一種で、石理に粗密種々の相違があり、普通は白色の石英と黑色雲母の混入したのですが、産地により赤味を帯びた美しいものもあります。石質非常に堅硬で、琢磨すれば鏡のやうな美しい光澤を生じ裝飾用になります。火に弱いといふ點が此石の欠點で、殊に石理の粗なものが最弱いのです。

花崗石に次いで建築用材となるものは堅石で、これは火山岩の一種安山岩です。關東地方では伊豆より産するもの最多く、その種類も色々あります。加工が容易で、中には色澤の美しいものもあります。東京方面では堅石の外に、防州石、大谷石等が最普通に使われ居ります。關西地方では播磨地方より産する青石が、土臺下の延石として最一般に使われ居ります。屋根に使用せられるスレート即ち石盤岩は、熱と壓力のため粘土質水成岩の變質したもので、宮城縣より産するもの

滿洲方面より輸入するものがあります。内地産は黒色及鼠色ですが、外國品には綠色、小豆色等があります。薄く板に剥げるころから、重に洋風屋根板として使用せられます。鐵平石はスレートに類し、ある厚さに剥げる點は相似て居りますが、石質が非常に硬くて耐久力に富むため、重に敷石及び壁の腰張りに用ゐられます。

大理石は石灰岩の一種で、石質が緻密で彫刻に適し、琢磨すれば美しい光澤を生じます。その用途は重に裝飾用で、室内の腰張り敷石段石及び暖爐前飾等に用ゐられ、色は白色、鼠色その他綺麗な模様を持つて居ります。常陸、長門、美濃地方から産するものが有名です。朝鮮滿洲地方からも、色々變つたものが輸入せられます。蛇紋石は變質岩に屬し、綠色の美しい色澤を持つて居ります。やはり常陸の産で、裝飾材として一般に用ゐられて居ります。普通にマーブルといふ言葉は、建築上裝飾として使用せられる石材を總稱して居ります。

石材の加工は鑿切り、小叩き、上小叩き及び水磨きです。普通の仕上は小叩き三邊位であります。住宅向には野面が鑿切り程度のもものが野趣に富んでよい感じを與へます。壁張り等に使用する大理石は、金剛砂を以て板にひき磨き上げたものです。その地方の山川から出る玉石を大小取交ぜ

て、腰積にしたり煉瓦積に交せて積んだり、石垣や敷石、門柱等に利用するのはよいことです。家は出来るだけその地方に産する材料を以て造るのが、經濟であるばかりでなく、自然に最良の調和した落付を與へます。徒らに遠方から高價な材料を取寄せて、その珍寄を誇るの愚です。それは單に餘分の工費を要するばかりでなく、その土地に最適はしくないものが出來上ります。

タイルは外壁化粧附用の煉瓦形のものから内部壁及び床敷用のものまで、その品質色合等種々です。愛知縣、兵庫縣等から産するものが多く用られて居ります。湯殿、洗面所、臺所、便所等には、汚れなく清潔を保つ上に於て必要な材料です。タイルモザイクは良い感じを與へますが比較的高價です。セメントタイルはその形が正確で、普通のタイルのやうなひずみやねぢれが無い點が特長です。これも可なりひろく使用せられて居ります。

四

住宅の天井の高さは、部屋の大小により元より一定しませんが、あまり高く無い方がよろしく八尺乃至八尺五寸位で充分でせう。疊敷の部屋ならば更らに低くてもよい譯です。天井の高過ぎるの

は工費を増すばかりでなく、住宅らしい落付きを失ひます。床下は二尺位を普通としますが、出来るならば更らに五寸でも一尺でも高い方が、家のためにも亦人の健康のためにも良い譯です。地形によつては階下を低い物置とした、中二階風の寢室を造るが如きは良い考へだと思ひます。

洋風構造では窓の構造が問題になります。即ち上げ下げのサツジウィンドーにするか、兩開きのケースメントにするかといふことです。何れにも特長があり、家の様式なりその人の好みによつて決まることです。ヘツプウォールズ氏は

「窓は木或は鋼鐵の何れにしても、兩開きか又はよく知られた箱型の上下げ窓かの何らかです。

此兩方の間には工費の差があり、それは何らかいへば兩開きに都合のよいことになります。鋼鐵製兩開きは完全で良いのでありますが、うすくて外觀に深味がありません。上下げ窓は觀たところ、平均及び組立ての或る感じを與へます。その良い點は風雨に對して低抗することでありませんが、元より撰擇は家の様式や個人の好みによることです。もしも兩開きの場合にシャッターを取付ける、障子は當然内開きとなり、雨仕舞、カーテンの考案に注意を要します。」

と記して居ります。また窓や出入口扉の鐵物は、成る可く丈夫なものを選ぶ必要があります。少し

く注意を加へた住宅ならば、附屬品は務めて和製品を利用することも、錠前だけは外國品をこる必要があります。鐵物が始終破損して、扉や窓の開閉に不自由を感じることは、住宅として最不快なことの一つです。それがために、多少の費用を犠牲にするのは決して無駄なことではありません。窓障子の硝子には並品と上品があります。上品は厚さも正確で泡だのきすが有りません。色硝子を組合せたステインドグラスも住宅には適はしいものですが相當高價です。

天井の構造には板張り、漆喰塗、紙張り等があります。日本座敷では天井板に杉とか樺の柃目杢目を選んで、贅を極めたものが有りますが無用のことだと思へます。見苦しからざる程度で充分でせう。安價なヴェニア板や、紙板を利用するのはよいことです。妙に茶がかつた、あじろ組その他變つた天井のやり方は、面白いものでは有りますが一般にはあまり好ましくありません。成る可く單純な色組方が、平靜の感を與へて最良と思ひます。洋式ハーフチンパーの家に多い二階梁をその儘天井に露はしたものは、氣持の宜いものです。日本の田舎家なごにも多く見受けられます。

塗料としては生澁、防腐劑、ペンキ、ワニス、オイルステイン、水ペンキ等があります。塗料殊にペンキは、品質に非常な差等がありますから、信用のある營業者に命ずる必要があります。新ら

しい木部にペンキを塗るには、四回塗を普通とし、木材の節は節止め液を以て完全に処理しなければなりません。上塗にエナメルを使用すれば一層耐久的です。室内漆喰塗の上には水ペンキが適します。淡色のクリーム、紅色、綠色、茶色、灰色等、色合が自由でよい裝飾的效果を呈します。漆喰壁に塗料を施す場合は、その壁の表面が充分乾燥する必要があります。オイルステイン即ち色付けは安價にして木理を表すことに特長があります。素地を主とする和風住宅でも、適當に木部に色付けすることは汚れを防いで耐久的でよいことです。ワニス、油ぶき等あまりに家をつやく／＼しくすることは、度を失するに俗に流れてよく有りません。地方によつては凡て紅柄を用ゆちころがあります。適度に黒味を加へて、漆で軽く光澤を出したのは宜い感じを與へるものです。

市街の建て込んだ土地の住宅では、防火構造が必要で、木骨に厚く日本流の漆喰をつけた在來の土藏造は、相當な防火力を持つては居ますが割合に工費を多く要します。瓦下地にセメント漆喰を塗るもの、鐵網に薄くコンクリートを塗るもの、或は煉瓦を張りつけるブリックヴェニアの如き何れも準耐火の構造ではありますが、その効果は元より絶對的のものではありません。郊外住宅でも湯殿

や臺所廻りの火を扱ふ場所の床や壁や天井は、これを相當な防火的のものにする必要があります。現在では、家は木で造るもののみ考へた考へ方に、追々修正を加へなければならぬ時代に入つたやうに思はれます。木造以外としては、石造、煉瓦造、ホロタイル、コンクリートブロック、鐵筋コンクリートがあります。英のウエルチ氏は

「良い石材は、外壁の最良の材料です。完全に良く焼けた煉瓦は、價値に於て次に位します。耐久力ミ外觀の二つの點から、是等二つの材料には特に注意を要します。壓搾煉瓦は、軟石と同様雨や霜に曝らされるに剥げる嫌ひがあります。外氣に曝らされるところには、化粧煉瓦を用ゐます。地方によつては、もつこ安い煉瓦が往々手近かにあるために、それを使用することもあります。此場合にはその表面に、粗い仕上のセメント塗をします。外壁に化粧煉瓦が使用せられる場合は、二重壁の積方をして、中間に空所を置きます。これは一般にホロウウォールとして知られて居ります。コンクリートブロックは原則として望ましくありません。それは多くの地方に於て價が高く、見たところが堅くて寒い感じを與へるばかりでなく、石や煉瓦のやうに音響を止め又は吸収しないため、住むのにあまり愉快ではありません。」

記して居ります。此外に假粹を組んで粘土でつき固めた、ピセドテールと稱する粘土壁が稀れに行れて居ります。恰うき吾が邦の土塀のやうな構造です。田舎家等には魅力に富んだものではあります。弱くて高い壁には適しません。煉瓦壁を最普通にする英國住宅では、大戦中は煉瓦が不足したため、コンクリートが擴く用ゐられたといふことです。

鐵筋コンクリートは鐵を骨とし、コンクリートを肉にして、兩者の各特長とする點、即ち鐵の耐伸力とコンクリートの耐壓力を、學理的に最巧みに組合せた新しい材料です。大正十二年九月の東京地方の震火災に、此材料が比較的よく耐えたといふ實驗から、その應用が一層ひろく普遍したやうです。市街地の住宅、或は郊外でも砂利や砂が手近かに得られるところでは、今後は相當に用ゐらるべきものと考へられますが、それが不合理な設計や、粗雑な施工にかゝるに、一層危険で反つて兩方の欠點を發揮するやうな恐れのあることに注意しなければなりません。淡い色のついたセメント漆喰か粗面の化粧煉瓦が、此壁の仕上には最適當するでせう。薄い煉瓦やコンクリート壁は、吾が邦の如く風の強い雨の多い國では、常に水を通す恐れがあること、窓を比較的大きくしないに梅雨中なきに、室内の濕氣の嫌があることを知らなければなりません。

九、工費豫算

建物の大きさや其様式、材料構造の大體方針が定まるに、設計の準備として次に必要なことは、支出し得る工費の豫算です。いくら大さや構造ばかり決定しても、肝心の豫算といふものが定まらないでは設計を進めるわけにはゆきません。これが家の設計を支配する、一番重要な條件です。

吾が邦では一般に建物の價格をいふには方一間、即ち建坪或は延坪を以て、その工費一坪何程といふのが習慣です。しかし疊敷を本位とする和風の住宅では、東京方面は方一間六尺四方を以て一坪としますが關西地方では、疊の長さ六尺三寸を一間とするため、その一坪と稱するのが六尺三寸角あつたり又六尺五寸角であつたり、場合により大きさが區々です。自然其處に正しく方六尺を以て一坪と計算したものと、普通と呼ぶ坪數との間に、面積に於て大分の相違を生じます。又メートル法により、二メートルを以て柱間一間と定めるやうな方法も追々行はれる結果、一坪六尺六寸平方となり、そこに一層の相違を生ずる譯です。かやうな理由から、單に工費一坪何程といふにしてもその一坪が普通の六尺を一間とする東京風のもの、疊本位の六尺三寸乃至六尺五寸を一間とする

もの、及び二メートル六尺六寸を一間とするものとの間に、比較上著しい差のあることに注意を要するのです。

歐米では一般に建物の立體容積を算出し、その總價格を立體容積に割附けて、一立方單位につき工費何程といふのが習慣です。これは吾が邦の平面坪を單位とするものに比べて、遙かに正確です。建物の容積を計算するには、壁の外側から外面までの寸法による平面積を算出し、コンクリート基礎の頂端から屋根中央迄の高さを是れに乗算するのです。

さて普通の住宅として、延一坪何れ位の工費をかければよいかといふ問題になりますが、これは建物の大小様式構造及び使用材料の如何によつて、元より區々で一定しないばかりでなく、その建築地の位置如何により、材料輸送の便否が著しく工費に影響を與へます。全然同一の設計になる家でも、その土地の便否によつて、一方は割合に安く出来上つたが、他はその二割乃至三割も高くなるやうな例は決して珍らしくありません。又時期にも關係して、甲の家が坪二百圓で出来なからといつて、たゞへ同一の設計でも、時期を異にすれば當然その工費に異同を生ずる譯です。戦前戦後は、日本の建築費は殆んど三倍に騰貴しました。戦前三十坪の家を建て得た人も、現在では僅

か十坪の家より出来ない割合です。如何にして安價に住宅を一般に提供するかは、當面の最重要な問題ではありますが、この方面の調査や研究にあまり觀るべきものゝないのは遺憾です。

和式と洋式の工費の相違にしても、一口に洋風を稱する内に様式や構造材料の色々の差があり、一般には和式の方が安いやうに考へられて居りますが、これも一概には云へないことで、少しく木材を吟味するところになると、和式は反つて非常に高價なものとなるのです。かやうな事情から、住宅建築の價格に一定の標準を定める言ふことは難かしいのでありますが、特種の構造や材料を使用しない限り、ある限度の價格を目安とするところは出來ます。即ち普通の日本家として、延一坪につき百五十圓乃至百五十圓位のところが最多いので、長屋建のやうなものならば、百二十圓位でも出來るでせう。無論これより安く造れないことは有りませんが、構造の何處かに無理が出來て、反つて不利益な結果になります。洋式にしてもその簡單なもの、和式に比べて一割か二割の差で、大きな工費の違ひはありません。以上は勿論一般向住宅の標準で、紳士向の邸宅として延坪五百圓以上を要するものも珍らしくはありませんが、それは實用の見地を離れた寧ろ贅澤に屬するもので、こゝでは問題外のものであります。

もし豫定の金額より、支出工費の見込額の方が大きくなるに、當然建物豫定の大きさを減じなければならぬことになります。工費が足りないからといって無暗に材料を悪くしたり、手間を略くのは決して賢明なやり方ではありません。寧ろ建物の坪数を減じて、工費の節約を合理的に圖りたいのです。しかし爰に注意すべきは、坪数を減すればその減じただけの坪数に單價を乗じたものが減るかといふに、實はその通りに行かないことです。例令ば坪貳百圓といふ程度の家で延坪約四拾五坪のものを要するに、此工費豫算九千圓になります。さて支出し得る豫定の金額は七千圓より無いとすれば、差引二千圓といふ差が生じます。此場合豫定の四拾五坪を三十五坪に減すれば宜いかといふに、その割合通りには行かないといふことです。ウエルチ氏は此點について次のやうに説明して居ります。

『建物每立方呎の價格は、材料の如何によつて種々の相違がありますが、普通は一志六片から一志九片です。併しこれは單なる案内に過ぎません。もしも豫定より工費が高くなる場合、唯部屋の大きさのみ減すれば、其割合で價格が減るを考へるのは間違つて居ます。その理由は、最必要でまた工費を多く要する階段とか出入口、窓、暖爐、浴室等が、部屋の大少に關せず、同様に必要と

せられるからです。それ故に部屋を小さくしたために減する立體容積は、それに一立方呎の單價を乗せたものと同じで、其二分の一の容積だけ減るものと假定して計算すればよいのです。同様に若し部屋を大きくする場合にしても、その増えただけの容積に對しては、元の一立方呎の工費の半額を、増えただけの容積に乗じたものを増額すればよいことになります。』

是れは元より一般の場合で、何時でも常に左様だとは限りません。殊に吾が邦の如く、立體容積でなしに平面坪で價格をいふ場合、事情が著しく違つてくるのですから猶更らです。しかし家は坪数の割合に少いさなものに比べて、それが大きくなればなる程有利であることは事實です。例令ば延六十坪の家が、一坪當り二百圓で出来たからといつて、その半分の大き延三十坪の家を、同じく坪當り貳百圓で、同一程度に造らうといつてもそれは出来ないことです。大きさは半分に減じても工費は半分には減じない。六十坪で一萬二千圓の家が、その半分三十坪になつても、工費は六千圓に半減しないで、其四分の三、九千圓位はかゝるといふ結果になるのです。これはウエルチ氏の記して居るやうに、家が半分に少いさくなつても、出入口とか階段、窓、便所、湯殿、臺所設備といったやうなものが、同じ様に必要であるばかりでなく、床とか屋根とかは面積に應じて減じます

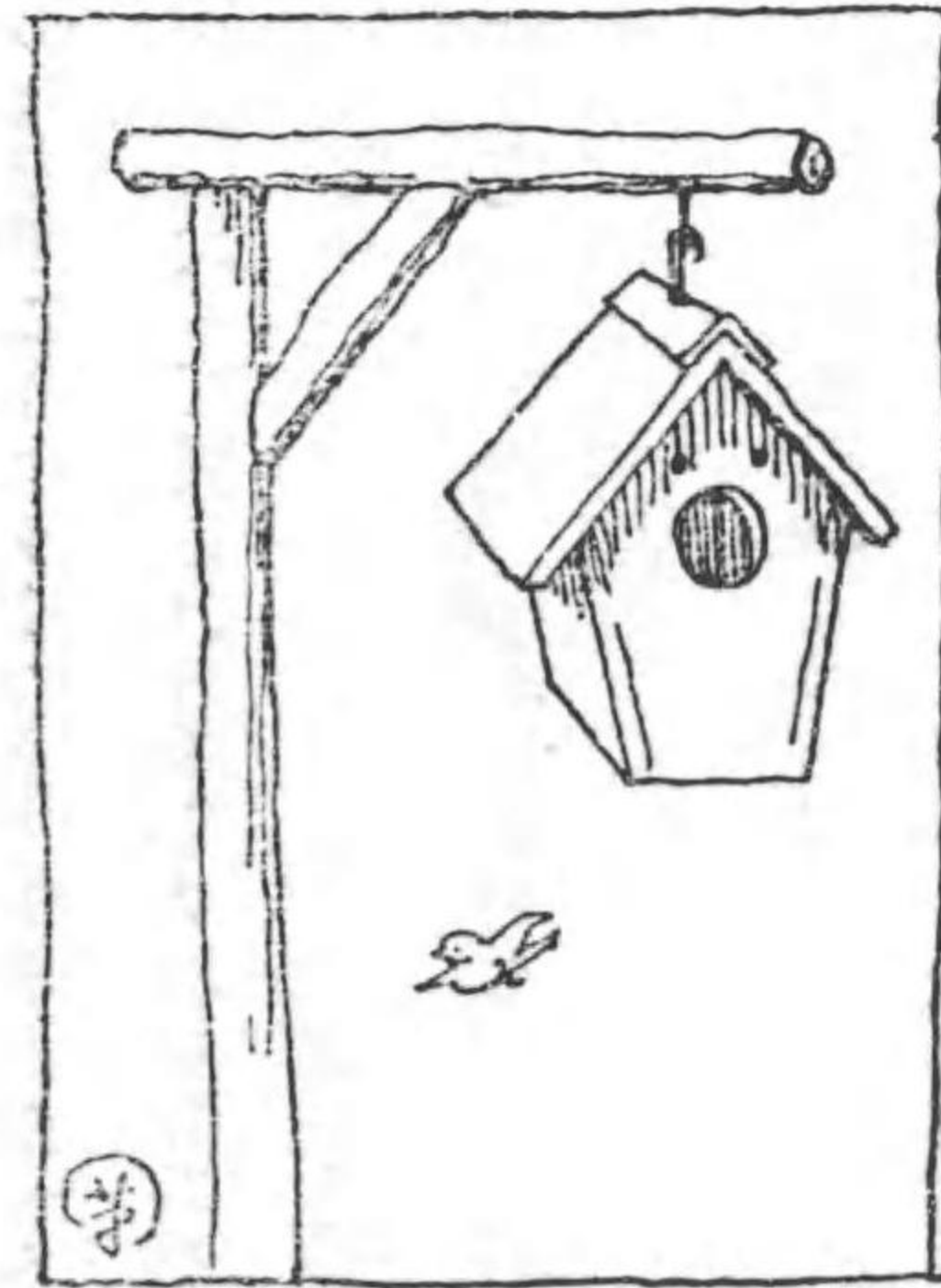
が、基礎とか壁とか軒廻りの延長は、決して面積の割合では減じないのです。それ故に家は小さい程不利益だといふことになります。成る可く規模を大にして、出来るだけ共同の設備を完全にしたら、共同住宅即ちアパートメントの利益は、こういった點にもたしかに有る筈だと思へられます。

次に豫定されなければならぬことは、當然家に附帯する各種の設備費及び庭園費を、豫算として豫じめ見込んで置かなければならぬことです。電燈電熱に要する工事費、若し瓦斯の供給のある地方ならば瓦斯工事費、臺所、湯殿、洗面所、便所手洗等に屬する衛生水道工事費、若し暖房の設備をするならば暖房工事費、室内家具裝飾費、及び門扉並に庭園に要する費用です。何程家ばかり立派に出来ても、その設備が不充分であつたならば、現代の住宅としては、それは甚だ價値の低いものになります。然らば是等の設備に對し、何れ位の豫算を見込むのが宜いかといふ問題になります。が、是亦程度如何によることで、一概に論ずる譯にはゆきません。

舊式の和風住宅では、比較的設備に屬する費用が少くない譯です。それでも庭園などに多少注意を加へるに、意外の費用を要し、門一つでも中々安くは上りません。多少の洋式を加味し、相當の文化的設備を加へるものと思すれば、附帯の費用は存外多額に登るので、少なくとも建物費の三割或は四割を見込む必要があると思へます。尤も庭園の如きは、必ずしも建物と同時に仕上げる必要はありません。植木植附けの時期如何により、事實左様運ばないことも有るのでから、遂次に仕上げる方法をすれば宜いのです。家具や裝飾品に就ても、家と同時に凡て新しいものを買ひ調へる必要はないでせう。有合せの物で間に合せるは勿論、自分の趣味を實用から考へて、適當なものを次々に買足して行く方が、失敗がなくて賢い方法です。中古のものを安く買つて、是れに修繕を加へて用ゆることは經濟的でもあり、且つ家具に狂ひがなくて反つて宜い結果を得ることがあります。門や扉のいかめしいのは住宅として餘り感心しません。成る可く手軽に、工費の要らない解放的のものがよいでせう。

湯殿や便所臺所等に屬する排水設備をも考へて置かねばなりません。費用を惜まず出来るだけ完全に、衛生的にしたいものです。水洗便所を使用する場合には、その汚水淨化装置に一廉の費用を要します。これも充分完全にする必要がありませう。

小鳥の家 その六



十、室の類別

家の種類別については、色々の異つた見解から是れを分類することが出来ます。例令ば間取の形式、即ち中央に入口の有るもの、隅に入口のあるもの、市街地に於ける住宅、田園に於ける住宅、三室四室六室又は八室の小住宅、十室十二室乃至二十室の大邸宅の類です。構造による平屋建、貳階建、獨立して建つもの、貳戸一組のもの、數戸連續するもの、各階居住者を異にする高層のもの、共同住宅の如き、又は價格による千圓住宅、二千圓住宅……一萬圓住宅といったやうな分け方も有ります。その變化は實に無數で、その研究の版圖は無限に連續します。

住宅はその當初に於て明瞭に根本方針を定め、これが研究には務めてその範圍を動かさない事にして置かないと、設計は容易に決まるものではありません。間取の變化は殆んど無數でありますから、次から次へに新しい希望が出て、到底自分では決められないやうな破目に陥ります。二十枚三十枚の間取圖を作つても、尙ほ決定しなかつた實例も珍らしくはありません。今日のやうな住宅

様式の混亂した時代では、それが爲めにも問題が一層複雑となり、迷ひはじめるに際限ないことになるのです。自分の建築せんとする土地の事情をよく観察して、建物の大さ部屋數、形式様式構造材料、支出し得る豫算金額の限度を定めた上、間取に對する根本方針として

- (1) 敷地の何の部分に家を置くか
 - (2) 正面入口を何處にするか
 - (3) 主要な部屋、例令ば居室寢室の如きを、家の何の部分に設けるか
 - (4) 臺所勝手元の位置の方
 - (5) 貳階建ならば階段の置場所
 - (6) 倉庫物置
- 等について間取考案の基礎となるべき主要なる方針を定め、間取研究の上に、成る可くこの方針を動かさないことが必要なのです。

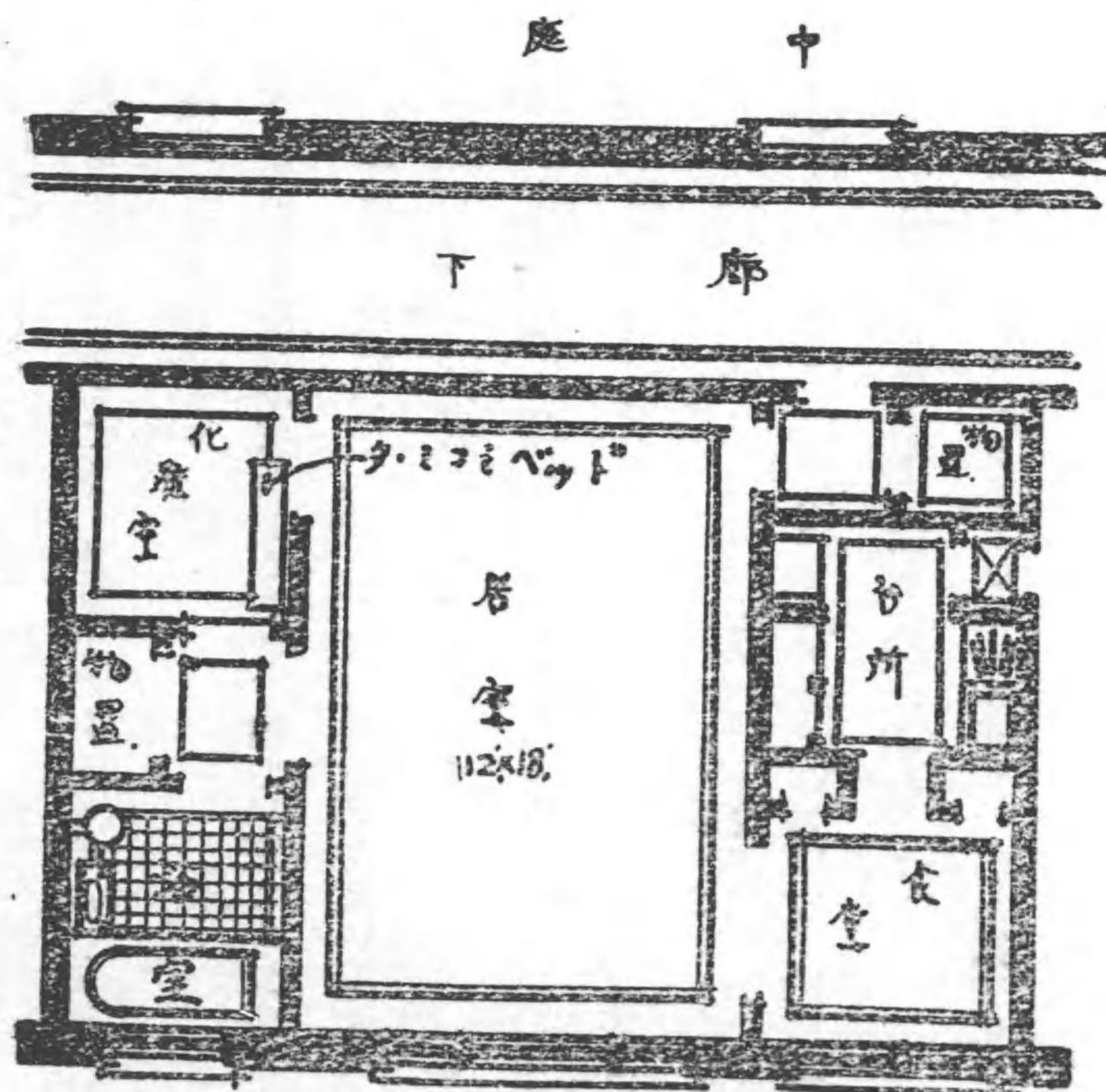
庭園、門、花園菜園果樹園(若し左様いつた餘地があるならば)、井戸物干場等の位置をも初めに豫定して置きたいのです。是等は間取考案に、直接間接みな大なる影響を與へます。比較的狭い土

地、例令へば百坪以内のところでは、何れか家を片寄せて建てる必要はありませんが、餘りに一方にのみ偏するのは、明らかに宜い方法ではありません。通風や採光の點からいつても、家の周囲には相當の餘地が是非欲しいのです。

室の用途を定めてこれを類別すること、即ち居室か食堂か寢室かいつたやうに、その用途を定めて是れに適當な設備を加へることは、間取の考案の基礎となる考へではありますが、由來日本の住宅の習慣では、一般に室の類別が漠然として居ります。たゞ玄關か座敷か勝手かいつたやうな大まかな區別があるばかりで、その構造も簡單で便宜の用途に兼用出来る結果、洋風のやうなはつきりした區別は無いのです。これは日本人の生活が、非常に簡便なところから來て居る結果で、最早東洋人の特色として、必ずしも批難すべき點では無いかも知れませんが、時代の變遷は、最早かやうな漠然たることのみでは押し通されないので。殊に椅子式をとり、洋式家具を家の内に入れるやうになると、是非も或程度の組織的類別が必要となつて來るのです。

クラーク氏は部屋のスペアリジエーション、即ち類別について、次のやうに説いて居ります。「何の程度に、又何故に部屋の類別が希望せられるかを、よく考へてみる要があります。ソロー

一室主義のアパートメント (米國)



は、ワルデンポンドの傍の、たつた一室の家に住んで居つたのです。而して文學上偉大な傑作を生んだ彼の生活が、その一室の中に開展せられたのです。一室以上の家は、彼れの住居の目的としては、全然不用に屬したのです。又パーリーといふ人はそれが臺所もなり居間もなりお客用もなる、たゞ一つの部屋より持つて居ない、スコットランド人のある階級のことを記して居ます。それによるこ部

屋の一方の端をベンと稱し、何の部分よりもそこを上品な席として、そこに座を占めることを「ベンに座する」とし、特別に區別して居るそうです。一つの部屋から始つて、それが次第に區分せられることは、普通の事情の下では、いづれの邦にあつても當然あり得る發達で、ニューヨークランドの臺所の如きもその一例です。それは米國に於ける最初の殖民がしたやうに、主婦が料理もすれば肉も燻し、糸も紡げば布も織るこいつたやうに、無數の仕事をするこ同時に一方では小供を育て、その看護に従事しなければならぬ場合、即ちニューヨークランドの大きな臺所の如きは、凡てこれ等の仕事が一室で間に合ふやうになつて居ます。そこには食卓もあれば兩親の寢臺のあるアルコーヴも有り、その下には小供の寢臺もあつて、凡ての事物が一目で同時に注意せらる、やう、その目的に對しては可能的最有効なもので有つたのです。巾の廣い大きな爐こ、梁の露れた天井は見るからたしかに繪畫的のものです。住宅に現在のやうな多數の部屋が出来た理由は、人が「ベンに座する」こに對して、一層悠然たる暇な時間が出来たこいふこに外はないのです。而してその結果部屋を色々に區分し、長椅子だの机だの書棚だの、ポーチに於けるハンモックだの、朝の部屋だの夕の部屋だのこ、お互に贅澤をするやうになつたのです。家の内の休息

する部分と仕事する部分が分離し、また睡眠する部分が、その何れからも分れることになり、家族の一人々々が次第にその部屋の閑静を要求し、お客がまた其割り當を持つことになつたのです。』かやうに住宅が一室から發達して來たことは、吾が邦に於ても亦同様で、今でも地方の農家の如きは、一室よりないものが可なり多いのです、簡単な農民の生活では、一室で充分間に合ひ、また其方が遙かに便利であるといふことになるので有りますが、生活が幸か不幸か次第に複雑となり、家族の數も増加して、たと一室で萬事の用を足す簡便主義では行かないこととなり、當然是れを幾室かに分ける必要が生じて來るのです。住宅は簡便を以て第一義とすべきことは、その理想としてすでに記したところで、あまりに繁雜な現代の世相や生活に疲れ果てた吾人は、ク氏の記すやうなスコットランドやニューイングランド、さては吾が地方に於ける簡易な農民住宅に、無限の憧憬を感じざるを得ないのです。組織といふことは住宅には必要には相違ないが、私共はそればかりで生きて行くのではありません。そこにはさらはれない自由が望ましいのです。徒らに洋式を模倣するのは愚の極で、間取の設計に於ても、如何にして時代に適應する最簡便な住宅を造るかの點に、特に考慮を費したいと考へます。

二

住宅の部屋割を類別して三つの重要な部分とすることが出来ます。それは

- (1) 居間
- (2) 食堂及び臺所
- (3) 寢室

の三つで、何んな少いさな住宅でも、是非これだけの區分は必要となるのです。第一の居間の部分即ちリビングアパートメントは、ク氏の所謂休息に使用する部分（リージュアポジション）に當るので、更らに是れを少いさく區分するに

- (イ) 女關、(ロ) 廣間、(ハ) 應接、(ニ) 書齋、(ホ) 居室、(ヘ) 喫煙室、(ト) ヴェランダ、

等に分けることが出来ます。併し一般向の少住宅で、かやうに幾つかの部屋を區分するといふことは事實不可能であり、反つて不便此上もないので、主として居室を以て色んな用途を兼ね、それに最適するやうな、位置と設備を與へることを考へなければなりません。是れについて米國の建築

家エル・ユーゼネ・ロビンソン氏は次のやうに注意して居ります。

『普通の家では居室は、實際的に種々なる部屋の用を兼ねるので、色んな設備を持つ要がありません。若し特に書齋といふものが設けられないならば、居室の一部が愉快なやり方で区分せられて机を置き書棚を設け、楽しく読書が出来るやうに仕度いのです。又音楽室が別に造られないならば、居室の壁の一部に特別の注意を拂つて、ピアノミュージックカビネットが置けるやうにしなければなりません。居室は一日の大部分、婦人によつて占められるものでありますから、その一部が普通の裁縫に必要な調度に適するやうに造られねばなりません。それによつて此部屋は、婦人の針仕事部屋ともなるのです。時としては小机即ちライティングデスク又は机兼用の書棚即ちセクレタリーが置かるゝところが望ましいことも有ります。多数の少住宅では、食堂が設計中に入れられずして、居室が食堂の用をも兼ねます。かやうに居室は、色んな目的に使用せられるため、居住といふ言葉のあらゆる意義に適しなければならぬので、その居住者の習慣、及び他の部屋の設備如何によつて、それぞれ相違があるのです。居室は採光と眺望といふ點で、家の最よい分部を占めなければなりません。』

クラーク氏は

『標準となる居室は、朝の使用といふことは極めて稀れです。家族の大部分はたまに朝の訪問客に接したり、又早く朝の仕事を終つて、九時か十時に居室に座ることはあつても、一般にはお晝頃迄は忙しいのが普通です。それは午前の音楽の練習室に利用せられます。また老人の朝の居場所ともなります。午後から夕までは、主婦を中心として全家族の居場所となり、日曜には終日ここに暮すことになります。かやうな意味に於て此室は家の最良の位置をとり、午後の日光を充分に受ける必要があります。その形は四角形または長方形で有り得ます。細長いものだと、二組で使用することが出来ます。暖爐は長い側の壁にあつて、その周圍に大勢が集まれるやうに仕度いのです。隅付の暖爐は、その前面の餘地に乏しい欠點があります。』

上記して、重に使用の實際的方面から注意を與へて居ります。たゞ見掛けや體裁ばかり立派でも、使つて實際自分の家庭に適合しないやうなものは無意義です。一度西洋でものぞいて來なければ、住宅の新らしい設計は出来ないものゝやうに考へる人がありますが、これは大きな間違ひです。私共は正眞の日本人であり、それが日本に於ける住宅の設計をするのに何の支障もない筈です。外國

の建築家に自分の住宅の設計を依頼して得々たる人の如きは、私共はその心事を了解するに苦しむのです。

特に學者か教育家か、一般に比してより多く書籍に親しむ人ではなくとも、餘裕があるならば別に書齋を設くることは望ましい事です。子供等の多い場合は猶更らです。これは玄關からあまり遠くなく、獨立して置かれることを欲します。それは單に書齋といふばかりでなく、主人の居間ともなれば又來客の應接所ともなるので、吾が風習の如く時を撰ばず來訪者のあるところでは、甚だ必要な部屋になります。

居室や書齋に關連して、玄關即ちエントランスポーチ、及び椽側即ちメインポーチのここを考へる要があります。玄關は家の内と外の關門で、大切な場所です。あまりいかめしい造りは何れの場合にも感心しませんが、來客の受付、蝙蝠傘の開閉、下駄や靴の始末等に對する相當の設備、親しみのあるよい感じを與へるものでありたいのです。椽側もか、メインポーチもかヴェランダもか稱せられるものは、居室の一部でエントランスポーチは區別せられるべきものです。カリホルニアバンガローの如き、特に玄關を設けずして、メインポーチが即ちエントランスポーチであり、

それから直ちに居室に入る方法は、簡便で望ましいことではありますが、吾々一般の風習には適しません。普通のメインポーチ或はヴェランダは、明け放し構造ではありますが、その屋根をこつたものをテレースミ稱し、全然硝子障子で圍んだものをサンポーチと唱へます。

比較的居室の狭い場合、殊に夏向には、相當な廣さを有するポーチ或はヴェランダを附屬することは必要なことであり、その外觀に於ても住宅らしい、最親しみのあるよい感じを與へるものです。日本住宅の生命が主として椽側にあるが如く、洋風住宅の住宅らしい趣味が、重にポーチやヴェランダに表現せられるといつてよいのです。實用と趣味を兼ね、住宅にはなくてはならないものゝ一つです。外氣と日光を娛しむといふことの外、喫煙室もなれば談話室もなり、老人や小供の楽しい遊び場所にも利用されます。和式の家では、巾三尺の椽側を普通としますが、これを更らにひろく四尺五寸或は一間としたものは一層便利です。本式の書院造では、部屋の外に巾一間、疊敷の入側をめぐらし、その外に濡椽があります。

サンポーチは用途によつてはスクリピングポーチとも呼ばれます。屋根のないテレースミ、障子で圍まれたサンポーチの中間のものがバーゴラ即ち植木棚です。夏季は葉で日光をさへぎり室内

を涼しくし、冬季は落葉して自由に日光を透します。植木棚は外觀甚だ野趣に富んで面白いのですが、虫の多い欠點があります。植木のかはりに天幕を引くのも、一つのよい方法でせう。

三

第二の食堂及び臺所の部分は、クラーク氏の所謂家の中で仕事をする部分に當るので、同氏は食堂に關し次のやうに述べて居ります。

『食堂は三度の食事の場所ではあるが、朝の食事は別に朝餐室ブレックファストでこるのも有ります。又時として食堂は、居室の一部、針仕事、小供の遊び場、或は讀書室(割合に隔離せられて居る場合)に兼用せられることもあります。嚴重な食堂の意味に於て使用せられる場合、方形を普通としますが、八角形又は橢圓の隅のあるのを理想的とします。東方の光線をうけたいので、居室の次に位するものです。』

ロビンソン氏は

『食堂は人により、晝間よりは寧ろ夜間に多く使用せられるために、その位置が食事のための必

要、即ち居室や臺所配膳室との連絡が便利であることを條件とします。殊に臺所との交通は最大切なことです。或人は此部屋は、日光を充分に受けることを必要とし、その爲めに南向の大きな窓を設けることがあります。此場合にはその大少を論せず、植物の温室を附屬するやうな例が多いのです。』

また臺所に就ては

『臺所は家の内で居室に次で重要な位置を占めるもので、間取考案の場合、先ず居室の位置を定め、次に臺所を定めるのです。臺所の設計に當つて記憶しなければならぬ事は、住宅の生命は貳拾年乃至百年、或はそれ以上も永く續くのでは有りますが、同一の人による臺所の使用といふものは限られたもので、僅々數年以内に根本的の變化を蒙ることがあり得るのです。その理由は運不運といふやうなことで、それは主として下女や下男の増減を意味するのでありますが、家族の増えると共に臺所の仕事の増すこと、及び科學的發明又は一般的意見による臺所に對する考の相違等によるのです。且つ又家の同居者の數が減するといふ事は、家の仕事の上に根本的の變化を生じ得るのです。時には同居者が永久に減つて了つて、嘗つては多人數のために設計せられた家が

ほんの一人か二人の極めて寂しいものになることも有ります。公共的の利用物が變るにつれて、臺所の仕事の模様も變化します。かやうに變化の原因は色々であつて、これに定める譯には行かないのです。臺所は稍コンヴェンショナル即ち世間並に造る方がよいので、一風變つたエクセントリックなやり方は避けたいのです。變つたものは誰れにも適しないやうに、その賣れ口もないことになります。』

記して居ります。

愉快に食事をするといふことは大切なことには相違ありませんが、それのみに大きな特別の室を設けるといふことは少住宅にまつては可なり大きな負擔で、ク氏の記すやうに是非ともその利用、針仕事とか小供の遊び場とか讀書室とか、食事以外の目的用途をも考へる必要があります。普通は居室に置くピアノを食堂に置いて、音楽の練習室に利用した例がありますが、居室にあるよりも一層便利なことも有ります。臺所に附屬して簡単なブルマン型（細長い列車内の食堂に類する型）の朝餐室を設けて食堂を略し、居室の一部をダイニングアルコールヴ（食事場）として兼用するのが少住宅としては最適當な方法ではないか考へます。

臺所の重要なことは申す迄もありません。臺所に附屬して食堂の中間にパントリー即ち配膳室を設け、必要の戸棚や流しお茶の仕度場を設けるのは便利ではありますが、少住宅では務めて食堂の給仕を簡便にする必要上、パントリーを略する例が多いのです。英國風の臺所では、洗ひ物をするスカレリーを調理場と區別して別に設けます。スカレリーは時としては押込の何時でも据付けて用を達すことの出来る浴槽を置いて、浴室の用を兼ねることもなごあります。極めて簡単なコツテジでは、調理場は食堂を兼ねる例が多いのです。簡便といへば最簡便なやり方でせう。調理場さへ清潔であれば、それでも充分間に合ふことだ考へます。臺所に附屬して、必要な肉類その他の食料品を貯蔵する物入や、薪炭置場所、道具入等が考へられなければなりません。和風の家では漬物桶の置場所が何時も問題になります。米國風の家では、臺所の出口にバックポーチ（裏玄関）が有るのが普通で、冷蔵庫の重寶な置場所になります。吾が邦では漬物桶等をかう云つた場所に置けば宜いでせう。

臺所に接續して洗濯場や物干場のことも考へて置かなければなりません。文化住宅なごこ稱する多くのものが、必要な洗濯や物干の場所がなくて困る場合は珍らしくはありません。居間や客室の

鼻先きに見苦しい洗濯物を干して平気で納つて居るなごは、決して感心したところではないでせう。家には必ず相當なバツクヤード(後庭)を置いて、物干の設備をする必要があります。地下室のある場合は、これを便利な洗濯室として利用することが出来ます。

四

第三は安眠の場所即ち寢室であります。これに就てのロビンソン氏の説をあげる。

「寢室は先ず第一に風通しのよい配置をこころがする必要があります。その爲めには出来るならば何時でも壁の二方に窓を設けるのがよろしいのです。天井があまり低くしてはいけません。しかし窓の上と天井との間に間隔が有りすぎるのもよく有りません。上げ下げ窓よりは兩開きの窓の方が望ましいのです。それは窓の全部を開放して充分に空気を通し得るからです。又寢室には押入或は造り附の衣裳戸棚が入用です。近年は各地方に於て、スリーピングポーチが新らしい必要をこころがうになりましたが、この場合には在來の寢室は、寢室といふよりは寧ろ化粧室の用をすることになります。スリーピングポーチは階下よりも二階の方がよろしいのです。何故なれば、空気が地

上を離れる程よくなるからです。その上二階にあるスリーピングポーチは一層靜かで、臭氣や昆虫や、その他の邪魔ものにさらされるこころが少ないのです。此種類のポーチは成るべく三方開いて居る必要があります。風ごか寒暑を適當に調和することが出来るやう、窓ごかスクリーンを要します。その床は船の甲板ごと同じやうに、雨水のしみ込まぬ構造が必要です。

「寢室に接続して小さい化粧室を持つこころは便利です。それは浴室ごも接近しなければなりません。化粧室を最便利なものごするには、造り附けの衣裳戸棚、鏡臺、椅子、鏡及び使用者に最入用な凡ての物を備へなければなりません。浴室に就ては、それが特種の寢室の専用でない限り廣間から入れるやうに設ける要があります。而して其中に置かる、調度は、掃除に困るやうな手の届かぬ隅をつくらぬやう配置しなければなりません浴室の床や壁は出来るだけ防水性のものを要します。タイル張りは最良いが、同時に費用を要することも多いのです。若し浴槽も構造の一部ごしてタイルで張らるゝならば理想的であり、同時に衛生的です。出来るならば床の中央又は一方に寄せて相當水の流れるだけの傾斜を與へ、床面の排水を完全にしたいのです。浴室にはタウル石鹼等を入れる戸棚、色々の意味に於ける藥品棚、及びその他のケース(戸棚)やクローゼツ

ト(物入)を必要とします。浴室の壁の一部にクローズシュート(衣類直送設備)を持つことは便利です。これは凡て衣類その他の汚れたもの、取扱ひが此室に關聯して起るからです。

「寢室用リネンの供給は、何の部屋からも都合のよい位置にその戸棚を置きます。それは洗濯室或は整理室から運ぶにも便利でなければなりません。普通の二階建ではリネンクローゼットは、裏階段の登つた位置に置かれます。また各室から便利な位置に、納戸及びトランク室が置かれます。それは少くともよいから離れた位置よりも、手近かな方が望ましいのです。

「寢室に附屬して、ある時期は補習室として使用し、小供が成長するにつれ小供室となるやうな部屋を一室設けるのはよい考へです。出来るならば小供用として日當りのよい、浴室にもスリーピングポーチにも都合よく、出られる位置の部屋が欲しいのです。出入口や窓から寒いドラフト(風)の來ないやうに注意がしたいのです。室内は小供の空想を娛ましめるやうな、小形の家具や裝飾品を必要とします。階下の寢室にすぐ接して設けるのも適しい考へです。」

更らにクラーク氏の意見を附け加へるに

「寢室に就て重要なことは、各調度が必要な光線と場所を持つことです。眠つて居る人の眼が窓に面してはなりません。鏡臺を使つて居る人の顔が、側面から又は前面から光線に直射されなければなりません。電燈にしても同じことです。またクロスヴエンチレーション即ち部屋の二方に、成る可く多くの窓を持つことが必要です。ドラフトは吾々のお祖父さんやお祖母さんが考へて居つた程致命的のものではありません。

「スリーピングポーチは過去十年の経験であつて、未だ完了には達して居ないものです。それは一年の大部分望ましいものには相違ありませんが、鏡臺が雨に濡れるやうでは困るのです。このことは或る季節には避けられないことです。ある地方では雨が殆んど一定の方向からのみ降りつけて、他の向からは來ないことがあります。かういつた地方で雨を防がうとするならば、その方向だけ密閉せられるやうに窓を設けることです。かうなるミスリーピングポーチが一方又は全部硝子障子で仕切られたこととなり、問題が積極の解決を得た譯です。

「寢室と浴室の巧妙な組合せは、色々に出來ます。普通の大きな家では、二室を組合せ、これを浴室で連結する方法が行はれます。元より各室が、それぞれ專屬の浴室を持つことは望ましいのですが、實際左様は許されません。浴室の出入口が、左右二室に通じて更らにホールに向つても

第三の戸を持つこいふことは避けたいのです。少なくとも其内の一つはロックする必要がありません。二方に戸を持つ目的は、組で交互に使用するためです。家の内で一ヶ所より浴室のない場合は、戸は勿論一ヶ所に止めます。浴槽は壁や床に密着して、リセスに造り附けのものが最良です。それはシャワールームもなります。便所トイレット浴室を区分することは望ましい事ではありませんが、各室が各浴室を持つやうな場合には、それ程必要なことではありません。二階建の場合には階下に便所を要します。それは色々の點から、裏口に近いことが必要です。

「各室には充分の大きさの衣裳入を要します。三呎に六呎の大きさが最良らしく、六呎の側に戸を設けます。多数は二呎に五呎、又は二呎に三呎が多いのです。造りつけの衣裳戸棚の普通の押入に優る利益は、衣裳が容易に見え且つ取り易いことです。巾は六呎を要し下部は靴棚が引出しとしその上に衣裳掛があり、更らに上に帽子棚があります。それは普通の物入の戸よりも餘計に壁の面積をこり、それが充分にきれいな場合が多いのです。又寢室用のリネンクローゼットが無ければなりません。是れは時には造り附けの戸棚となつて、各寢臺に對する別々の棚を持つこもあります。二階家では、階上に箒やその外の掃除道具を入れる物入、及び汚れた衣類を洗濯場に送る

シュートが望ましいのです。」

五

洋式住宅に於ける寢室及び是れに附屬する浴室、物入等に關しては、以上ロ氏並にク氏の記述によつて大略了解せられたこ、信じます。元より風俗習慣に多大の相違のある私共日本人の住宅として、寢室は必ずしも洋風と一様には論ぜられないのです。しかし家として、その寢室を完備するこが最重要なりとする點は、和洋を問はず間違ひのないこです。現在行はれて居る多数の住宅では、居室や食堂の洋式に對し、寢室は依然として疊敷が多いのです。これは日本人が寢臺の上に眠るこに適しないこいふこではありません。在來の習慣は勿論のこ、割合に狭い家で、室を色々の用途に兼用する經濟上の理由からも來て居るこ、考へます。各種の事情から考へて、夜具一つの上げ下しで、何うにでも部屋が利用せられる現在の簡便主義は、一般には容易に捨てられさうにはありません。

二階に浴室を設けるこは、普通の構造では工費の點から、また實際の使用上からも困難です。